Past and Future of Integrated Circuits Technology

May 5, 2009

@University of Manchester

Hiroshi Iwai,
Tokyo Institute of Technology

Founded in 1881, Promoted to Univ. 1929

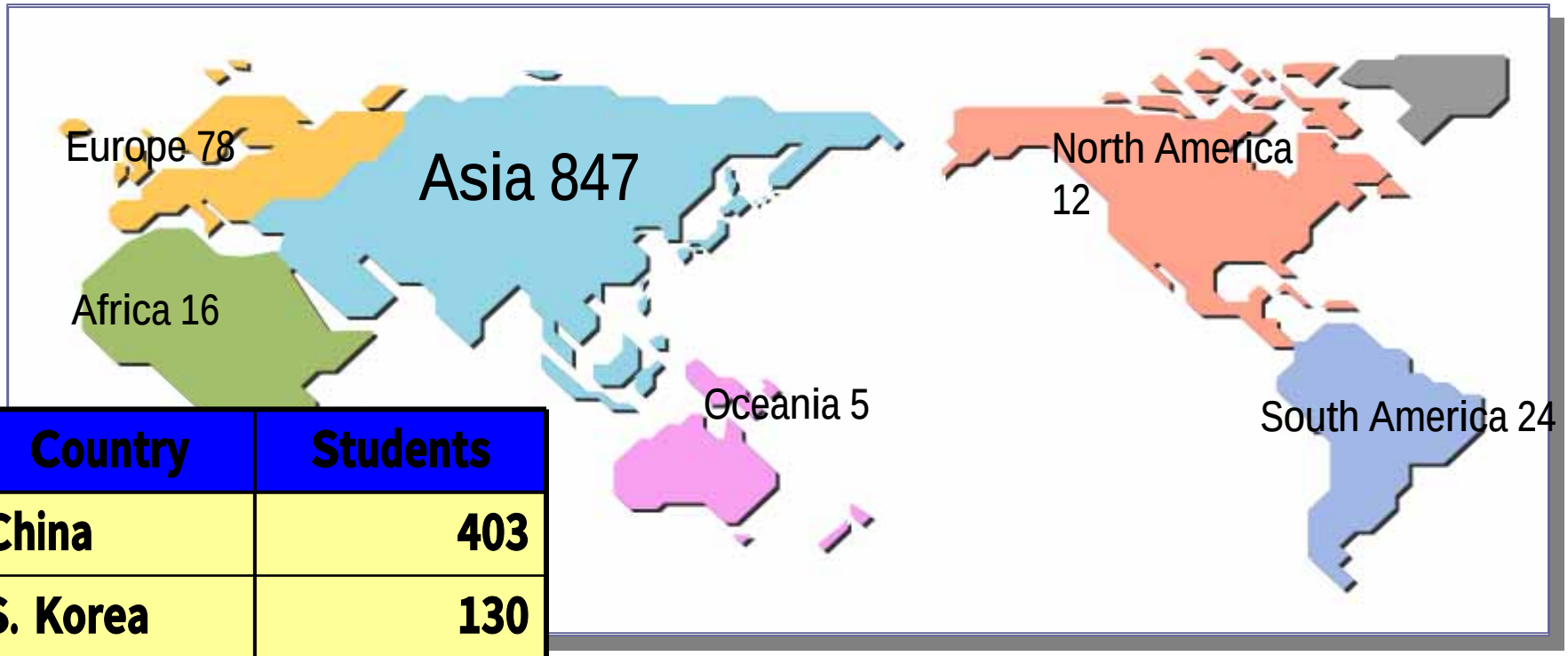
Tokyo Institute of Technology

Promoted to Univ. 1929

Income	371M $
Sponsored Research	100M $
Employee(incl. Faculty)	1770
Faculty	729
Graduate student	4903

Year 2003

International Students



Country	Students
China	403
S. Korea	130
Indonesia	64
Thailand	55
Vietnam	60
Malaysia	28

Total 982

(As of May. 1, 2005)

Organization of Tokyo Institute of Technology

Schools

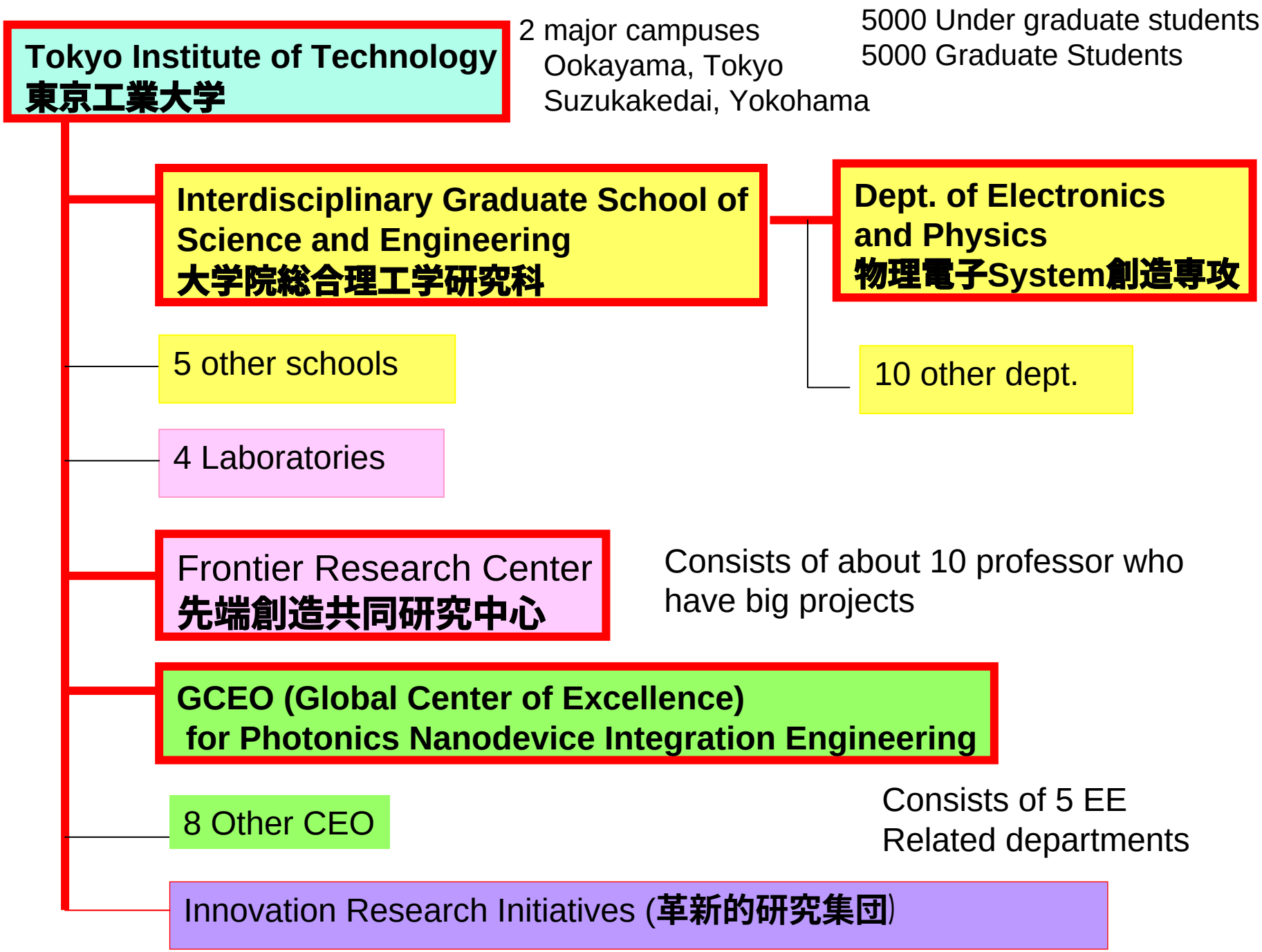
- School of Science
- School of Engineering
- School of Bioscience and Biotechnology

Graduate Schools(G.S.)

- G.S. of Science and Engineering
- G.S. of Bioscience and Biotechnology
- Interdisciplinary G.S. of Science and Engineering
- G.S. of Information Science and Engineering
- G.S. of Decision Science and Technology
- G.S. of Innovation Management

Research Laboratories

- Research Laboratory of Resources Utilization
- Precision and Intelligence Laboratory
- Material and Structures Laboratory
- Research Laboratory for Nuclear Reactors


Tokyo Institute of Technology
東京工業大学
2 major campuses
Ookayama, Tokyo
Suzukakedai, Yokohama
5000 Under graduate students
5000 Graduate Students
Interdisciplinary Graduate School of Science and Engineering
大学院総合理工学研究科
Dept. of Electronics and Physics
物理電子System創造専攻
10 other dept.
5 other schools
4 Laboratories
Frontier Research Center
先端創造共同研究中心
Consists of about 10 professor who have big projects
GCEO (Global Center of Excellence) for Photonics Nanodevice Integration Engineering
8 Other CEO
Consists of 5 EE Related departments
Innovation Research Initiatives (革新的研究集団)

岩井研メンバー

(2009年04月1日現在)

教授
岩井洋

准教授(共同研究)
筒井一生

客員教授
服部健雄

特任教授
名取研二

連携教授
杉井信之

連携教授
西山彰

助教
Parhat Ahme

助教
角嶋邦之

博士研究員

ﾐﾗﾝ･ﾍﾞﾗ

博士課程

D3
佐々木雄一朗

D3
ﾍﾝﾄﾞﾘｱﾝｼｬｰ･ｻｳｯﾃﾞｨﾝ

D3
下村浩

D3
宋在烈

D3
舘喜一

D2
川那子高暢

D2
佐藤創志

D2
冨田隆治

D1
Maimaitirexiati Maimaiti

D1
Abudukelimu Abudureheman

D1
幸田みゆき

筒井研 D3
小林勇介

修士課程

M2
新井英朗

M2
李映勲

M2
中山寛人

M2
船水清永

M2
細田亘

M2
又野克哉

M1
ﾀﾘｳｽ･ﾊｻﾝｻﾞﾃﾞ

M1
Mokhammad Sholihul Hadi

M1
小柳友常

M1
小澤健児

M1
神田高志

M1
澤田剛伸

M1
茂森直

M1
向井弘樹

筒井研 M2
横田知之

筒井研 M2
星野憲文

筒井研 M2
横手義智

学部

B4
来山大祐

スタッフ

松本昭子

辛川美琴

西澤　正子

岩井研究室 ~Iwai Lab.~

ご挨拶

Welcome to Iwai Lab.

総合理工学研究科　物理電子システム創造専攻　岩井研究室

当研究室では、シリコンをベースとした集積回路のデバイス技術、特に素子超微細化や集積回路限界の探査、研究や、新材料や三次元トランジスタ構造のシリコン集積回路への導入を行っています。さらにエマージング技術としてゲルマニウムやCNT(カーボンナノチューブ)デバイスの検討などを行っています。

LSI (Large scale Integrated Circuit,大規模集積回路)の最初の製品とみなされるIntelの1k bit DRAMが製造されてから30年近くになりますが、この間にLSIは実に長足の発展を遂げ、高度な計算を行い動作や情報を制御する中枢部品としてありとあらゆる機器に用いられるようになってきました。

最近のMobile Telephone, Mobile PC, ひいてはインターネットの爆発的な普及も軽量、小型、低消費電力で極めてきたことによるものです。

今後更にこの文明飛躍的な発展を遂げて、近い将来人間の知性、感性の機能を代行する機器が出現することが大いに期待されます。

これはこれからの高齢化社会で予想される労働人口不足、老人介護人口不足などの状況のもとで、各人が平等にある程度以上の生活レベルを教授できるためには行く行くは超えなければならないハードルであると考えますが、何れにせよこれを実現するためには現状のものから何桁も性能の高い機器の実現が必要であると考えられており、まずはハードとしてのLSIの発展が今後何十年かにわたって継続していくことが必要条件のひとつとも考えられています。

さて、LSIの発展はトランジスタを中心としたLSI中の素子の縮小化によってなされてきましたが、トランジスタの縮小化の限界がどこにあるかが重要な疑問としてクローズアップされてきます。この流れが今後も続くとすると2005年頃にはゲート長が30nmとなり、更に今世紀の半ばにはゲート長はシリコン結晶中の原子の間隔である0.0003μm(即ち3Å)となる計算となります。この寸法辺りが原子を用いてトランジスタを形成する限りにおいて究極的な限界と考えられますが、このようなゲート長のトランジスタが動作するかどうかは甚だ疑問であると思われており、経済的要因からはもう少し大きいところとも言われています。

研究テーマとしてはCMOS LSIの素子微細化の限界を見据えて、今後のLSIがハード、ソフトの両面から継続して発展していくためにはどういう技術を開発していくべきかを考えつつ、まずは微細シリコントランジスタ微細の特性研究、微細化限界とその打破 (高誘電体ゲート絶縁膜などの新材料の導入、構造の改良等など) の研究などから手を染めていきたいと考えています。またその後のポストスケーリング時代に対応した、エマージング技術として、ゲルマニウムやシリコンナノワイヤートランジスタ、CNT(カーボンナノチューブ)デバイスの研究を行っていこうと思っています。また、成果をできるだけ広く産業界に使っていただき、社会に貢献すること目指しており、産学連携と国際協力を研究の基本としています。

国際連携先： グルノーブル工科大学、LETI(フランス)、台湾交通大学
他多数

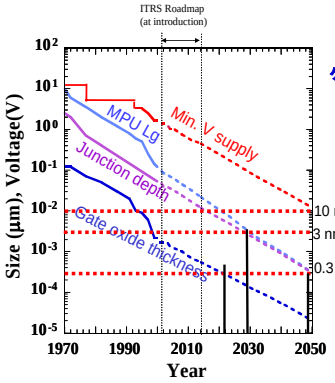
産学連携： SELETE、東芝、日立、アルバック、アルバックファイ、UJT

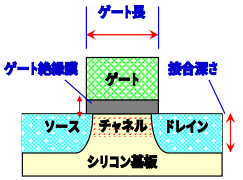
最近の研究テーマ

Siデバイスの重要性

現代社会：生産、金融、運輸、医療、行政などの社会機構
インターネット、i-mode、Bluetooth、携帯電話、カーナビ、
ゲーム、自動車、航空機、製造装置などの全ての機器、
CD、DVDなどの

Si集積回路による管理・制御無くしてこれらは有り得ない





10 nm Wave length of electron
3 nm Direct-tunneling limit in SiO_2
0.3 nm Distance between Si atoms

ULTIMATE LIMIT

近年のSiデバイスの驚異的な発展

数千万個－数億個のトランジスタ集積
MPUのクロック周波数　3GHz
SiGeバイポーラのf_T300GHz以上

微細化の重要性

素子の微細化　(100年間で100万分の1に！)

1900	1950	1960	1970	2000
真空管	トランジスタ	IC	LSI	ULSI
10 cm	cm	mm	10 μm	100 nm

微細化:

キャパシタンス減少 → 消費電力減少 高速化

高集積化 → 多機能化、並列処理 → 高速化

→ 機能、速度あたりのコスト、電力削減

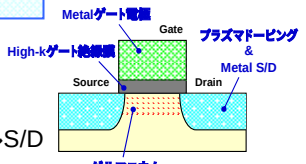
微細化限界打破の手法

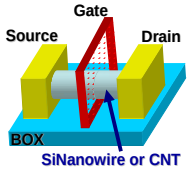
①**新材料**　high-k/metal ゲートスタック構造
異種新材料の導入による新しい展開の可能性

②**新プロセス**　プラズマドーピング技術、メタルS/D
技術的なブレークスルーが期待できる新しいプロセス

③**新構造**　SiNanowireトランジスタ
超高速、高密度、機能化デバイスの実現

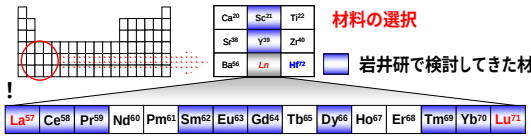
④**エマージング技術**　GeMOSFET、CNTデバイス
Siデバイス・Si集積回路との融合

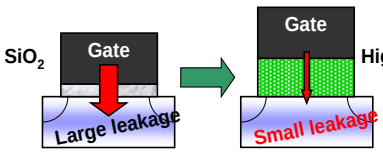




High-k/metalゲートスタック

直接トンネル電流は低く、実効ゲート容量は大きく！





誘電率(κ)の高い材料： ZrO_2 HfO_2 La_2O_3

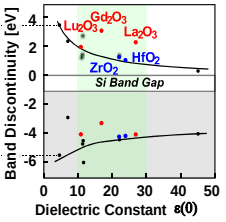
HfO_2が主流であるが、界面層成長、相分離などの問題があり、EOT<1nm以下の薄膜化は中々難しい状況

次世代ゲート絶縁膜材料として

$$C_{ox} = \frac{\varepsilon_d \varepsilon_0}{t_{ox}} = \frac{\varepsilon_{SiO_2} \varepsilon_0}{EOT} \Rightarrow t_{ox} = \frac{\varepsilon_d}{\varepsilon_{SiO_2}} EOT$$

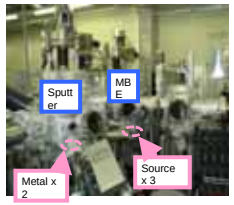
La_2O_3に注目

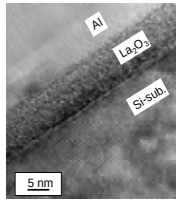
XPS measurement by Prof. T. Hattori, INFOS 2003

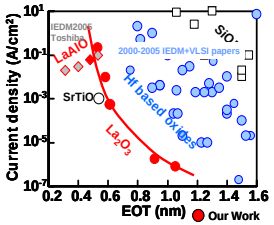


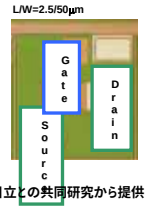
La_2O_3

EOT=0.5 nmでもリーク電流の抑制が可能である

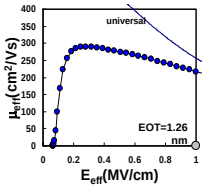




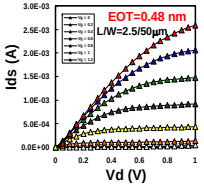




日立との共同研究から提供



高い移動度が得られる

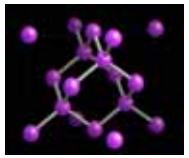


低EOTを実現

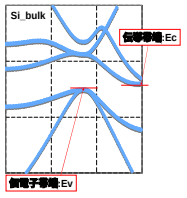
第一原理計算

実験値を使うことなく計算により物質の状態がわかる

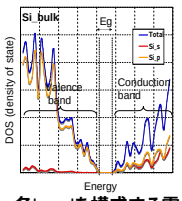
実験結果を裏付ける理論計算



Single crystal (Cubic structure)



バンドの構造が求まる



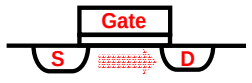
各bandを構成する電子の軌道がわかる

GeMOSFET

高移動度チャネル材料の必要性

ゲート長縮小の限界 ソース-ドレイン間の漏れ電流増加

$$I_{ds} = \frac{W}{L}\mu_{eff}C_{ox}\frac{1}{2}(V_g - V_{th})^2$$



L_g<5nm?

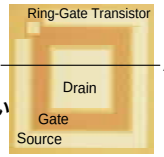
	μ_e[cm²/Vs]	μ_h[cm²/Vs]
Si	1400	450
Ge	3900	1900
GaAs	8500	400
InP	4600	650

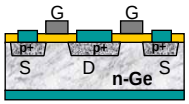
Geトランジスタのゲート絶縁膜

GeO_2は
①高温熱処理で分解
②水溶性（ウェットプロセス不可能）
③比誘電率が低い
→良好なトランジスタ特性が得られない

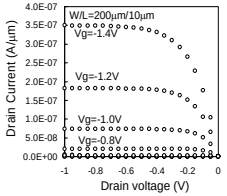
high-kをGeトランジスタのゲート絶縁膜として使おう!

W/La_2O_3/Ge p-MOSFET





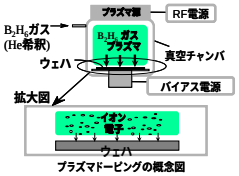
Self-align Process



トランジスタ動作確認

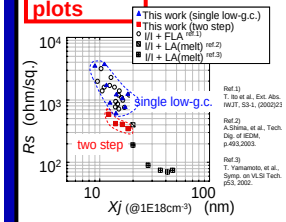
Plasma Doping

プラズマドーピング法の概念

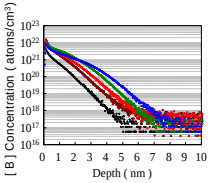


世界最小の接合深さを実現

Rs-Xj plots

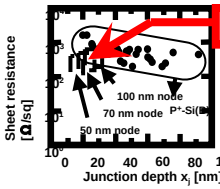


as-doped B Profile



Metal Source/Drain

● Source/Drain領域のスケーリング



Metal Source/Drainが望ましい

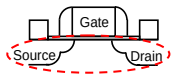
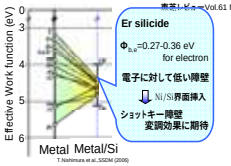


Fig.1 Sheet resistance vs.junction depth.

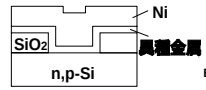
利点
- 浅い接合形成が容易
- ソース/ドレイン低抵
- 短チャネル効果耐性が高い

欠点
- ショットキー障壁による駆動電流の劣化

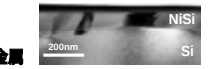
Schottky障壁の制御が必要

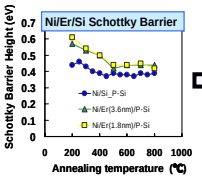


異種金属界面挿入

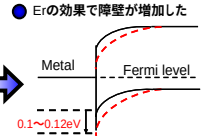


Ni/Er(3.6nm)/p-Si, 500°C TEM



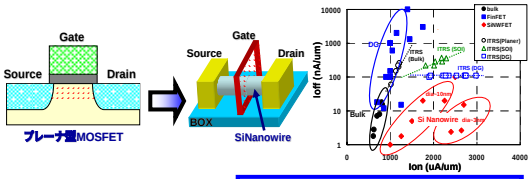


● Erの効果で障壁が増加した



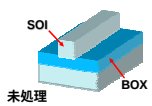
Pt、Bも検討中

SiNanowireトランジスタ

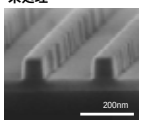


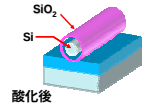
Nanowire型トランジスタ (1次元量子効果デバイス) → 短チャネル効果抑制 低電圧で高い駆動電流を実現

- Volume Inversion → 反転電子密度の増加
- 1次元伝導の発現 → 量子化コンダクタンス
- エネルギーバンド構造 → 間接遷移型から直接遷移型 Egの増加

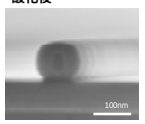


未処理





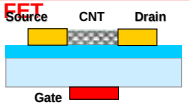
酸化後



◎ワイヤ径の最適化、界面の制御
◎SiナノワイヤFETの作製

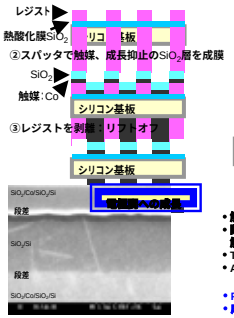
CNTデバイス

CNTを利用したFET



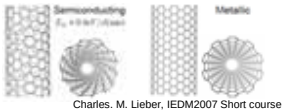
通常は基板垂直 or ランダムに成長

CVD法で成長させたCNTを利用するには基板水平方向に成長させる必要がある



なぜカーボンナノチューブなのか

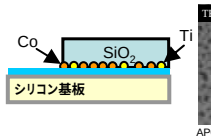
- 無散乱輸送：高速動作
- 高い電流駆動能力 → 高速動作
- 電子と正孔で全く同じ移動度 n-chとp-chで同じ特性 → CMOSに有利

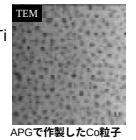


Charles. M. Lieber, IEDM2007 Short course

Semiconducting なCNTを成長させる必要がある

◎アークプラズマガン(APG)で触媒成膜を行うことで、2〜5nmの粒子を作製
◎上からSiO_2を成膜し、断面に出たCo粒子のみでCNTを成長
◎Co成膜時の凝集を制御するためTiを少量成膜





APGで作製したCo粒子

- 触媒を断面に出す構造 → 基板と平行方向へCNTが成長
- 断面から出す触媒は、狭い径との同時成膜が、粒子状が良い。触媒のみの膜で成膜すると剥がれてしまう。
- Tiがあったほうが成長し易い。
- APGのCo粒子径に依存したCNTが成長

- FET特性の評価
- 成長密度、特性の制御

ナノエレクトロニクスの最前線

Frontier in Nanoelectronics

プロジェクト名：グリーンナノエレクトロニクスデバイス創製の研究

フロンティア研究センター　岩井研究室

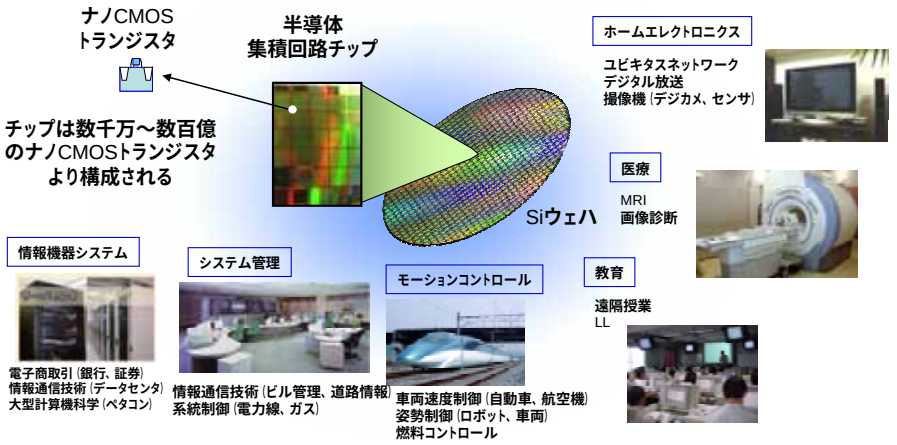
概　要

シリコンをベースとしたCMOS集積回路(LSI)は現代情報技術社会を支える極めて重要な技術であるが、その発展は、集積回路の最小構成ユニットであるSi電界効果トランジスタ(Metal Oxide Semiconductor Field Effect Transistor : MOSFET)の素子寸法を縮小する"微細化"によってなされてきた。しかしながら、現在の集積回路技術では近い将来その微細化限界に達するため、「新しいナノエレクトロニクス技術」の開発によって情報技術社会のニーズに答えることが必要である。岩井研究室ではこのような観点から将来の情報技術社会を支えるための新材料・新プロセス・新構造を用いたナノエレクトロニクスの技術開発を行っている。「新しいナノエレクトロニクス技術」の開発により将来、世の中のシステムの大幅な省エネ化が可能となり、「グリーンIT」「クールアース」技術に大きく貢献することが期待される。

（プロジェクト名：グリーンナノエレクトロニクスデバイス創製の研究）

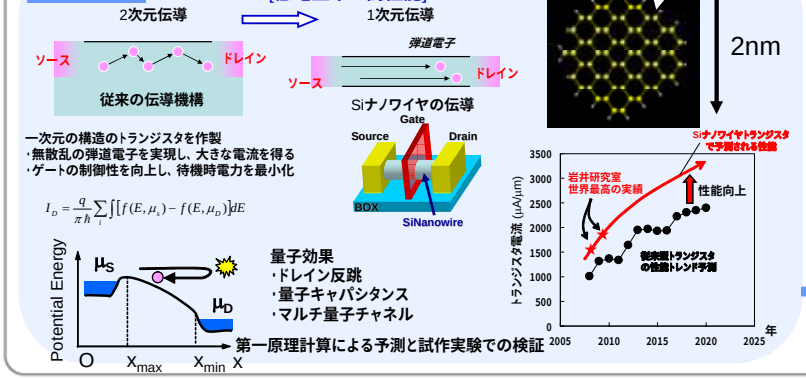
現代社会ではナノエレクトロニクス技術が不可欠

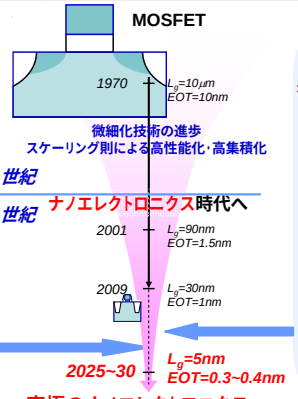
「新しいナノエレクトロニクス技術」の開発により省エネ化に大きく貢献
→グリーンIT，クールアースの重要技術



新構造

S|ナノワイヤFETによる性能向上と省エネ化
[低電圧下で高性能]

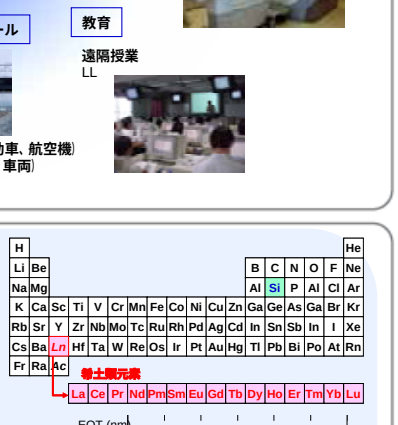




新材料

希土類高誘電率ゲート絶縁膜の導入
による高性能化と省エネ化
[低電圧下で高性能]

希土類酸化物による直接接合
・<0.5nmの酸化膜換算膜厚(EOT)の達成
・ゲートリーク電流の抑制
・高い移動度の実証



計算機科学と実デバイスから材料物性の把握

We are developing new nanoelectronics technologies or '***Green Nano-Electronic Device Technologies***' for the energy saving of our human society. Microprocessors (MPU) made by nano-CMOS transistors are the key components of the power saving of every human system. In order to increase the performance and to decrease the power consumption of MPUs, downsizing of CMOS transistors is essential. For the 'ultimate downsizing' of the CMOS transistors, we are developing new structures and new materials. Si-nanowireFETs, and Rare earth oxides, are examples for new structures and new materials, respectively.

Interdisciplinary Graduate School of Science and Engineering

大学院総合理工学研究科

J2 Building:

Frontier Collaborative Research Center（FCRC）
先端創造共同研究中心

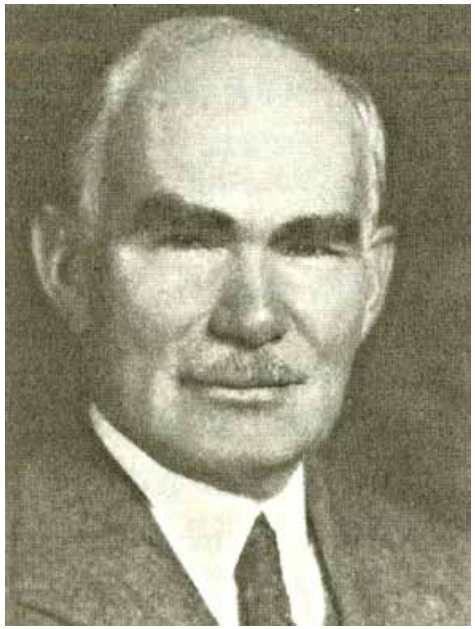
- There were many inventions in the 20th century:

  Airplane, Nuclear Power generation, Computer,

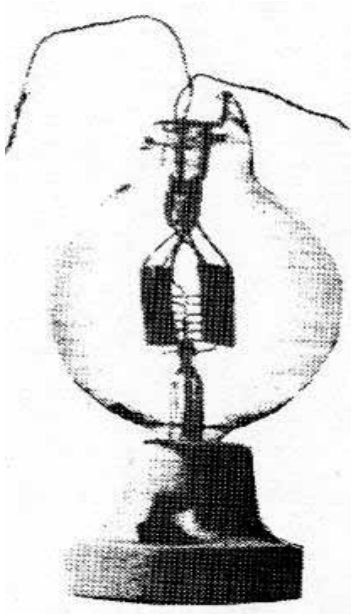
  Space aircraft, etc
- However, everything has to be controlled by electronics
- Electronics

  Most important invention in the 20th century
- What is Electronics: To use electrons,

  Electronic Circuits

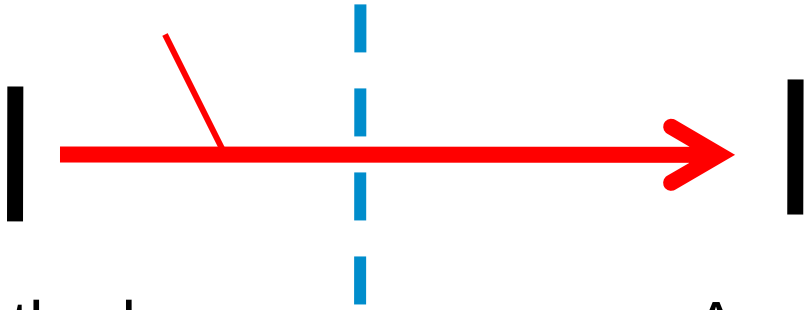


Lee De Forest



Electronic Circuits started by the invention of vacuum tube (Triode) in 1906

Thermal electrons from cathode controlled by grid bias



Same mechanism as that of transistor

4 wives of Lee De Forest

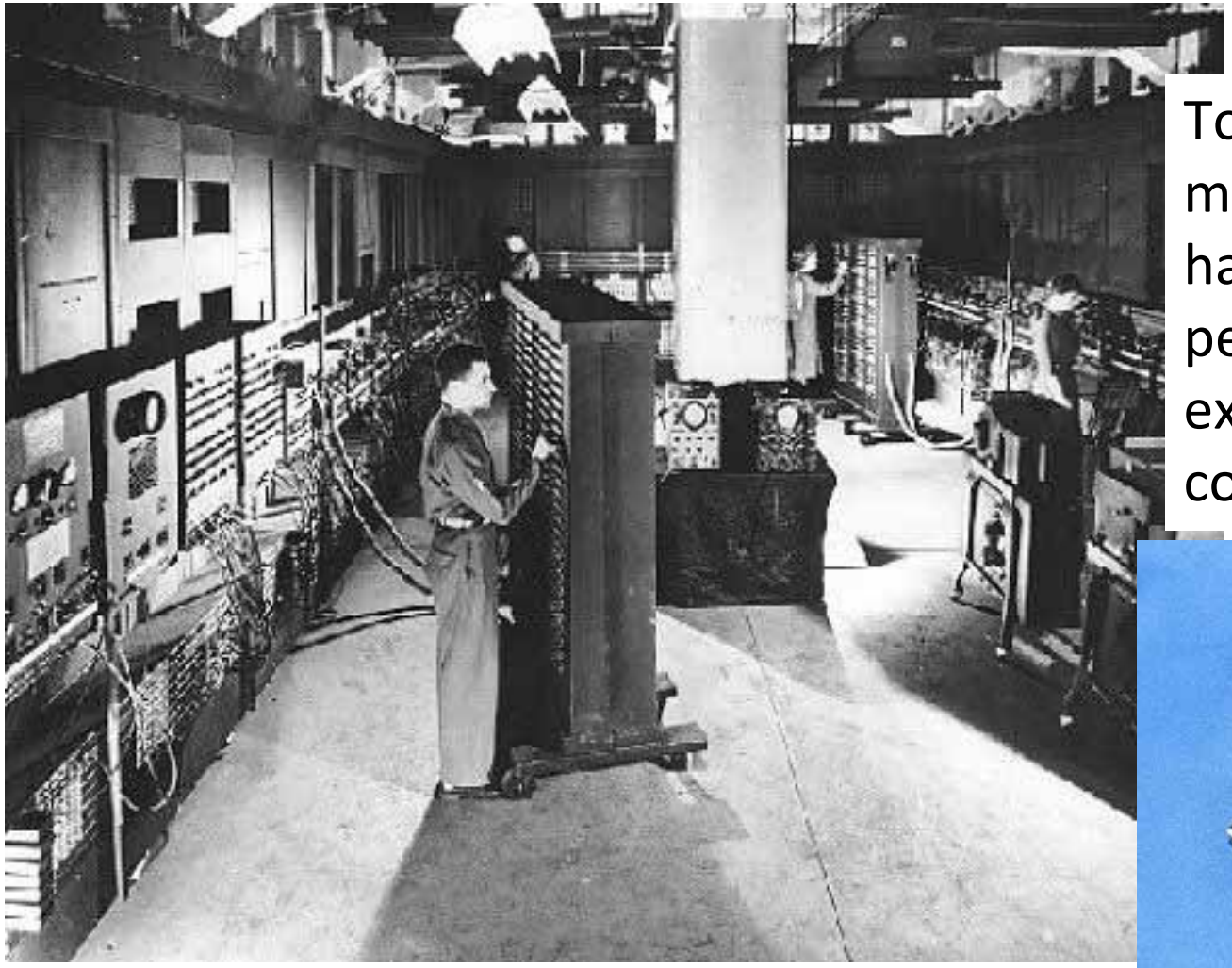
1906 Lucille Sheardown
1907 Nora Blatch
1912 Mary Mayo, singer
1930 Marie Mosquini, silent film actress

Mary

Marie

First Computer Eniac: made of huge number of vacuum tubes 1946
Big size, huge power, short life time filament

→ dreamed of replacing vacuum tube with solid-state device



Today's pocket PC made of semiconductor has much higher performance with extremely low power consumption

History of Semiconductor devices

1947, 1st Point Contact Bipolar Transistor:
Ge Semiconductor, Bardeen, Brattin
→ Nobel Prize

1948, 1st Junction Bipolar Transistor,
Ge Semiconductor, Schokley
→ Nobel Prize

1958, 1st Integrated Circuits,
Ge Semiconductor, J.Kilby → Nobel Prize

1959, 1st Planar Integrated Circuits,
R.Noice

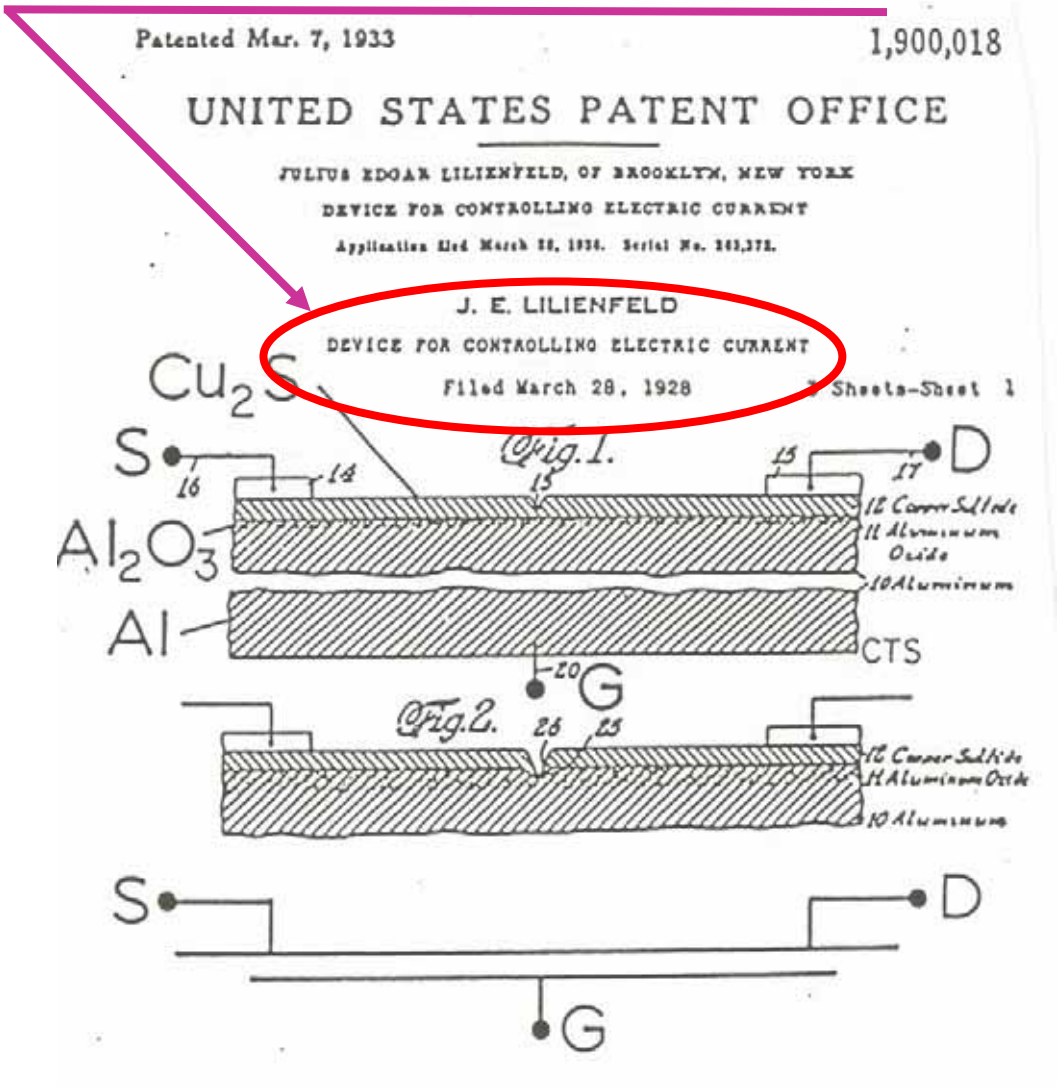
1960, 1st MOS Transistor, Kahng,
Si Semiconductor

1963, 1st CMOS Circuits, C.T. Sah and F. Wanlass

J. E. LILIENFELD

DEVICES FOR CONTROLLED ELECTRIC CURRENT

Filed March 28, 1928



Patented Mar. 7, 1933 1,900,018

UNITED STATES PATENT OFFICE

JULIUS EDGAR LILIENFELD, OF BROOKLYN, NEW YORK

DEVICE FOR CONTROLLING ELECTRIC CURRENT

Application filed March 28, 1928. Serial No. 263,372.

J. E. LILIENFELD

DEVICE FOR CONTROLLING ELECTRIC CURRENT

Filed March 28, 1928 2 Sheets-Sheet 1

Cu_2S

S

D

Al_2O_3

Al

CTS

G

Fig. 1.

Fig. 2.

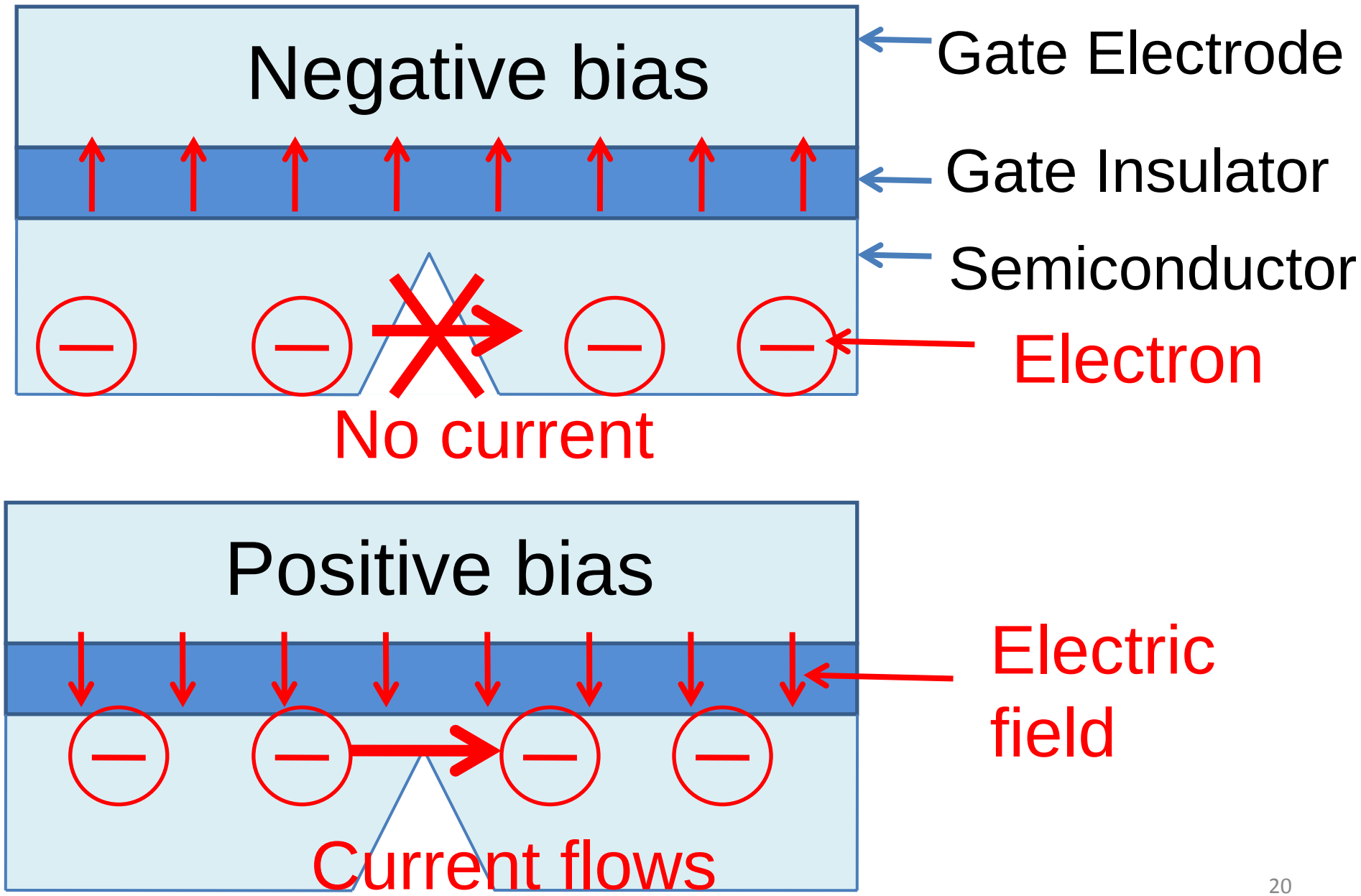
S

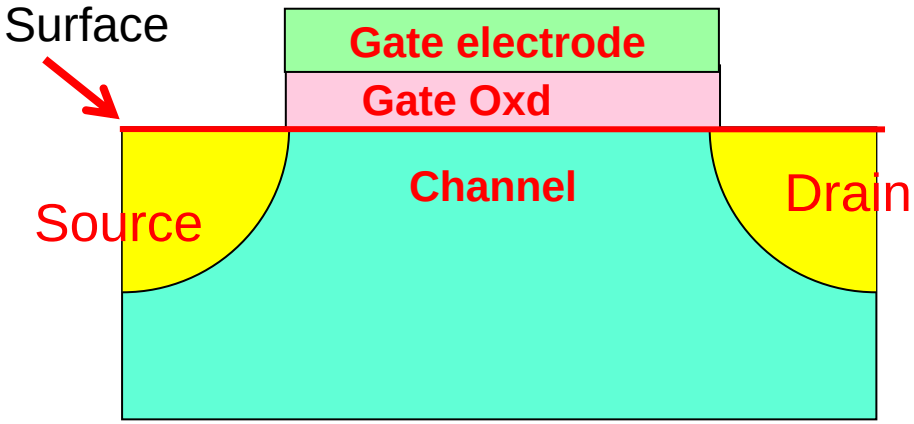
D

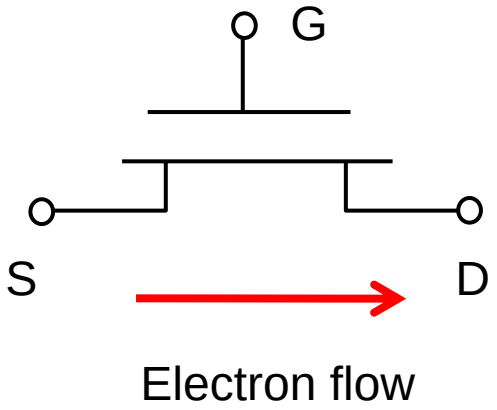
G

J.E.LILIENFELD

Capacitor structure with notch

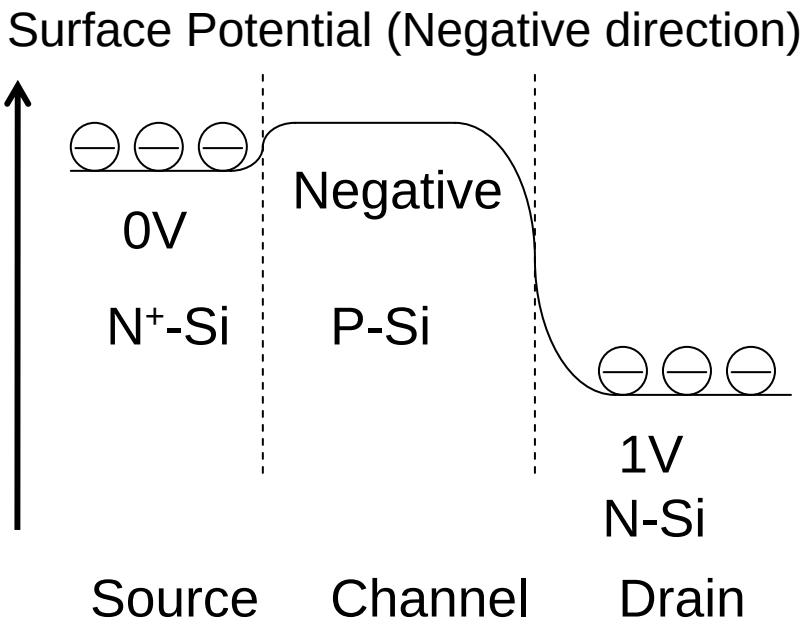


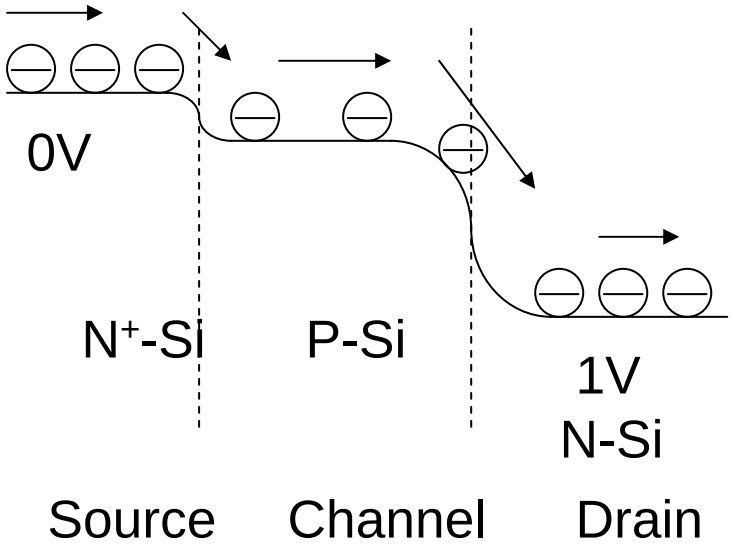




0 bias for gate

Positive bias for gate



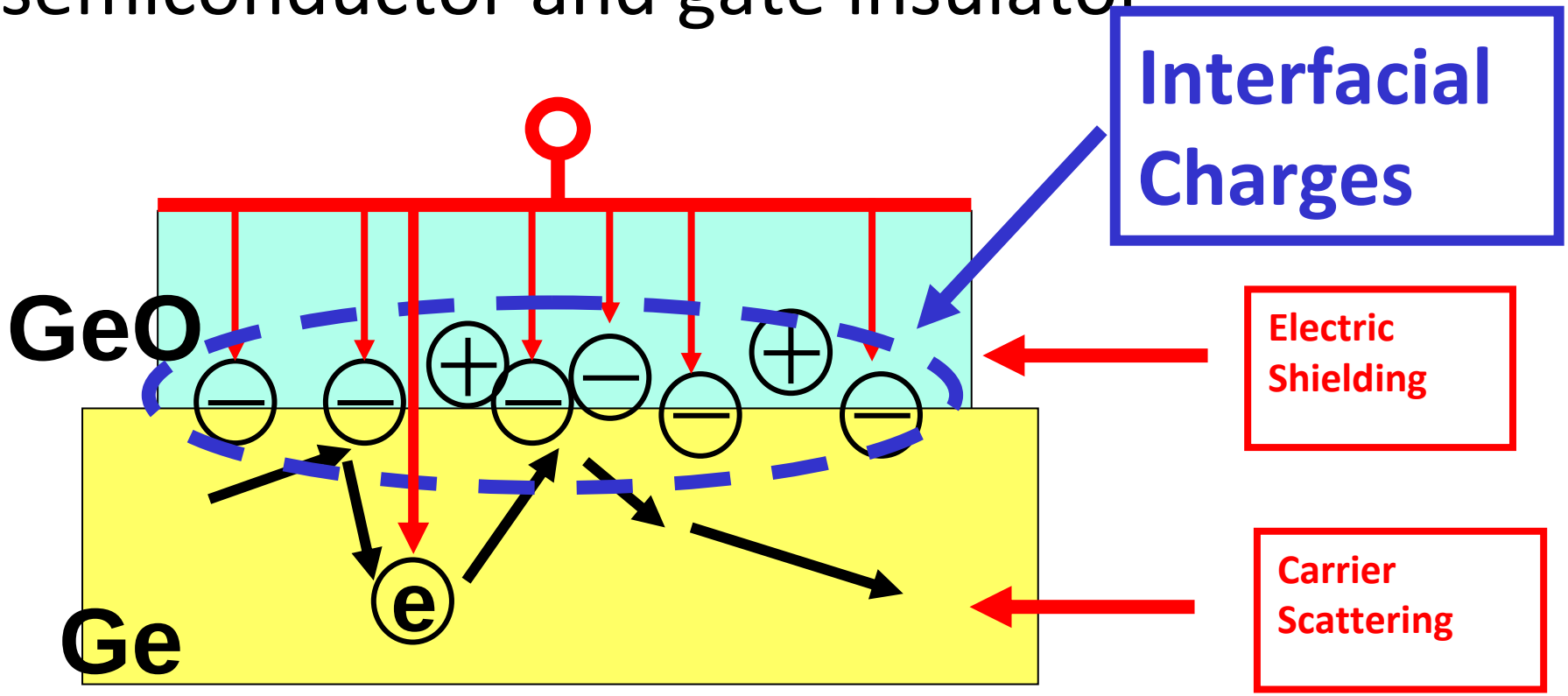


However, no one could realize MOSFET operation for more than 30 years.

Because of very bad interface property between the semiconductor and gate insulator

Even Shockley!

Very bad interface property between the semiconductor and gate insulator



Drain Current was several orders of magnitude smaller than expected

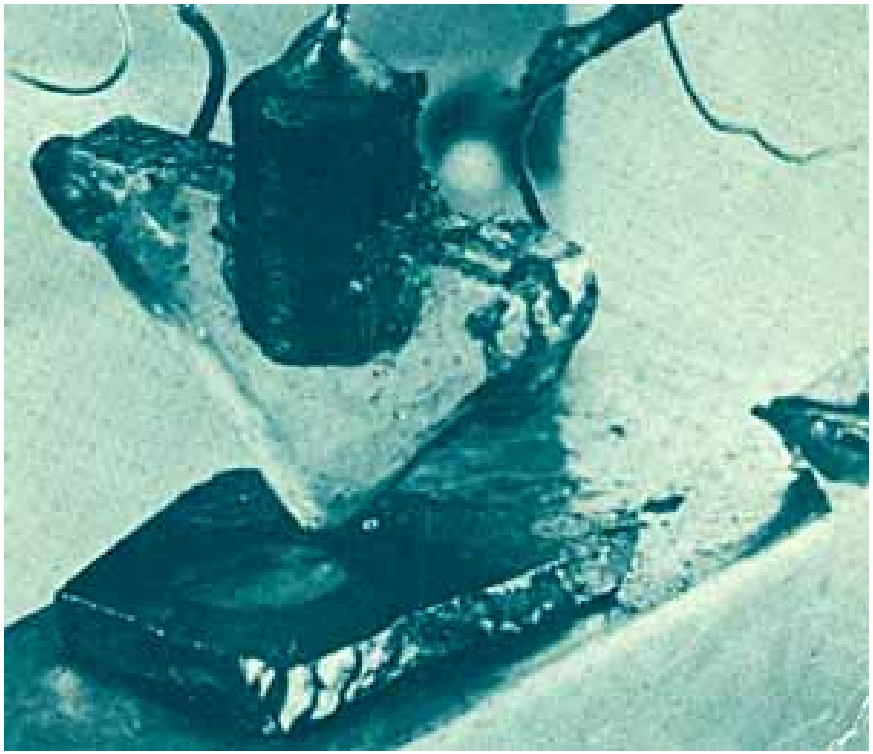
Even Shockley!

However, they found amplification phenomenon when investigating Ge surface when putting needles.
This is the 1st Transistor:
Not Field Effect Transistor,
But Bipolar Transistor (another mechanism)

1947: 1st transistor

J. Bardeen W. Bratten,

W. Shockley

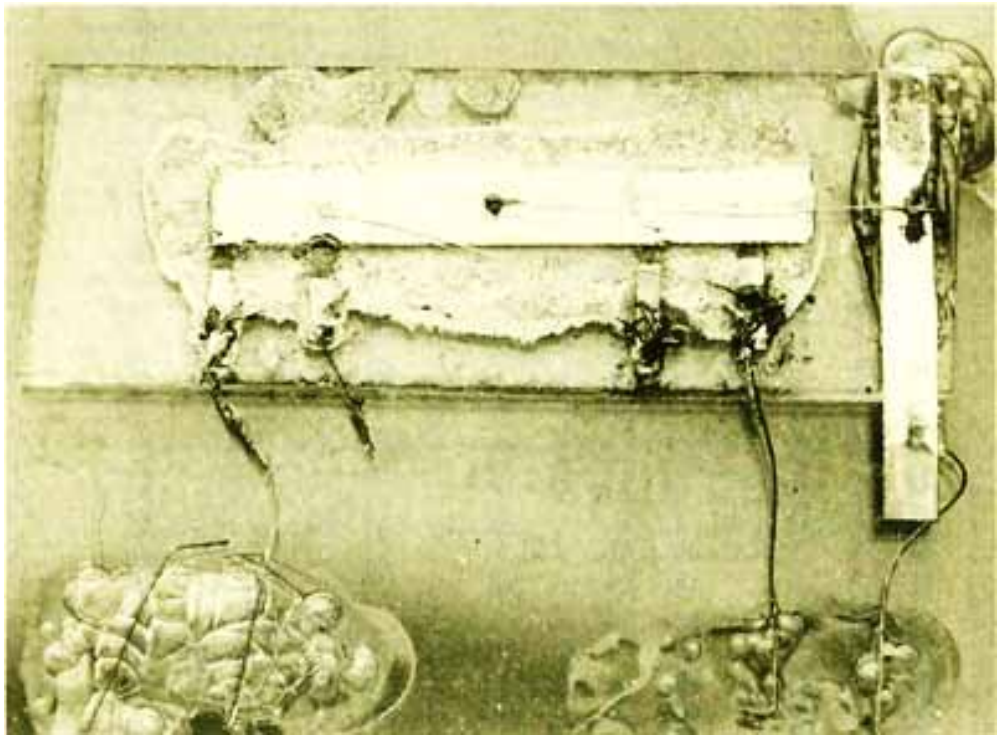


Bipolar using Ge

1958: 1st Integrated Circuit

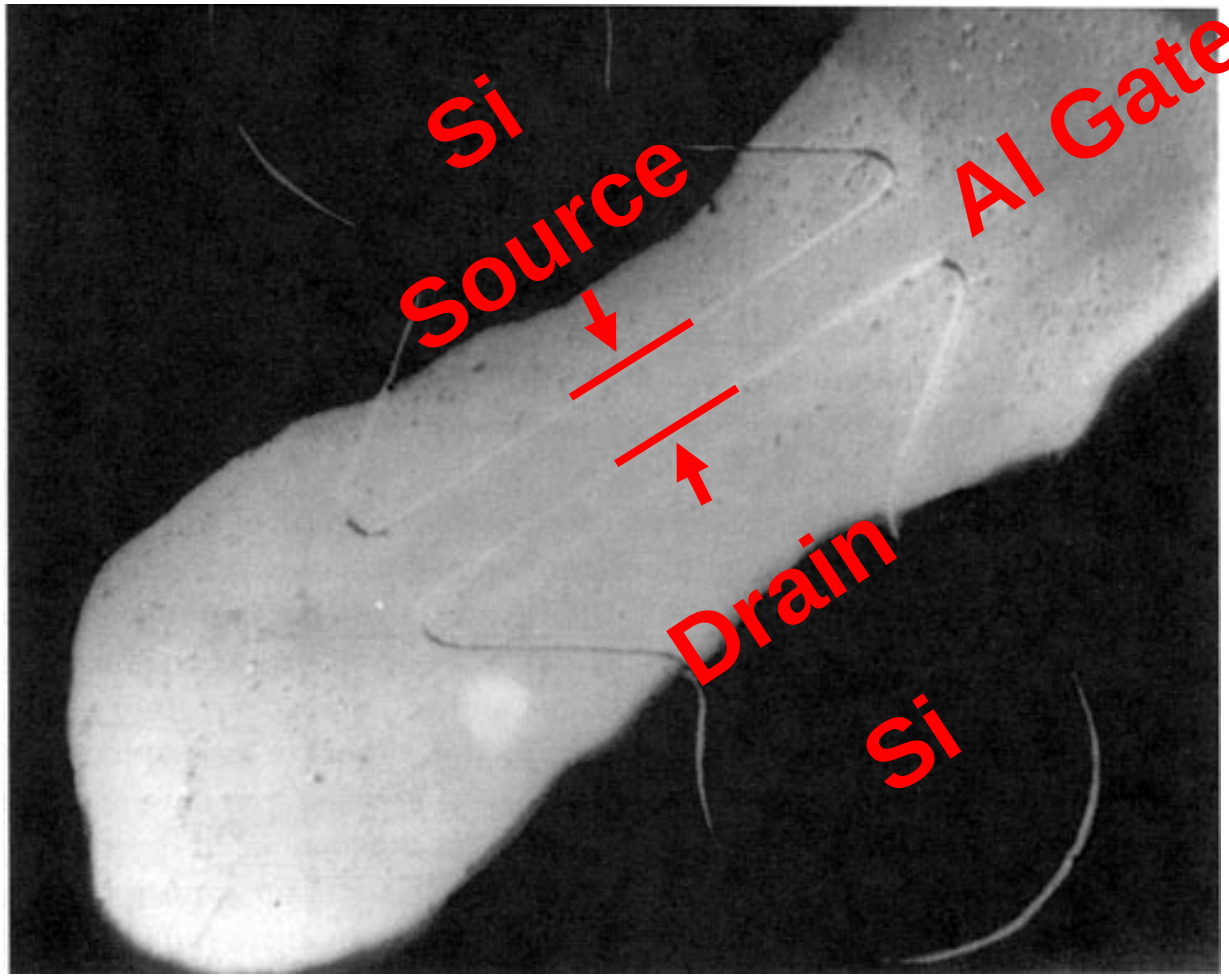
Jack S. Kilby

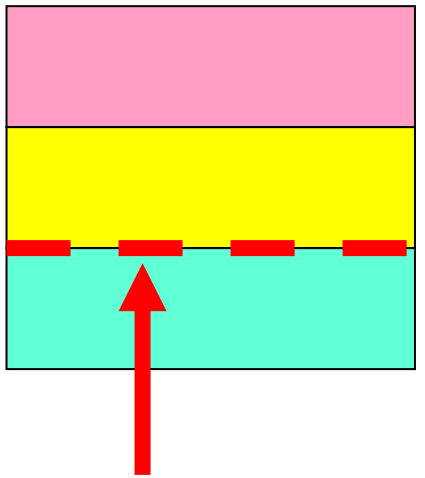
Connect 2 bipolar transistors in the
Same substrate by bonding wire.



1960: First MOSFET
by D. Kahng and M. Atalla

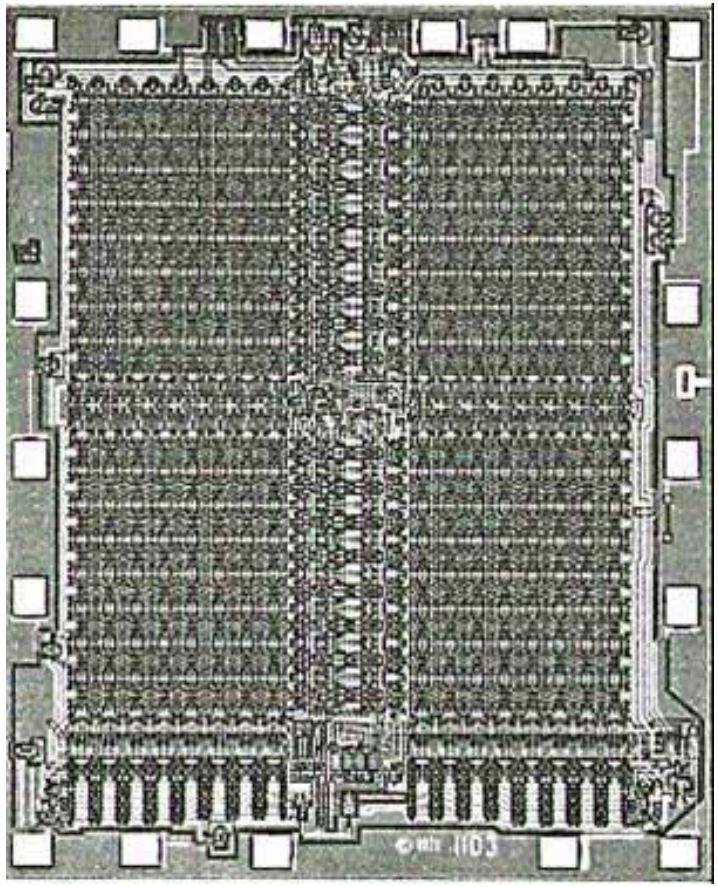
Top View



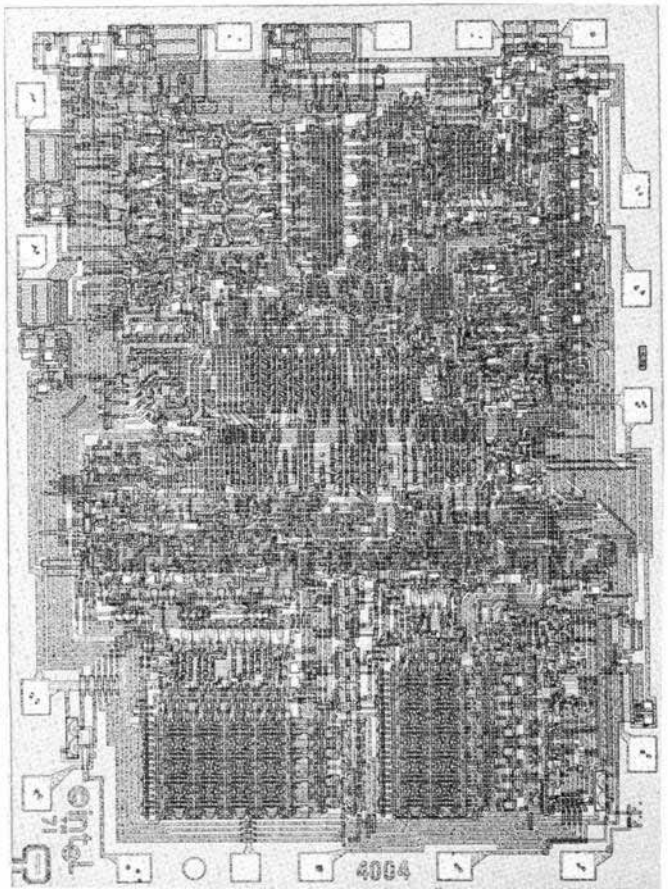


1970,71: 1st generation of LSIs

DRAM Intel 1103

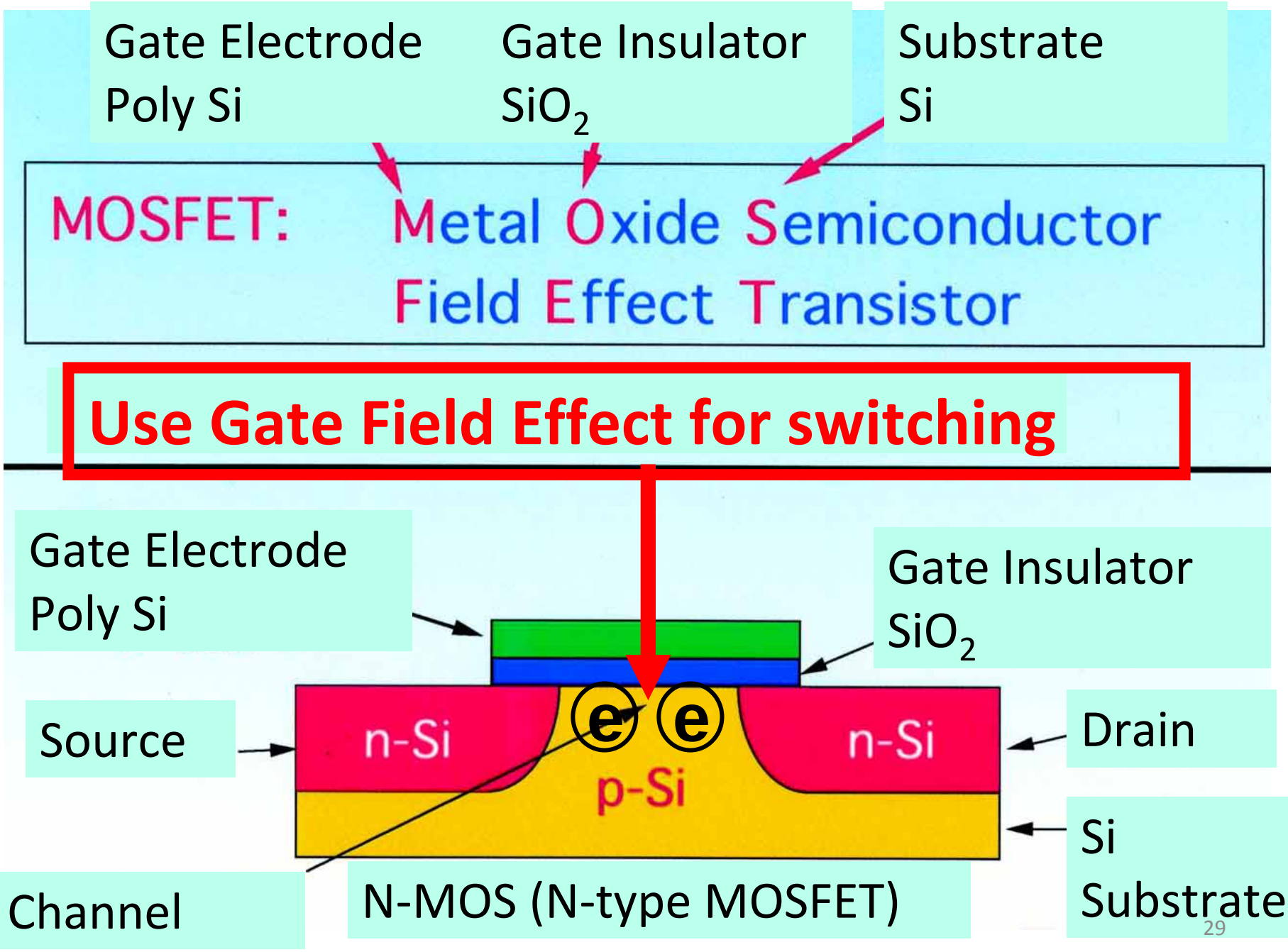


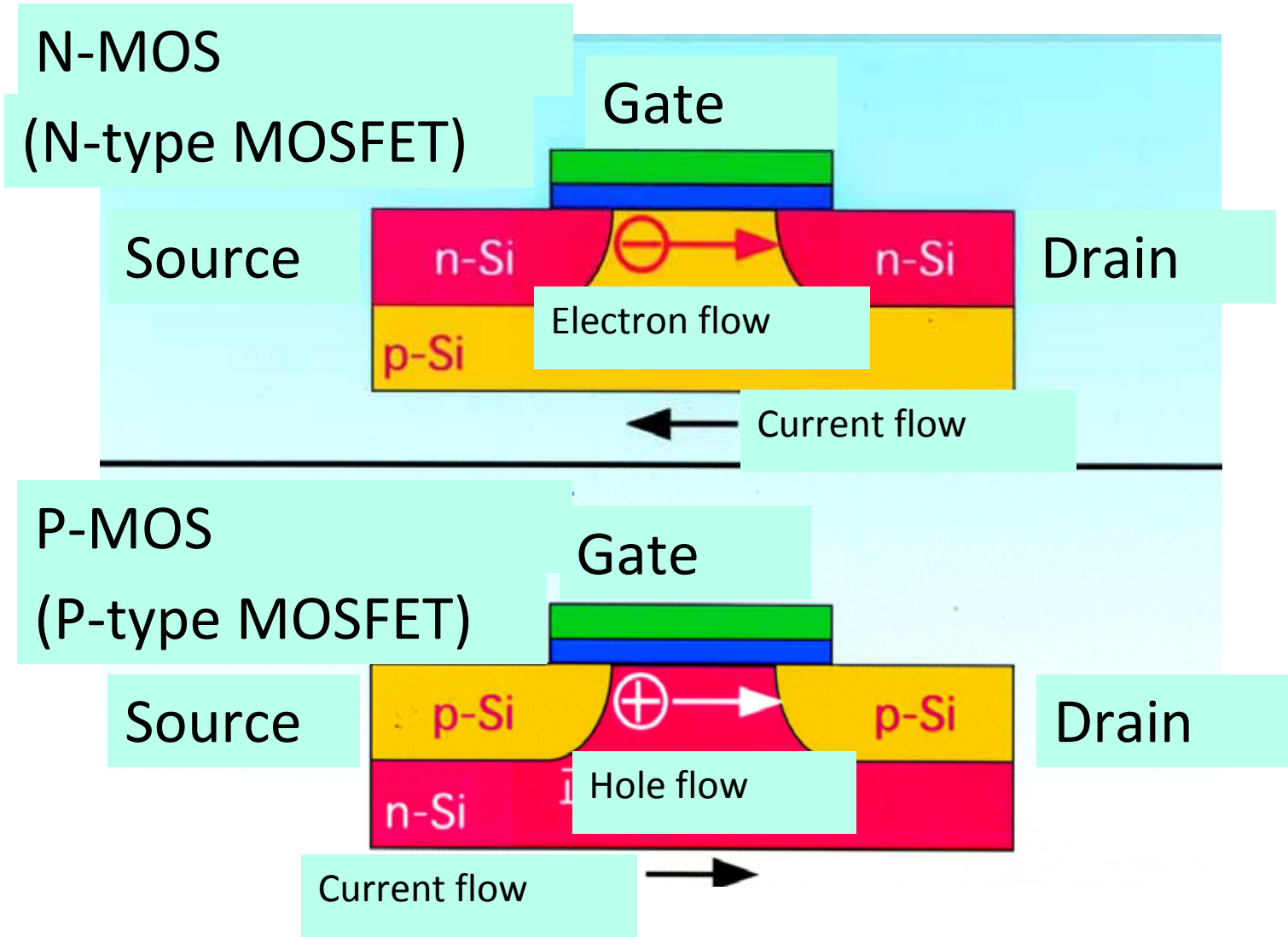
MPU Intel 4004

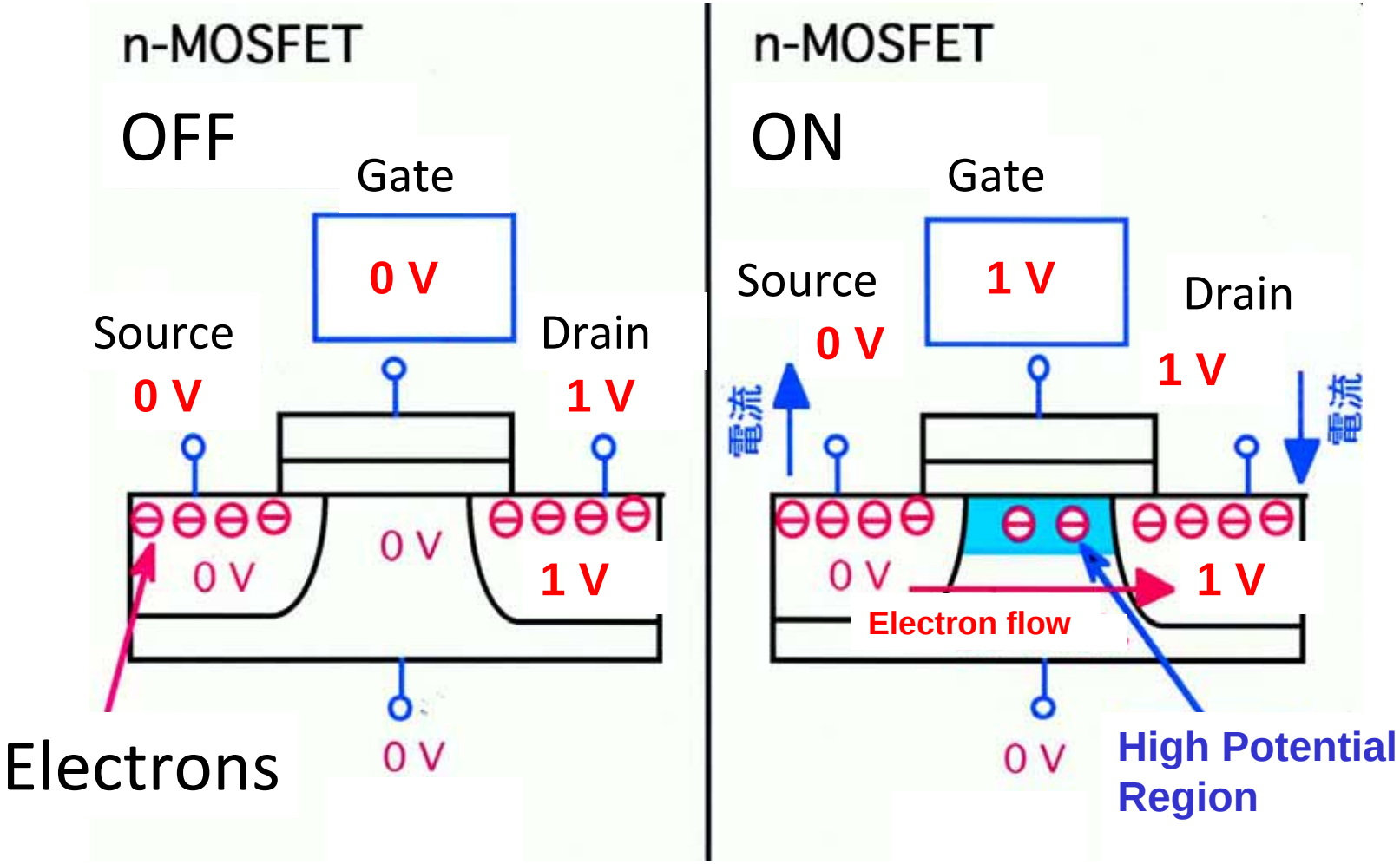


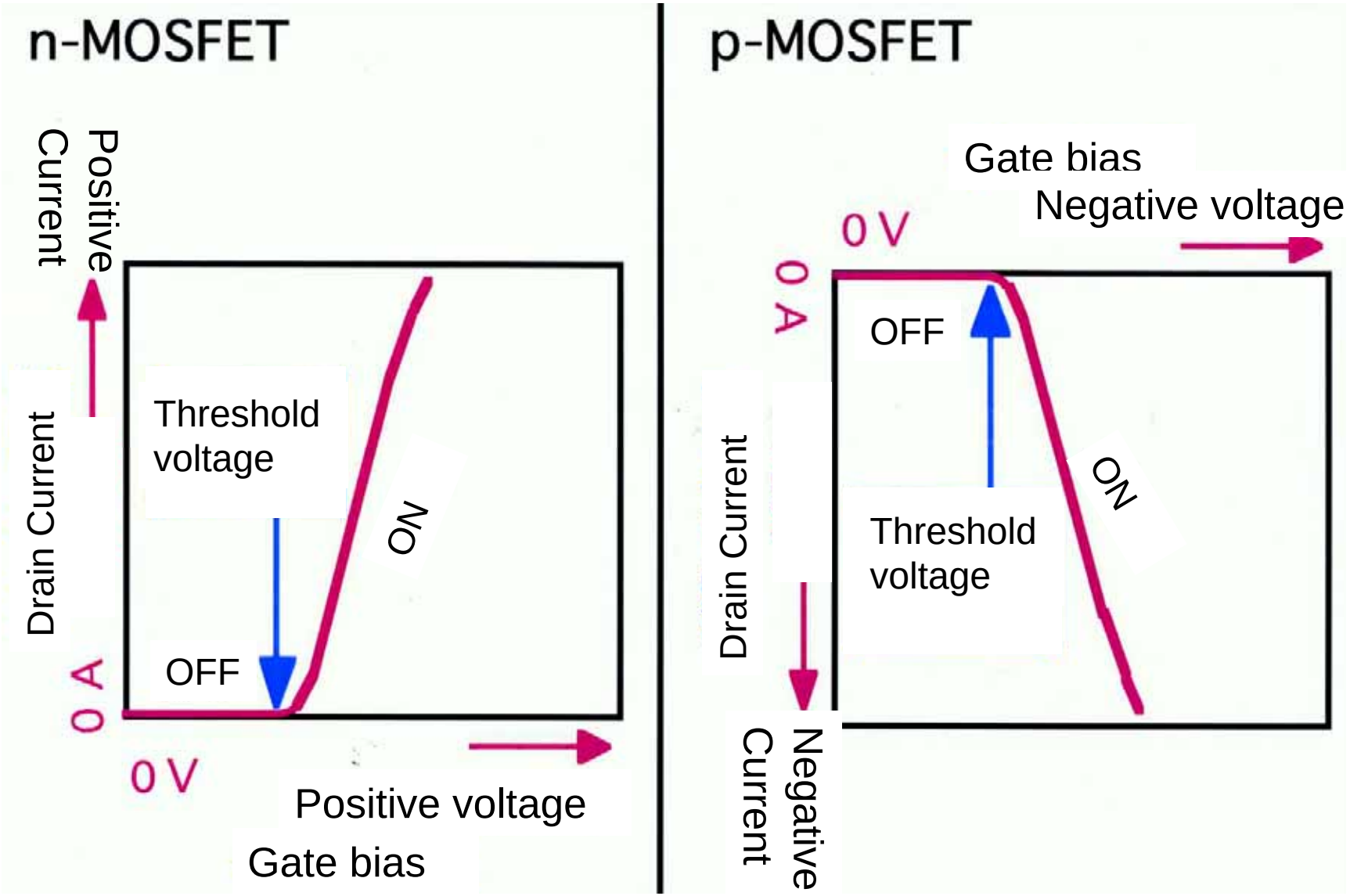
MOS LSI experienced continuous progress for many years

	Name of Integrated Circuits	Number of Transistors
1960s	IC (Integrated Circuits)	~ 10
1970s	LSI (Large Scale Integrated Circuit)	~1,000
1980s	VLSI (Very Large Scale IC)	~10,000
1990s	ULSI (Ultra Large Scale IC)	~1,000,000
2000s	?LSI (? Large Scale IC)	~1000,000,000


Gate Electrode
Poly Si
Gate Insulator
SiO2
Substrate
Si
MOSFET: Metal Oxide Semiconductor
Field Effect Transistor
Use Gate Field Effect for switching
Gate Electrode
Poly Si
Gate Insulator
SiO2
Source
n-Si
e
e
n-Si
Drain
p-Si
Si
Substrate
Channel
N-MOS (N-type MOSFET)

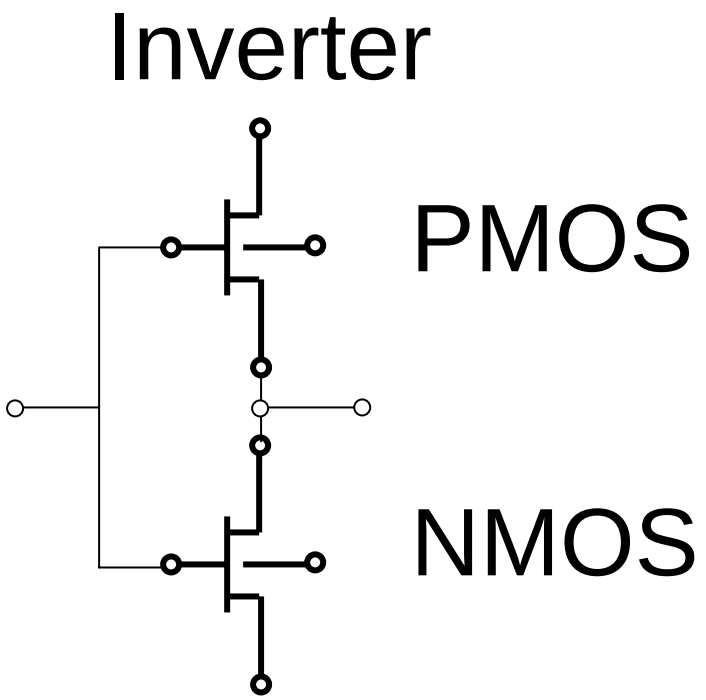

N-MOS
(N-type MOSFET)
Gate
Source
n-Si
n-Si
Drain
Electron flow
p-Si
Current flow
P-MOS
(P-type MOSFET)
Gate
Source
p-Si
p-Si
Drain
Hole flow
n-Si
Current flow


n-MOSFET
OFF
Gate
0 V
Source
0 V
Drain
1 V
0 V
0 V
1 V
0 V
Electrons
n-MOSFET
ON
Gate
1 V
Source
0 V
Drain
1 V
電流
電流
0 V
1 V
Electron flow
0 V
High Potential
Region


n-MOSFET
Positive Current
Drain Current
Threshold voltage
ON
OFF
0 A
0 V
Positive voltage
Gate bias
p-MOSFET
Gate bias
Negative voltage
0 V
0 A
OFF
ON
Threshold voltage
Drain Current
Negative Current

CMOS

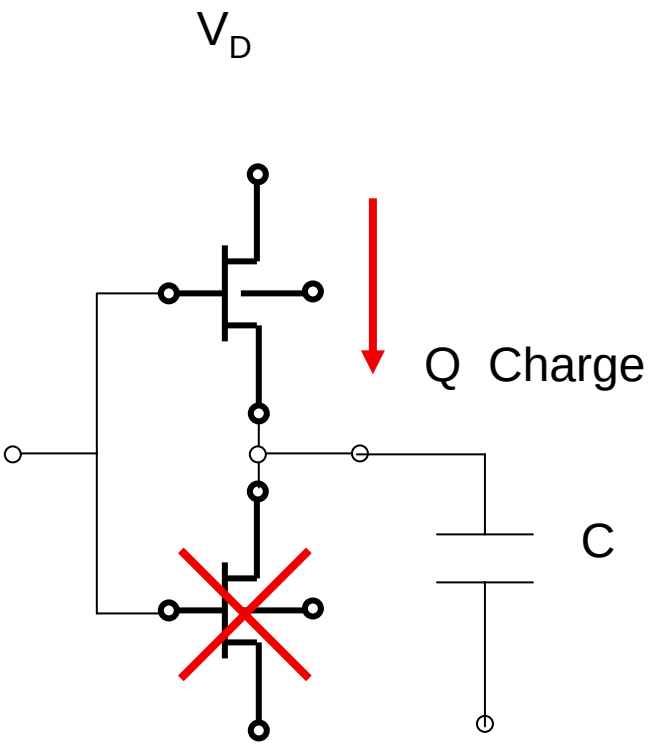
Complimentary MOS

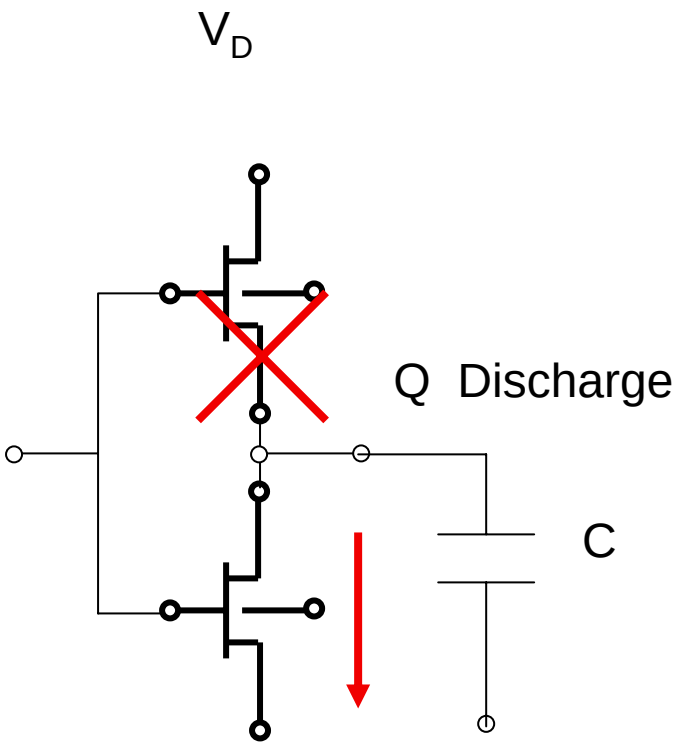


When NMOS is ON, PMOS is OFF

When PMOS is ON, NMOS is OFF

CMOS： Low Power: No DC current from Power supply to the ground





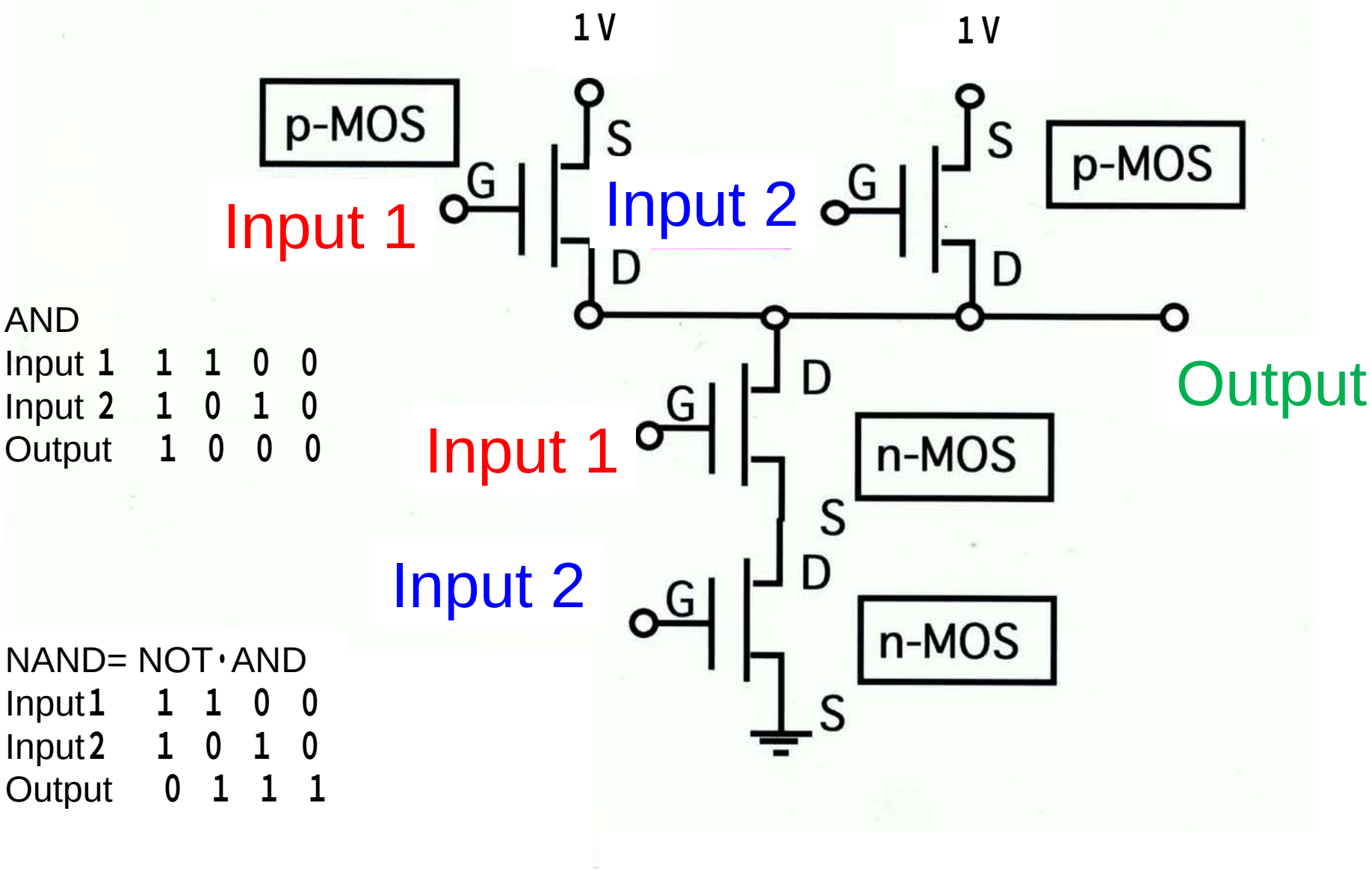
1 cycle

Clock frequency f

$$P = \frac{1}{2} CV_D^2$$

$$P = \frac{1}{2} fCV_D^2$$

2 input NAND Circuit



AND

Input 1	1	1	0	0
Input 2	1	0	1	0
Output	1	0	0	0

NAND= NOT･AND

Input1	1	1	0	0
Input2	1	0	1	0
Output	0	1	1	1

Needless to say, but….

CMOS Technology:

Indispensible for our human society

Al the human activities are controlled by CMOS

living, production, financing, telecommunication, transportation, medical care, education, entertainment, etc.

Without CMOS:

There is no computer in banks, and

world economical activities immediately stop.

Cellarer phone dose not exists

Downsizing of the components has been the driving force for circuit evolution

1900	1950	1960	1970	2000
Vacuum Tube	Transistor	IC	LSI	ULSI
10 cm	cm	mm	10 μm	100 nm
10^{-1}m	10^{-2}m	10^{-3}m	10^{-5}m	10^{-7}m

In 100 years, the size reduced by one million times.
There have been many devices from stone age.
We have never experienced such a tremendous reduction of devices in human history.

Downsizing

1. **Reduce Capacitance**

→ **Reduce switching time of MOSFETs**

→ **Increase clock frequency**

→ **Increase circuit operation speed**

2. **Increase number of Transistors**

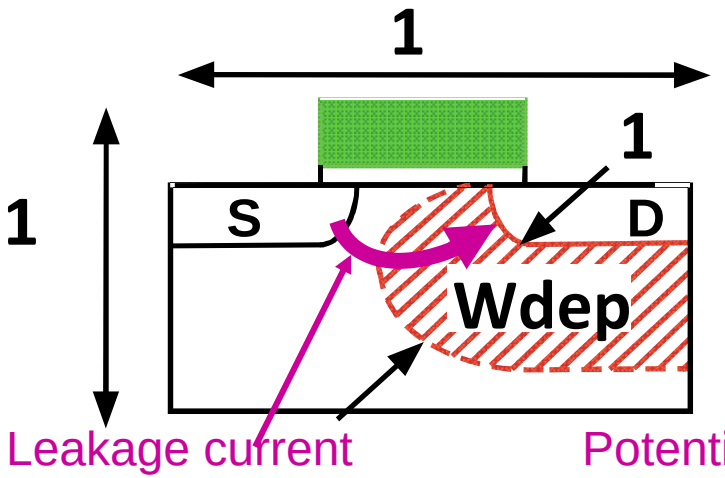
→ **Parallel processing**

→ **Increase circuit operation speed**

Downsizing contribute to the performance increase in double ways

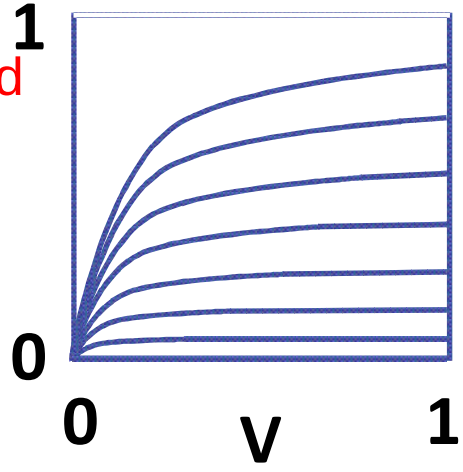
Thus, downsizing of Si devices is the most important and critical issue.

Scaling Method: by R. Dennard in 1974



Wdep: Space Charge Region (or Depletion Region) Width

Wdep has to be suppressed
Otherwise, large leakage between S and D



Leakage current

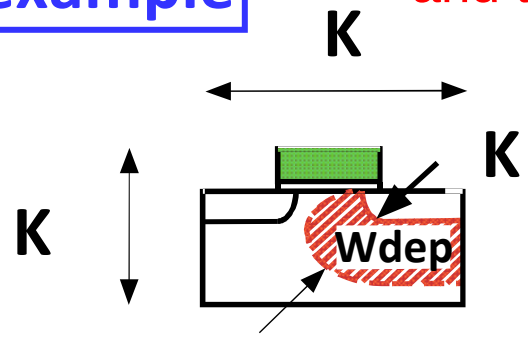
Potential in space charge region is high, and thus, electrons in source are attracted to the space charge region.

K=0.7 for example

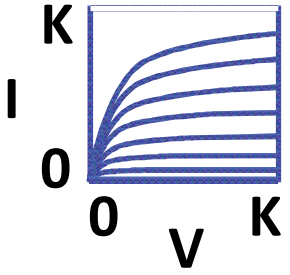
X , Y , Z : K, V : K, Na : 1/K

By the scaling, Wdep is suppressed in proportion, and thus, leakage can be suppressed.

→ Good scaled I-V characteristics



$$Wdep \propto \sqrt{V/Na}$$
$$: K$$



I : K

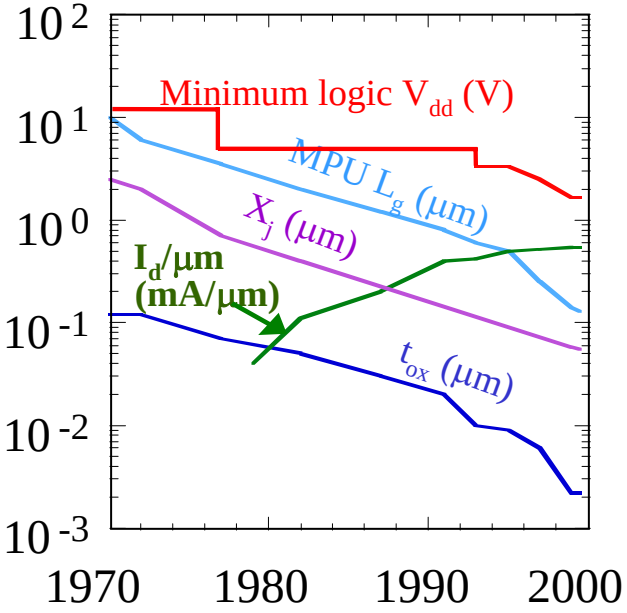
39

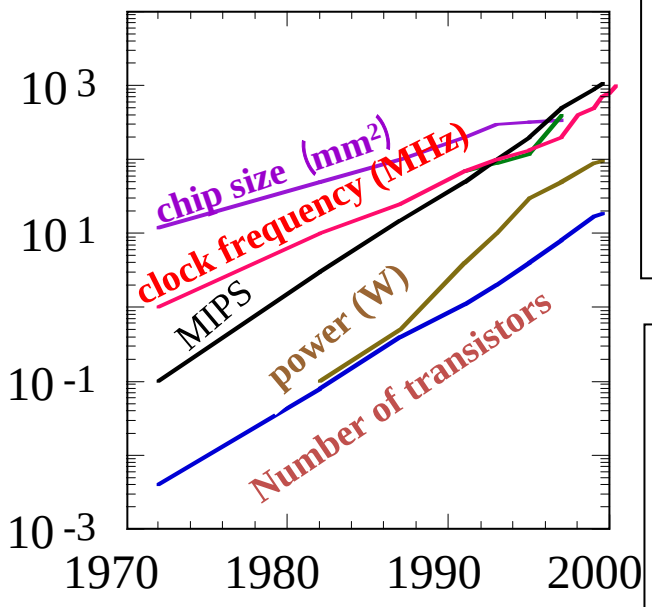
Downscaling merit: Beautiful!

Geometry & Supply voltage	L_g, W_g T_{ox}, V_{dd}	K	**Scaling K : K=0.7 for example**
Drive current in saturation	I_d	K	$I_d = v_{sat} W_g C_o (V_g - V_{th})$ C_o: gate C per unit area → $W_g (t_{ox}^{-1})(V_g - V_{th}) = W_g t_{ox}^{-1}(V_g - V_{th}) = KK^{-1}K = K$
I_d per unit W_g	$I_d/\mu m$	1	I_d per unit $W_g = I_d / W_g = 1$
Gate capacitance	C_g	K	$C_g = \varepsilon_o \varepsilon_{ox} L_g W_g / t_{ox}$ → KK/K = K
Switching speed	τ	K	$\tau = C_g V_{dd} / I_d$ → KK/K= K
Clock frequency	f	1/K	$f = 1/\tau$ = 1/K
Chip area	A_{chip}	α	α: Scaling factor → **In the past, $\alpha>1$ for most cases**
Integration (# of Tr)	N	α/K^2	N → α/K^2 **= $1/K^2$, when $\alpha=1$**
Power per chip	P	α	$fNCV^2/2$ → $K^{-1}(\alpha K^{-2})K(K^1)^2 = \alpha$ **= 1, when $\alpha=1$**

k= 0.7 and α =1	k= 0.7^2 =0.5 and α =1
Single MOFET	
Vdd → 0.7 Lg → 0.7 Id → 0.7 Cg → 0.7	Vdd → 0.5 Lg → 0.5 Id → 0.5 Cg → 0.5
P (Power)/Clock → $0.7^3 = 0.34$ τ (Switching time) → 0.7	P (Power)/Clock → $0.5^3 = 0.125$ τ (Switching time) → 0.5
Chip	
N (# of Tr) → $1/0.7^2 = 2$ f (Clock) → 1/0.7 = 1.4 P (Power) → 1	N (# of Tr) → $1/0.5^2 = 4$ f (Clock) → 1/0.5 = 2 P (Power) → 1

Actual past downscaling trend until year 2000





Past 30 years scaling

Merit: N, f increase

Demerit: P increase

V_{dd} scaling insufficient

⇩

Additional significant increase in I_d, f, P

Source. Iwai and S. Ohmi, Microelectronics Reliability 42 (2002), pp.1251-1268

Change in 30 years

	Ideal scaling	Real Change		Ideal scaling	Real Change		Ideal scaling	Real Change
L_g	K	10^{-2}	I_d	K (10^{-2})	10^{-1}	f	$1/K(10^{2})$	10^{3}
t_{ox}	$K(10^{-2})$	10^{-2}						
V_{dd}	$K(10^{-2})$	10^{-1}	I_d/μm	1	10^{1}	P	$\alpha(10^{1})$	10^{5}
						$= f\alpha NCV^2$		
A_{chip}	α	10^{1}	N	$\alpha/K^2(10^{5})$	10^{4}			

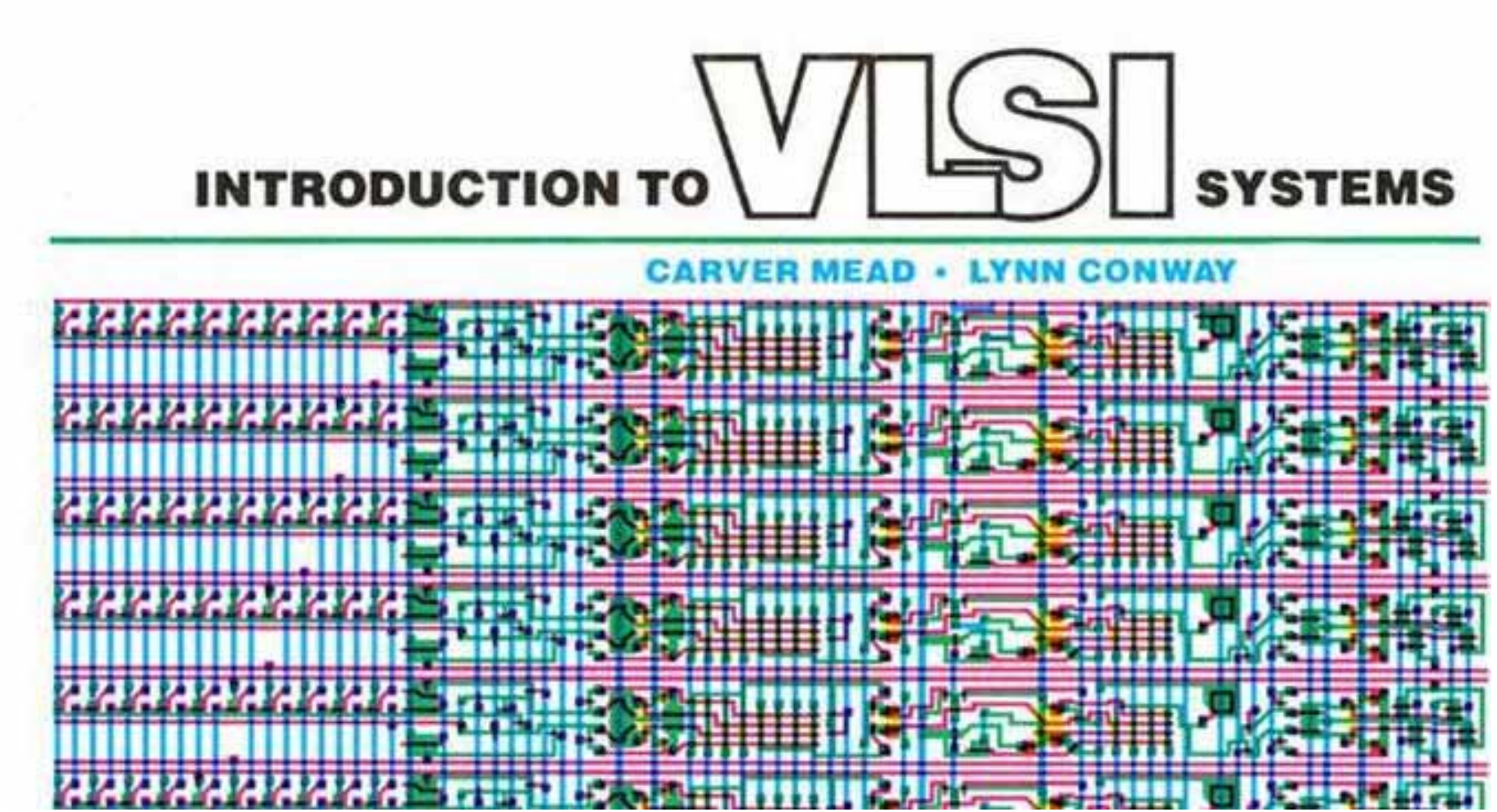
Vd scaling insufficient, α increased → N, Id, f, P increased significantly

Many people wanted to say about the limit. Past predictions were not correct!!

Period	Expected limit(size)	Cause
Late 1970's	1μm:	SCE
Early 1980's	0.5μm:	S/D resistance
Early 1980's	0.25μm:	Direct-tunneling of gate SiO_2
Late 1980's	0.1μm:	'0.1μm brick wall'(various)
2000	50nm:	'Red brick wall' (various)
2000	10nm:	Fundamental?

Historically, many predictions of the limit of downsizing.

VLSI text book written 1979 predict that 0.25 micro-meter would be the limit because of direct-tunneling current through the very thin-gate oxide.

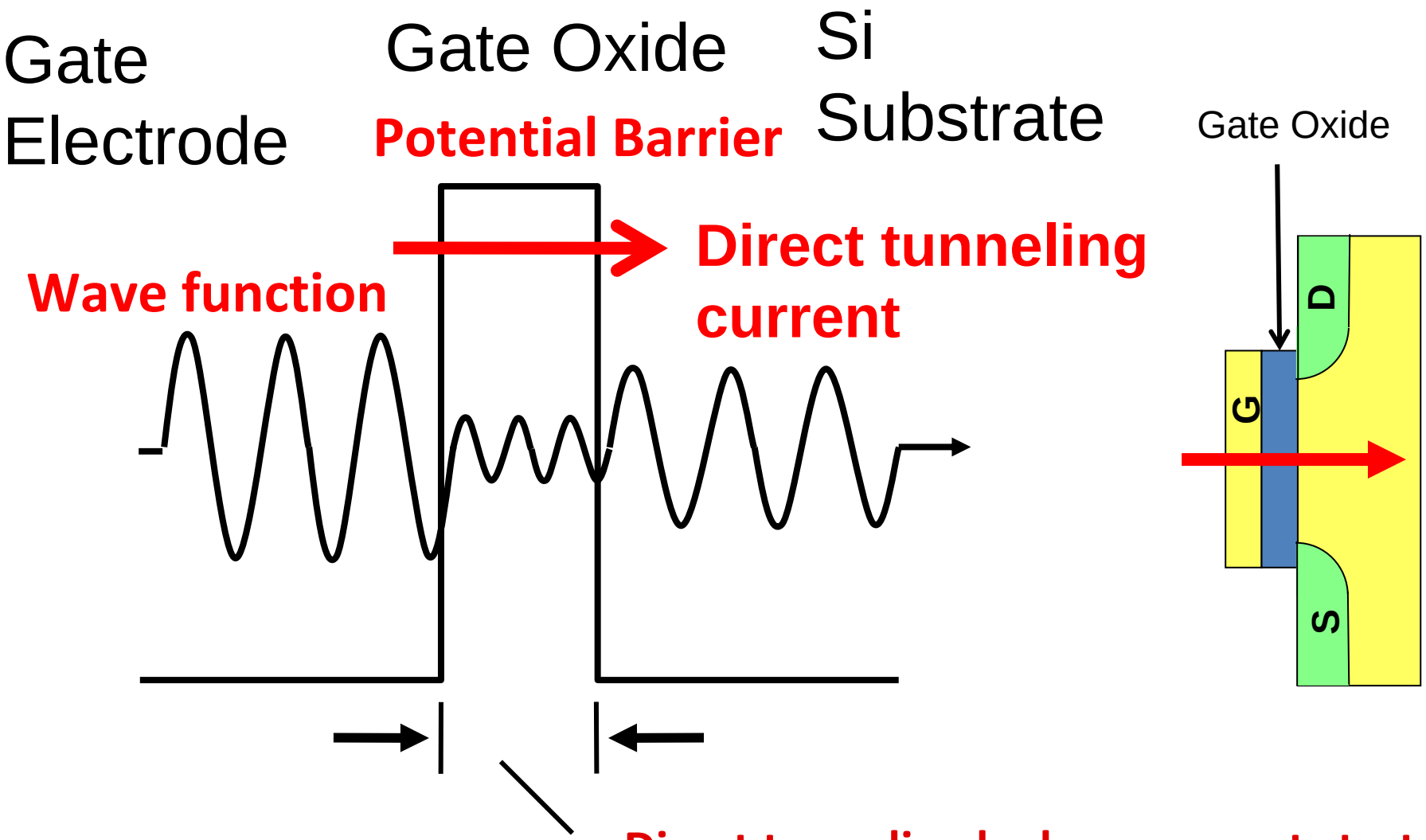


C. Mead L. Conway

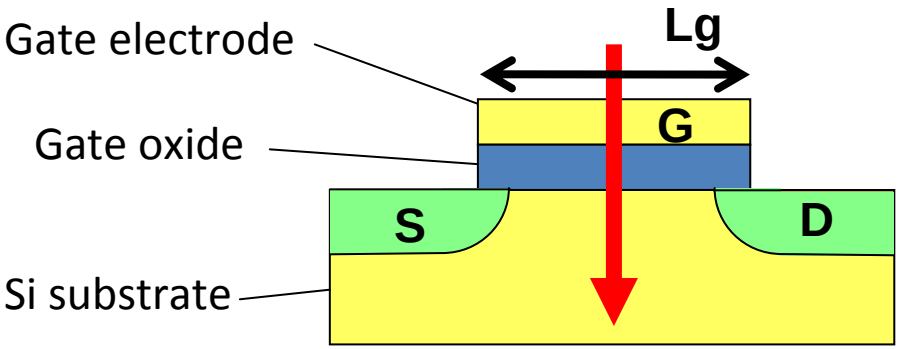
VLSI textbook

Finally, there appears to be a fundamental limit [10] of approximately quarter micron channel length, where certain physical effects such as the tunneling through the gate oxide ..... begin to make the devices of smaller dimension unworkable.

Direct-tunneling effect

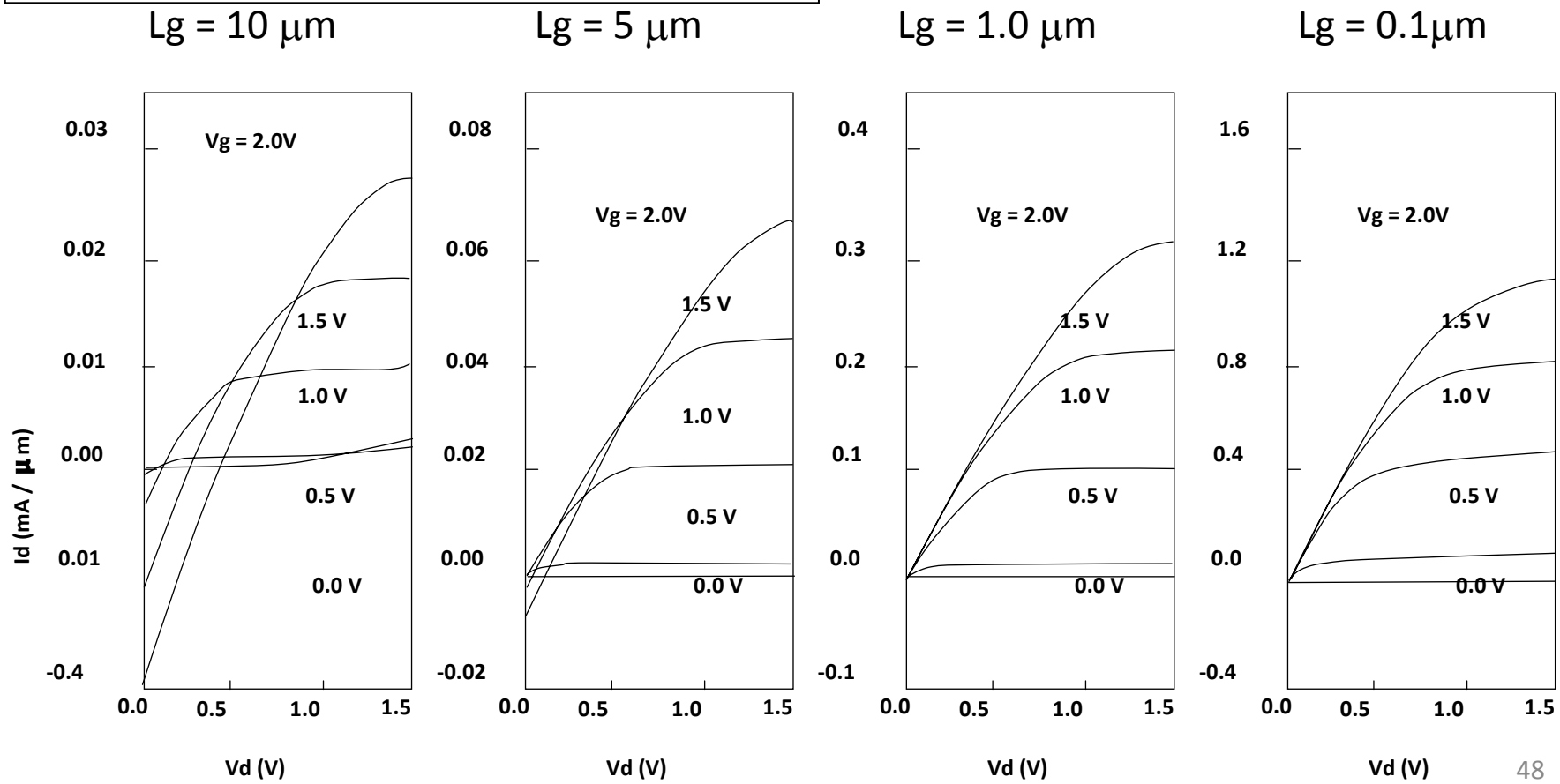


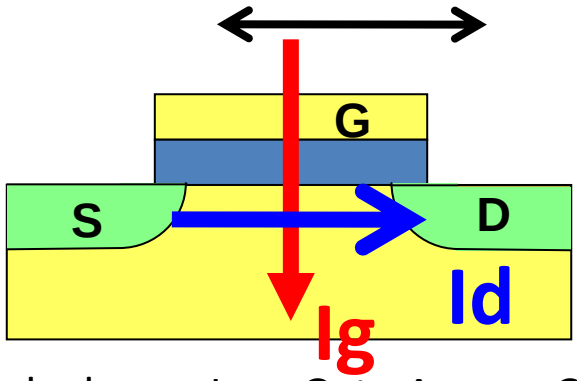
Direct tunneling leakage current start to flow when the thickness is 3 nm.



Direct tunneling leakage was found to be OK! In 1994!

MOSFETs with 1.5 nm gate oxide



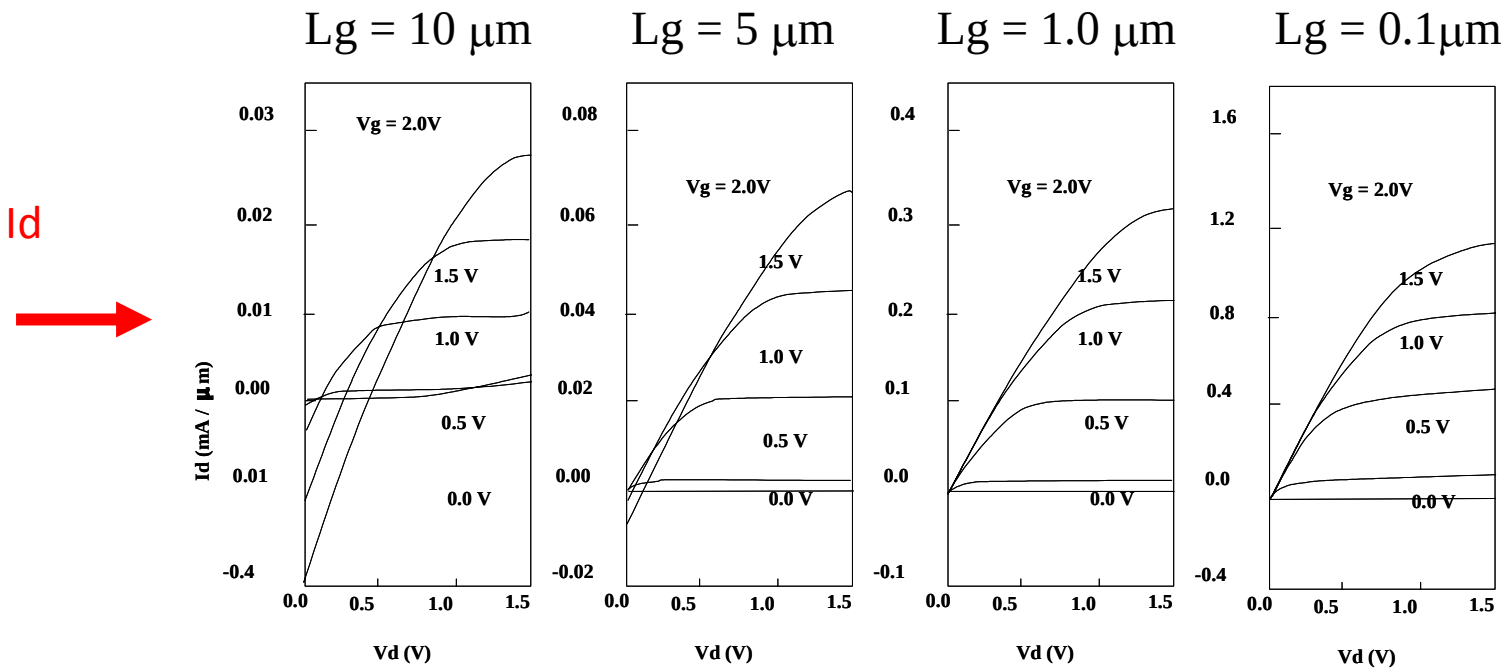


Gate leakage: Ig ∝ Gate Area ∝ Gate length (Lg)

Drain current: Id ∝ 1/Gate length (Lg)

Lg → small,

Then, Ig → small, Id → large, Thus, Ig/Id → very small



Do not believe a text book statement, blindly!

Never Give Up!

No one knows future!

There would be a solution!

Think, Think, and Think!

Or, Wait the time!
Some one will think for you

Transistor Scaling Continues

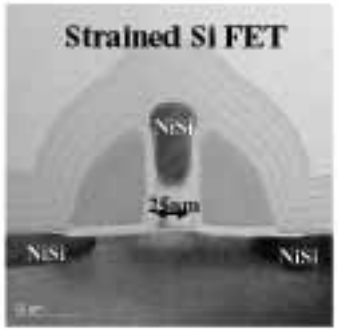
90nm node

Lg=50nm

65nm node

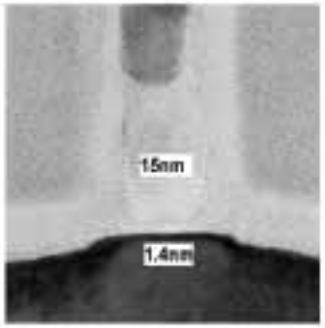
Lg=35nm

45nm node



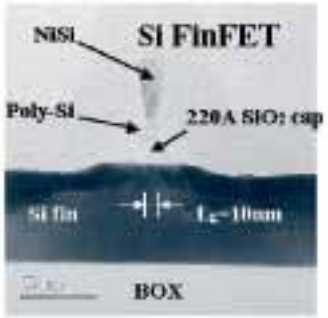
Lg=25nm

32nm node

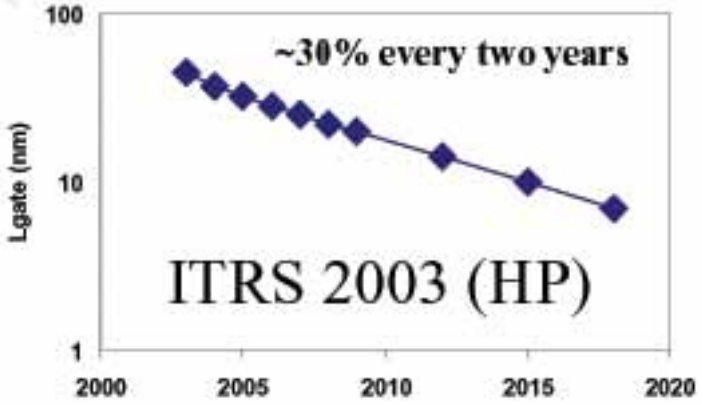


Lg=15nm

22nm node



Lg=10nm

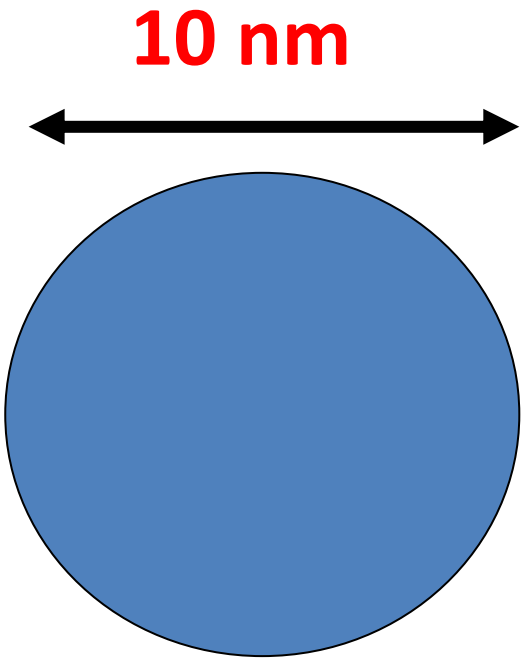


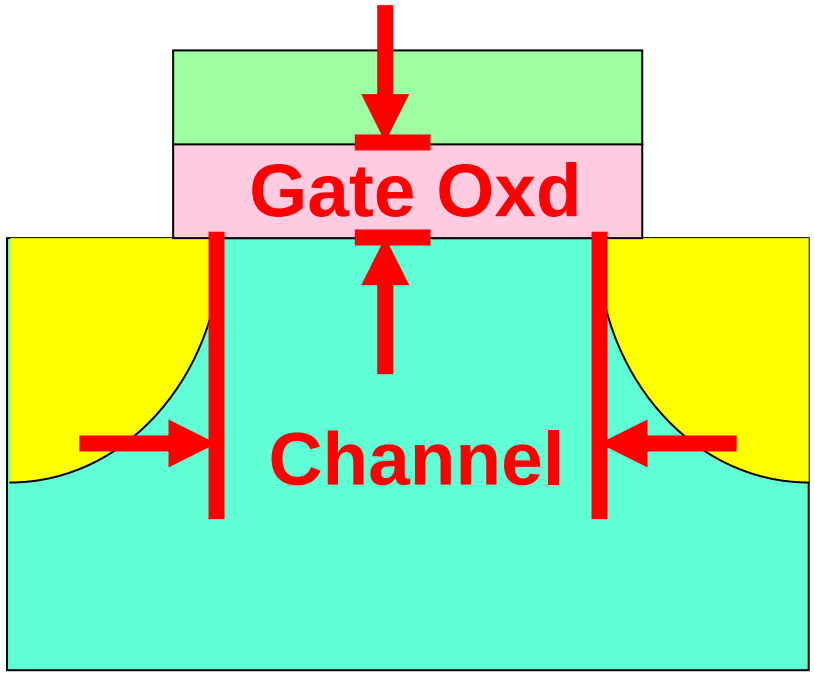
Qi Xinag, ECS 2004, AMD

Downsizing limit?

Channel length?

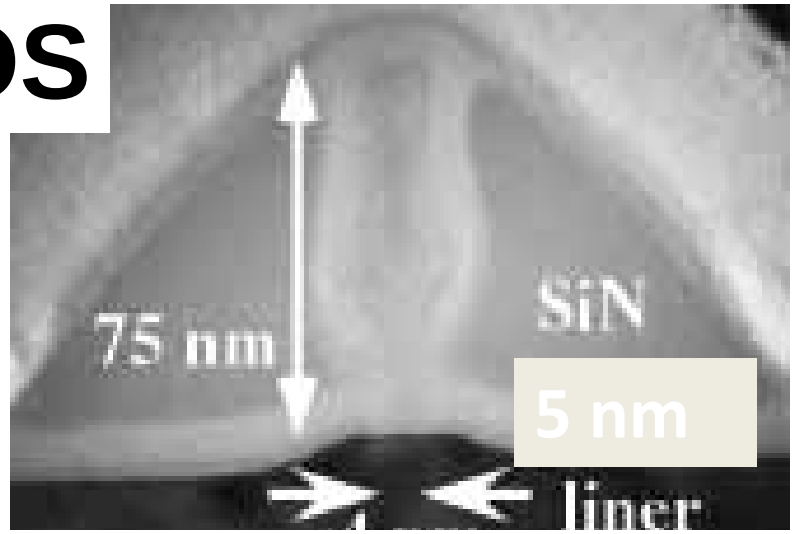
Electron wave length



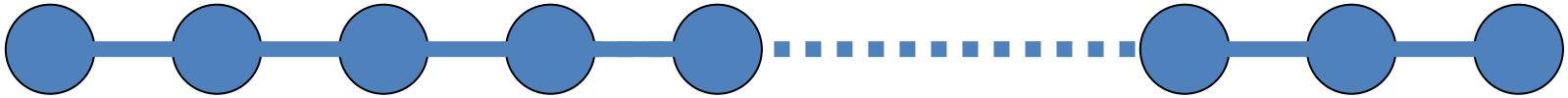


5 nm gate length CMOS

Is a Real Nano Device!!

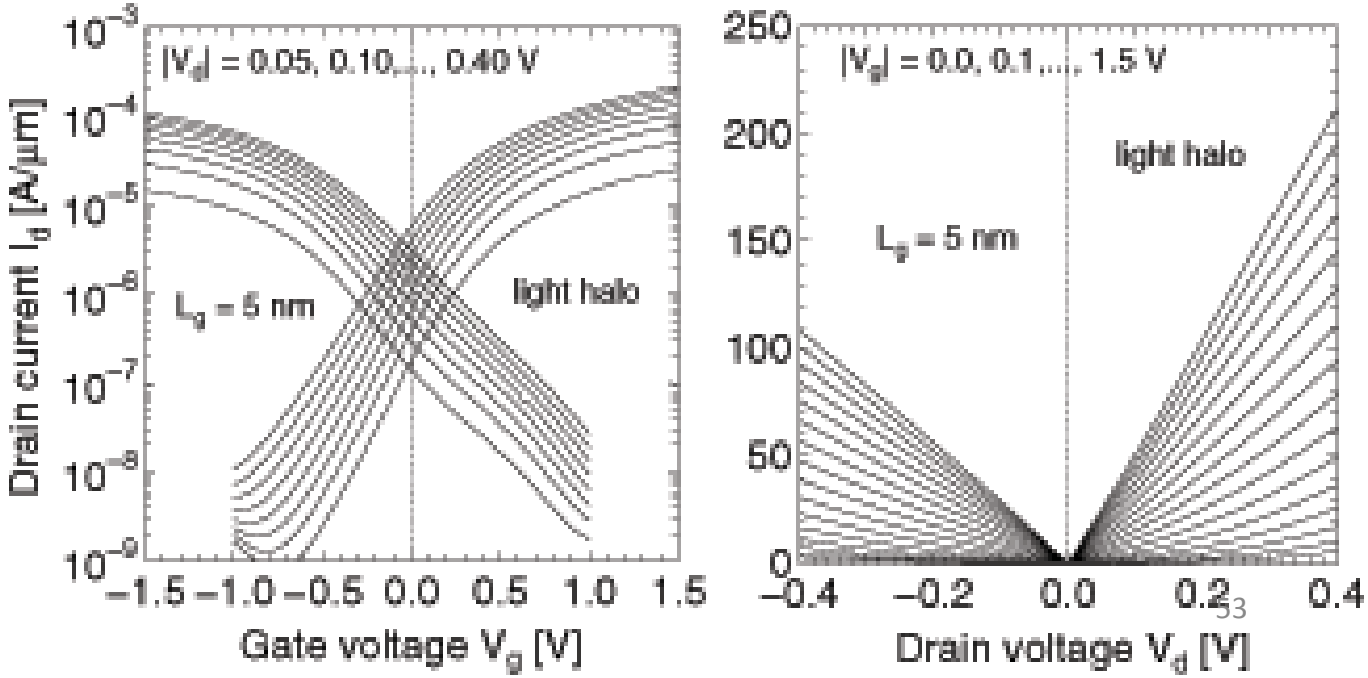


Length of 18 Si atoms



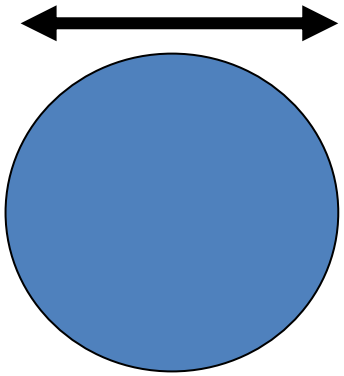
H. Wakabayashi
et.al, NEC

IEDM, 2003



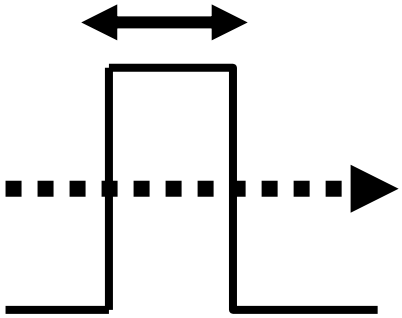
Electron wave length

10 nm



Tunneling distance

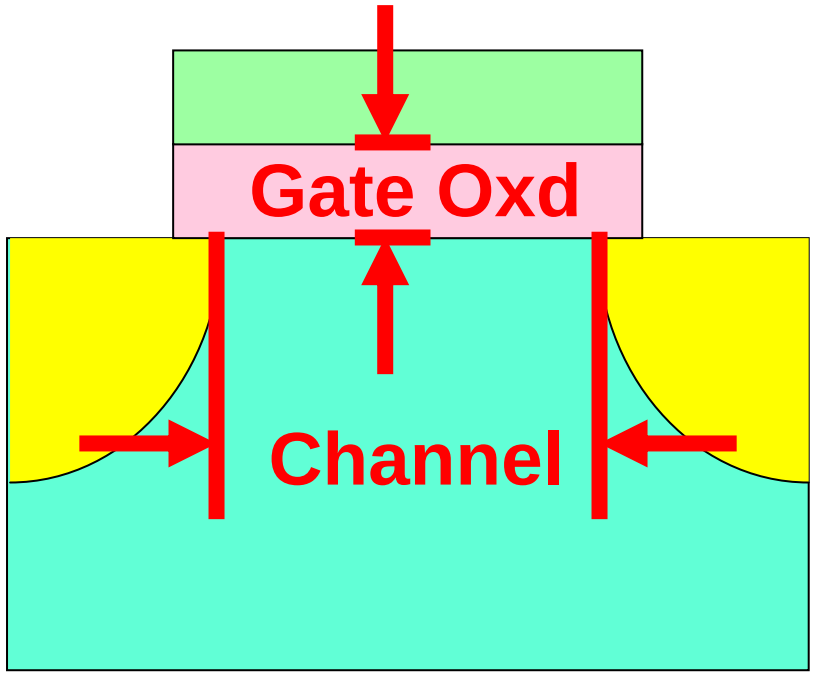
3 nm



Downsizing limit!

Channel length

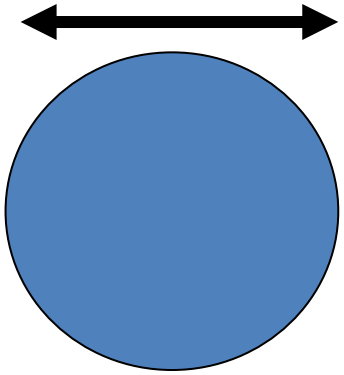
Gate oxide thickness



Prediction now!

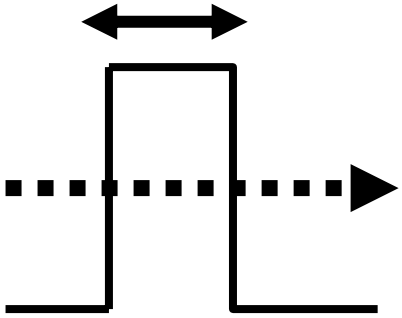
Electron wave length

10 nm



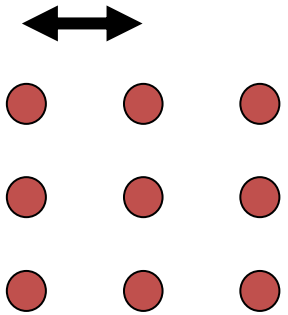
Tunneling distance

3 nm



Atom distance

0.3 nm

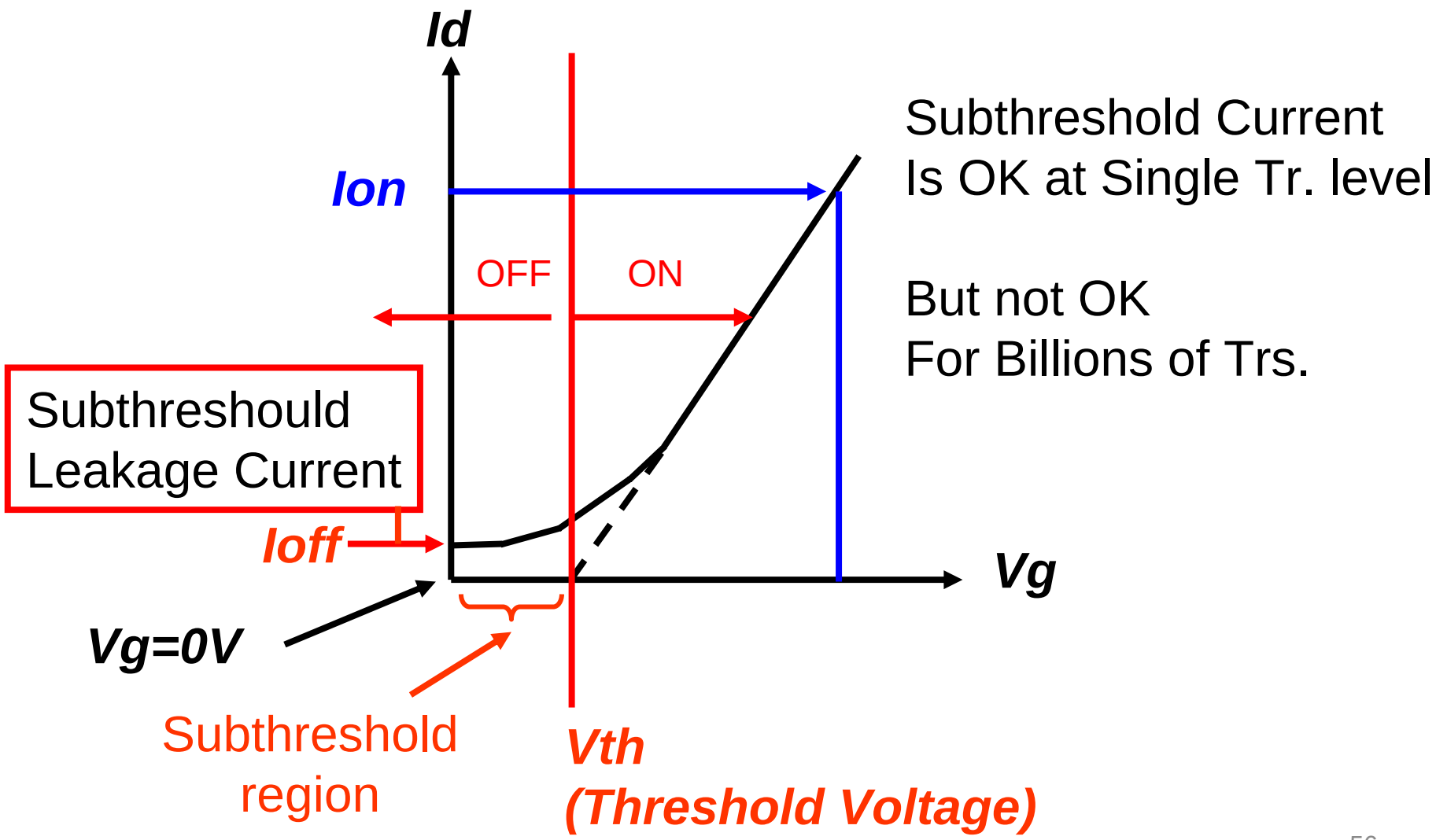


MOSFET operation

Lg = 2 ~ 1.5 nm?

Below this,
no one knows future!

Subtheshold leakage current of MOSFET



Subthreshold Current
Is OK at Single Tr. level

But not OK
For Billions of Trs.

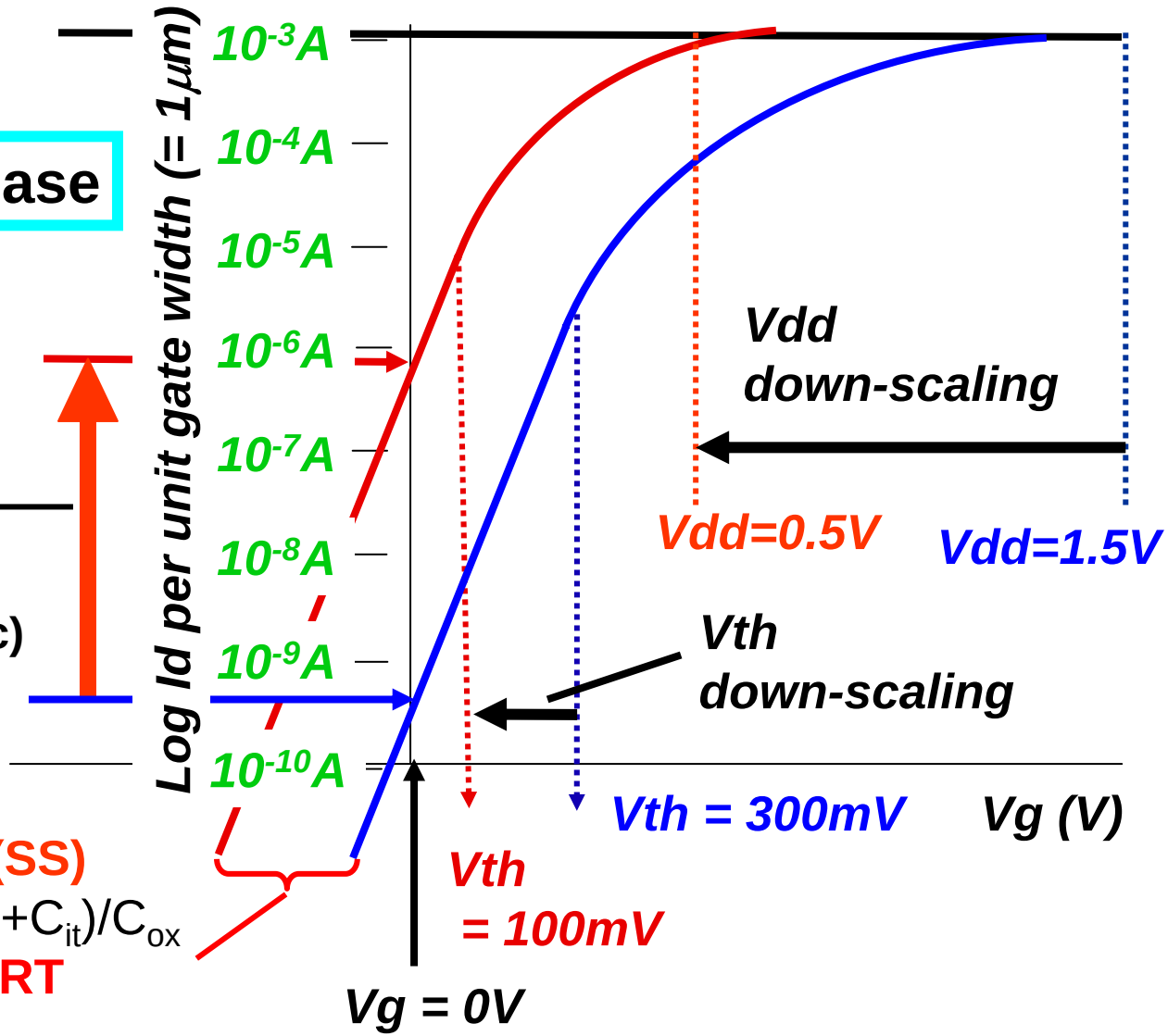
56

Vth cannot be decreased anymore

significant Ioff increase

Vth: 300mV → 100mV
Ioff increases with 3.3 decades

(300 – 100)mV/(60mv/dec) = 3.3 dec



Subthreshold slope (SS)
= $(Ln10)(kT/q)(C_{ox}+C_D+C_{it})/C_{ox}$
> **~ 60 mV/decade at RT**

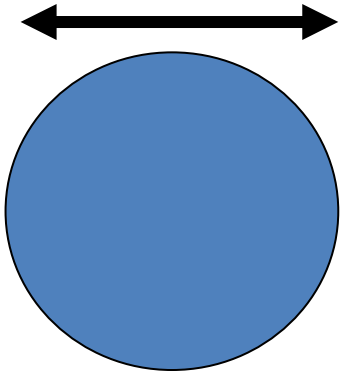
SS value:
Constant and does not become small with down-scaling

57

Prediction now!

Electron wave length

10 nm

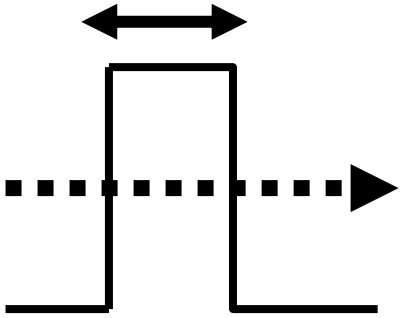


Practical limit for integration

Lg = 5 nm?

Tunneling distance

3 nm

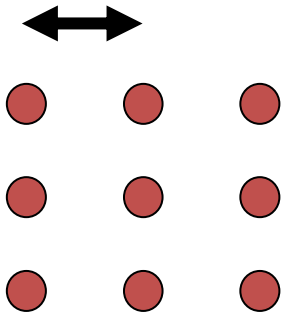


MOSFET operation

Lg = 2 ~ 1.5 nm?

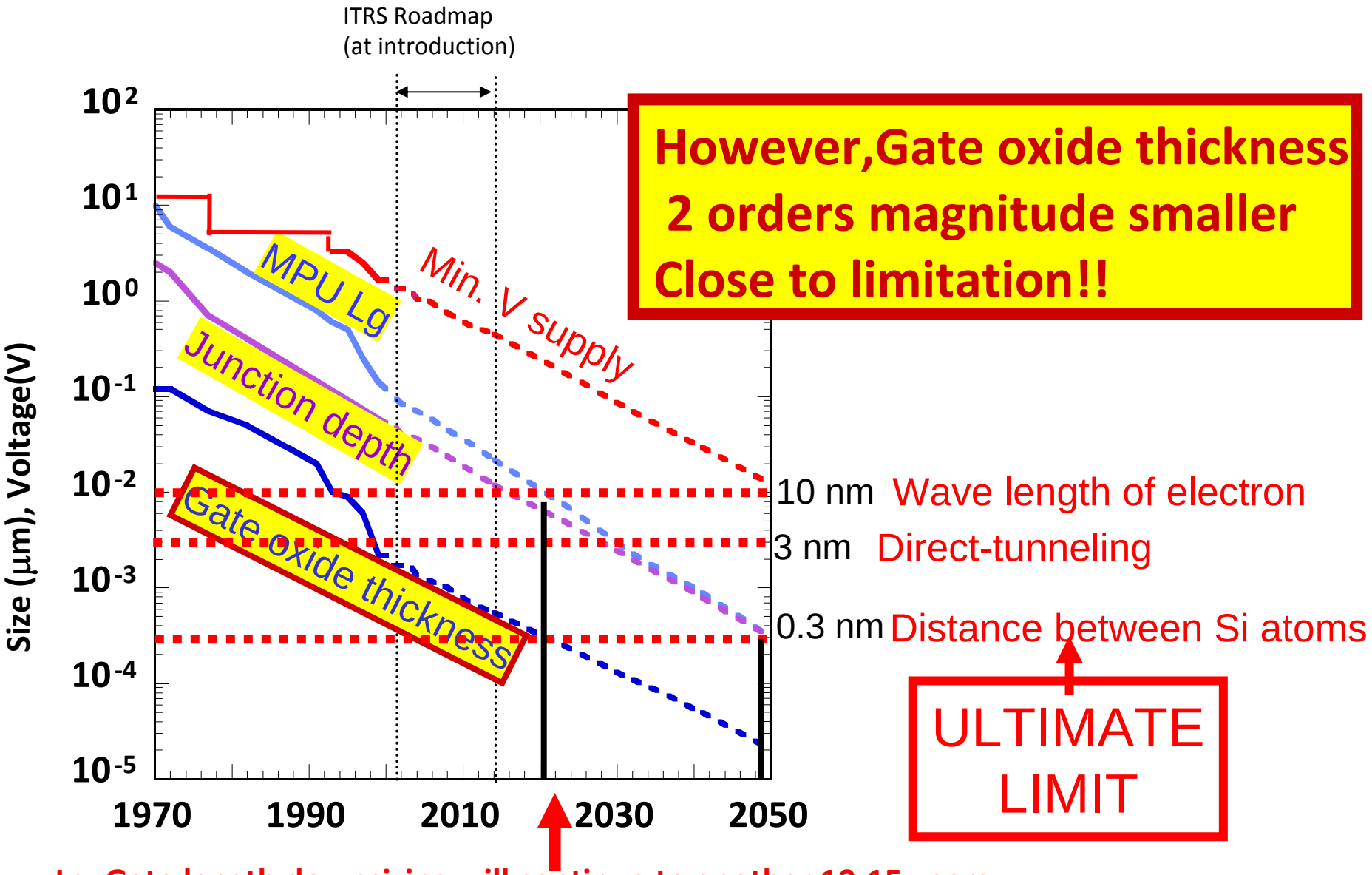
Atom distance

0.3 nm



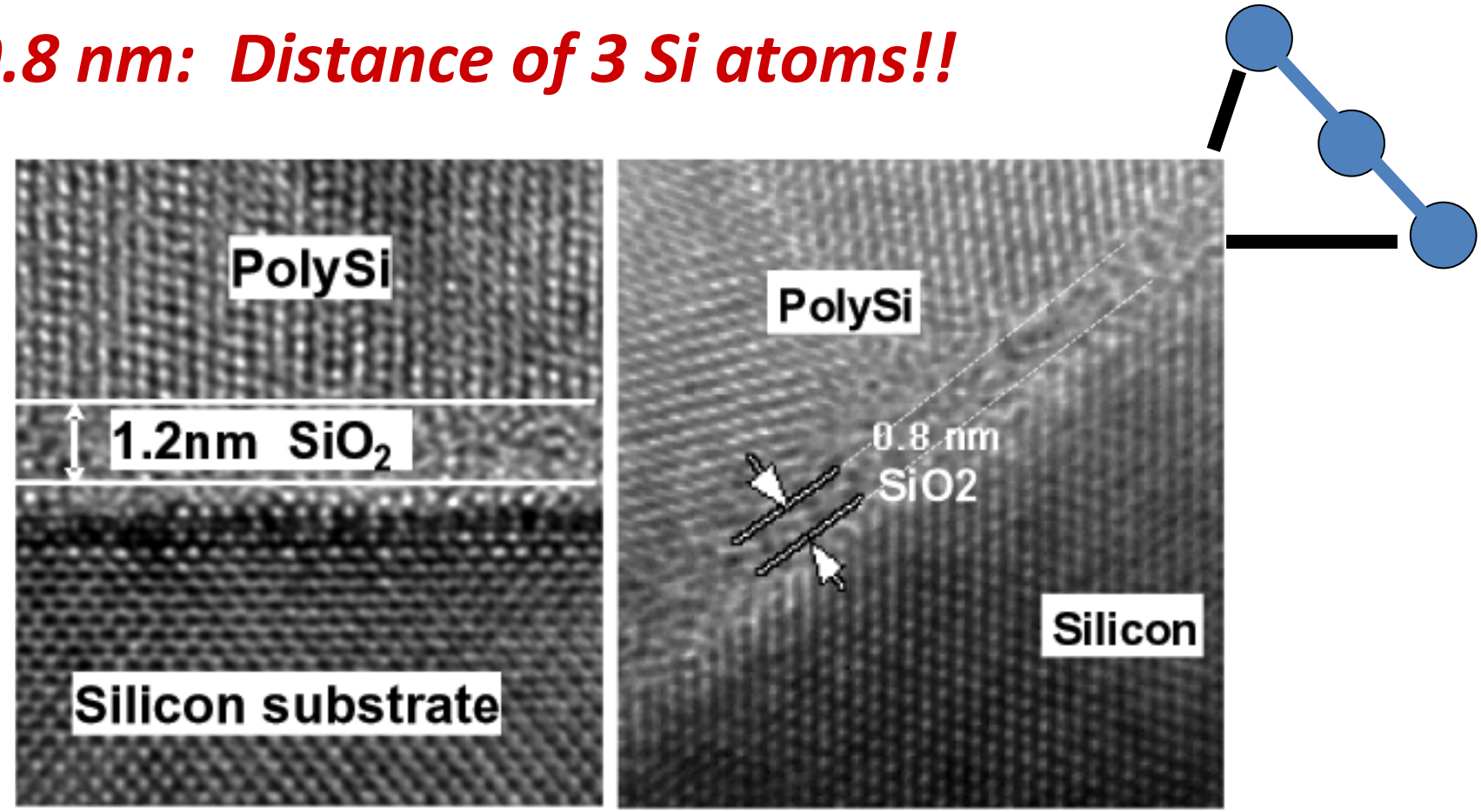
Below this, no one knows future!

Ultimate limitation



0.8 nm Gate Oxide Thickness MOSFETs operates!!

0.8 nm: Distance of 3 Si atoms!!



- 1.2nm physical SiO2 in production (90nm logic node)
- 0.8nm physical SiO2 in research transistors

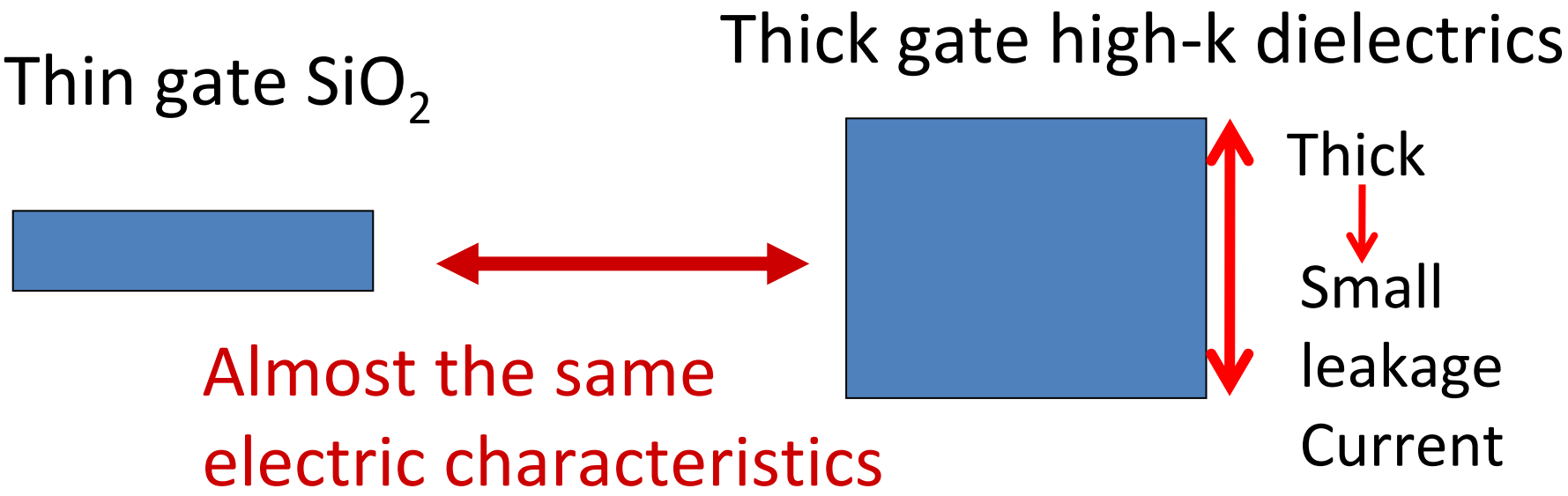
By Robert Chau, IWGI 2003

So, we are now in the limitation of downsizing?

Do you believe this or do not?

There is a solution! K: Dielectric Constant

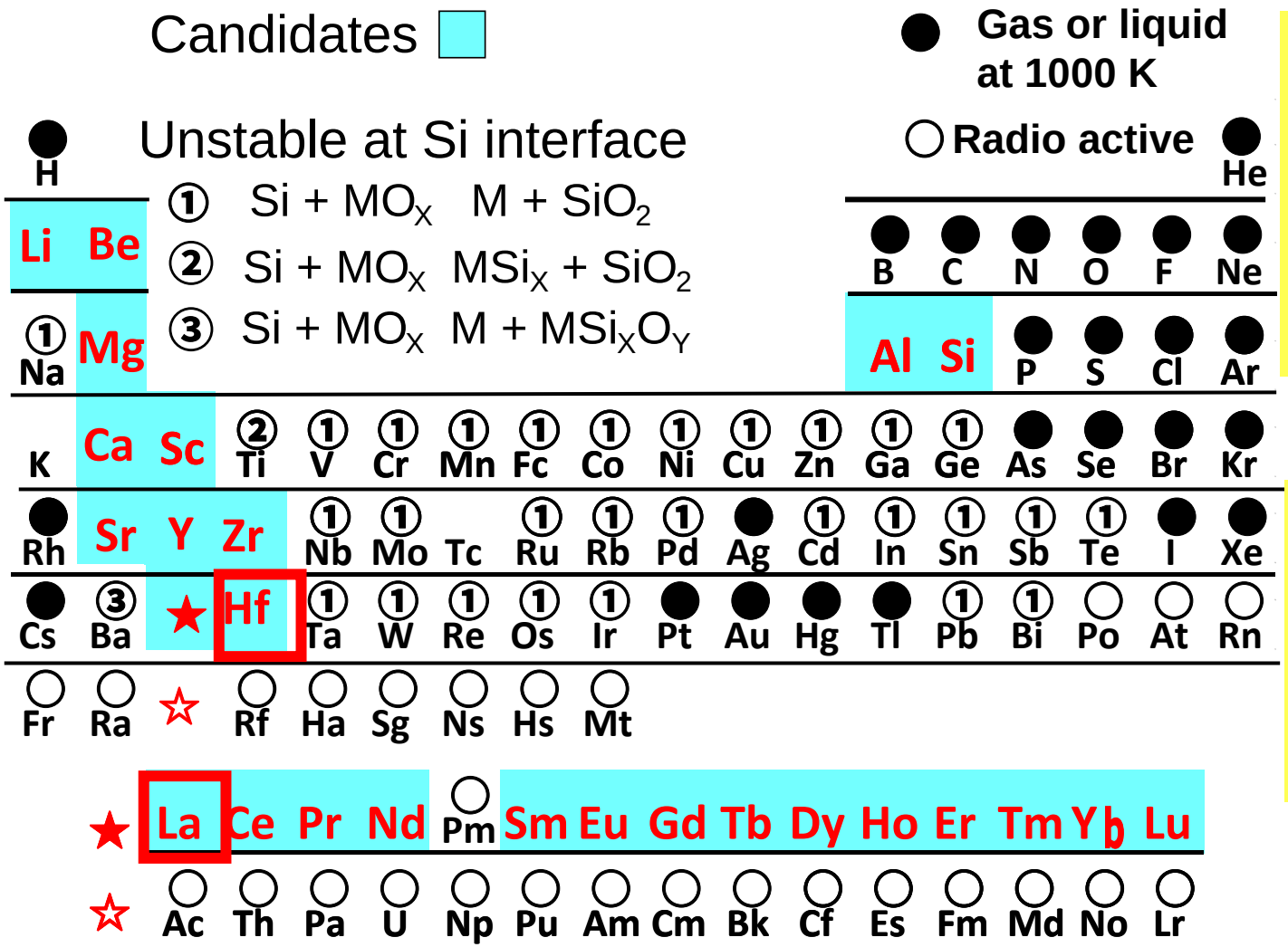
To use high-k dielectrics



However, very difficult and big challenge!

Remember MOSFET had not been realized without Si/SiO_2!

Choice of High-k elements for oxide

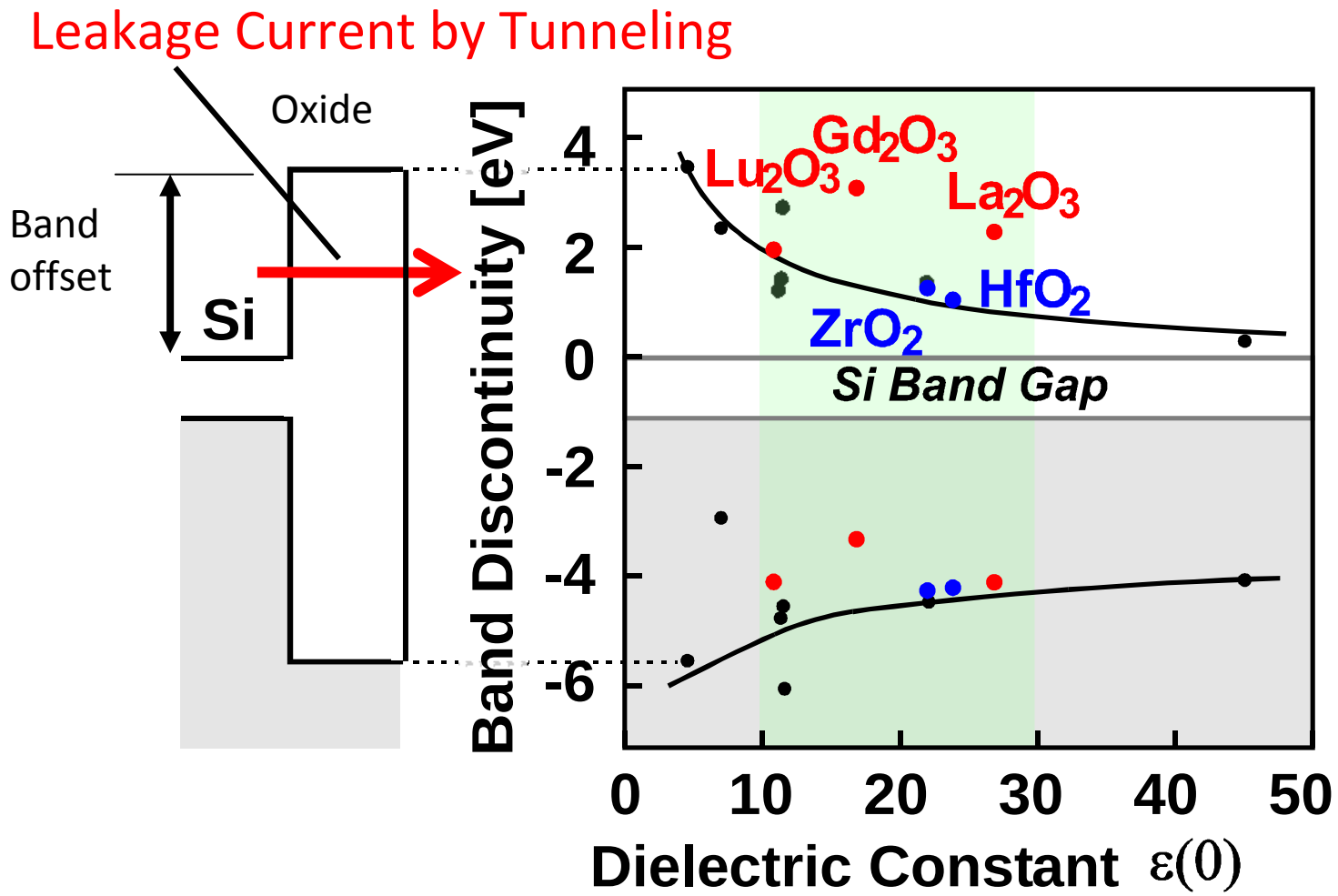


HfO_2 based dielectrics are selected as the first generation materials, because of their merit in
1) band-offset,
2) dielectric constant
3) thermal stability

La_2O_3 based dielectrics are thought to be the next generation materials, which may not need a thicker interfacial layer

R. Hauser, IEDM Short Course, 1999
Hubbard and Schlom, J Mater Res 11 2757 (1996)

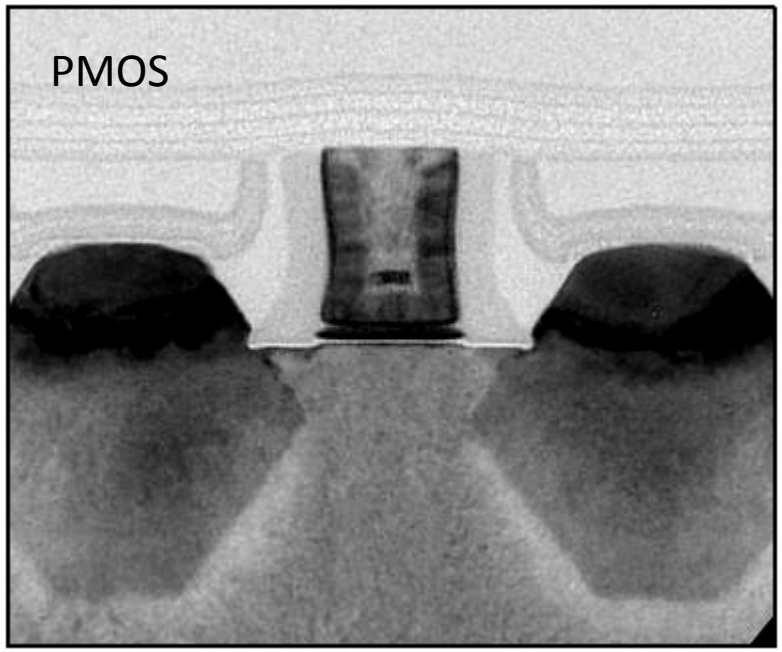
Conduction band offset vs. Dielectric Constant

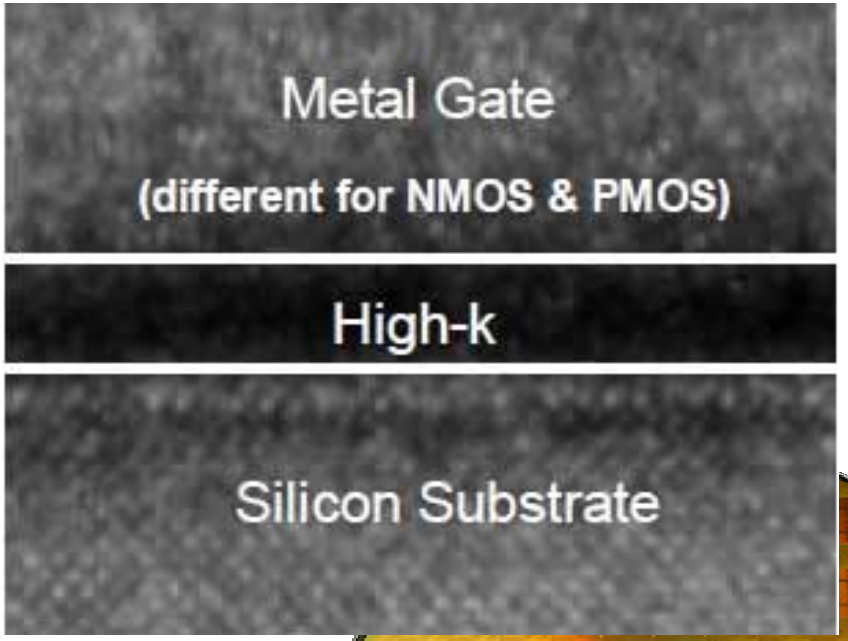


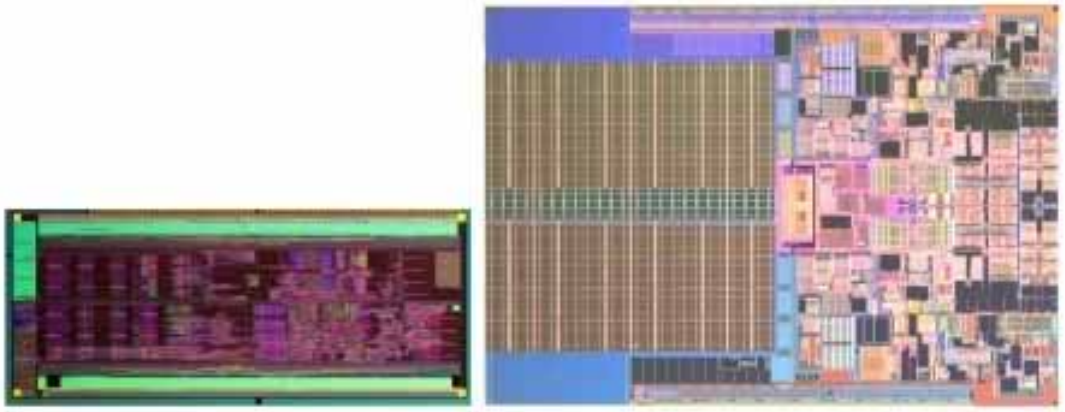
XPS measurement by Prof. T. Hattori, INFOS 2003

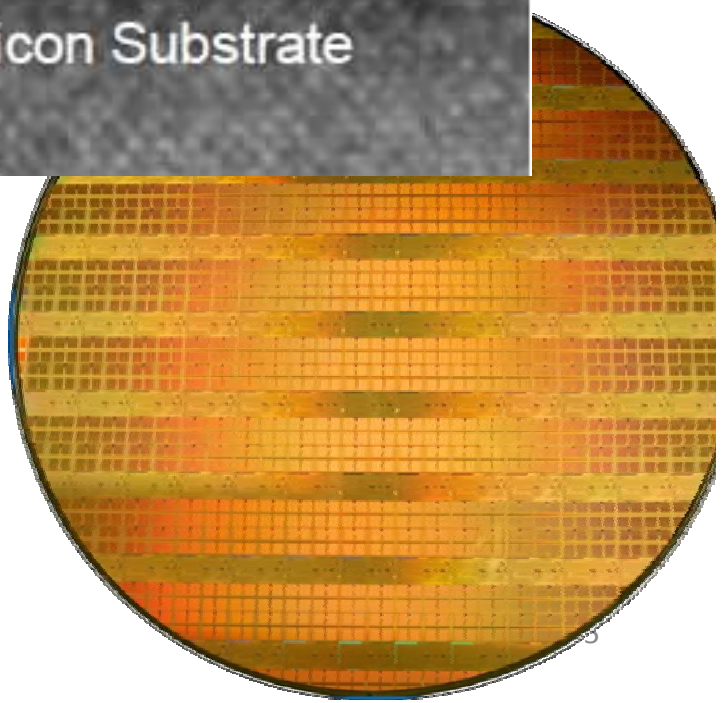
High-k gate insulator MOSFETs for Intel: EOT=1nm

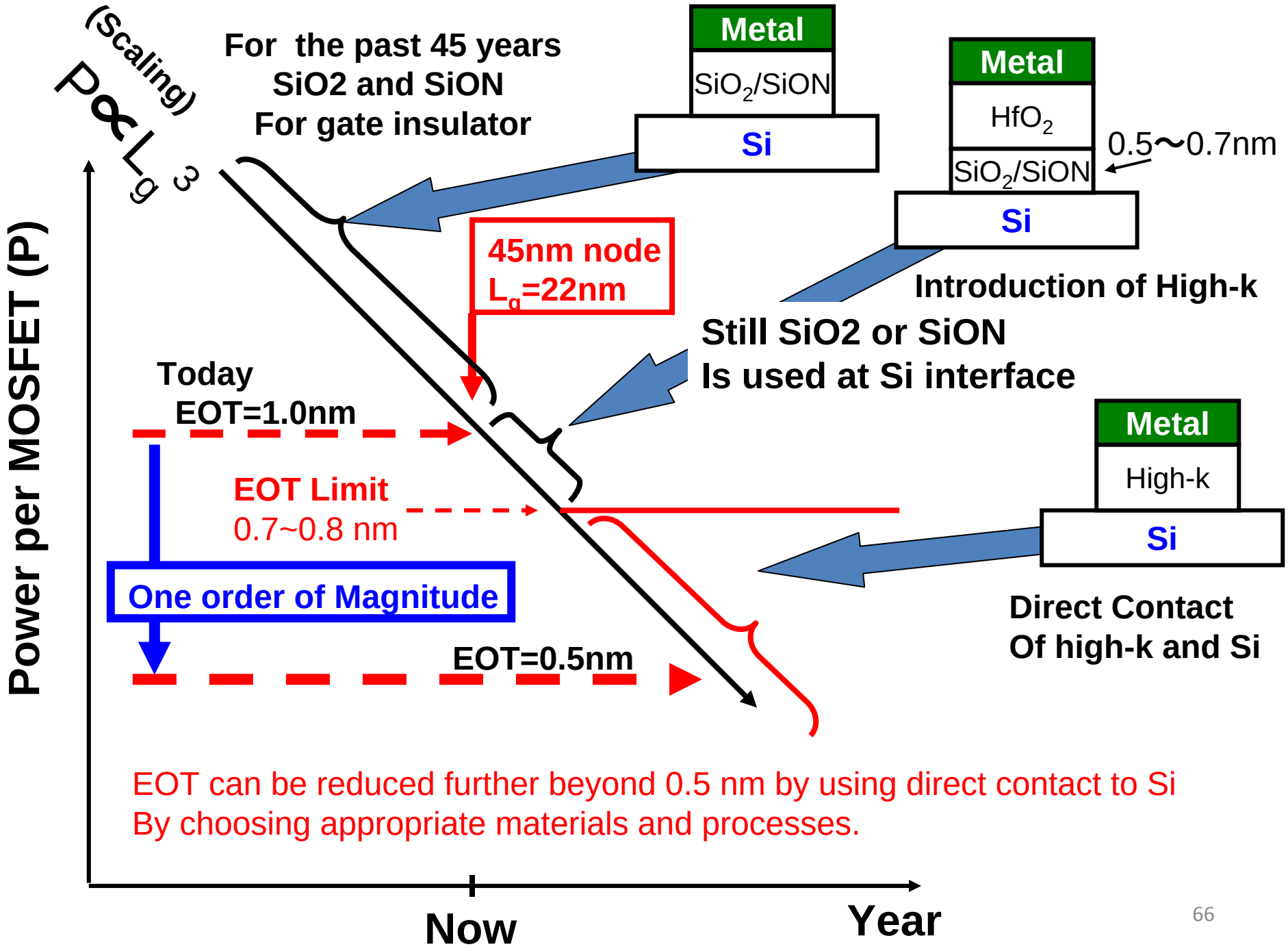
EOT: Equivalent Oxide Thickness



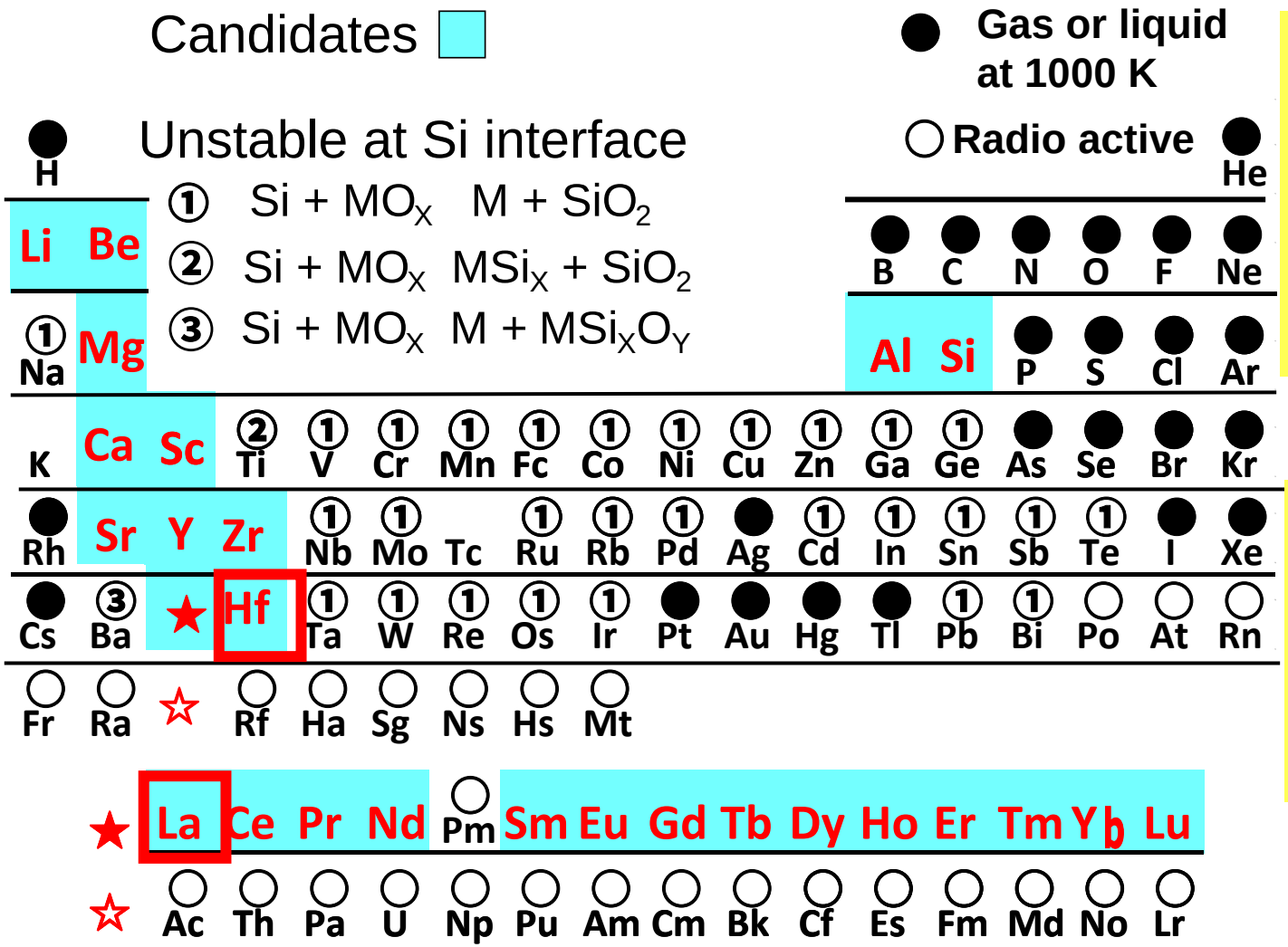







(scaling)
$P \propto L_g^3$
For the past 45 years
SiO2 and SiON
For gate insulator
Metal
SiO_2/SiON
Si
Metal
HfO_2
SiO_2/SiON
Si
0.5~0.7nm
45nm node
L_g=22nm
Introduction of High-k
Still SiO2 or SiON
Is used at Si interface
Today
EOT=1.0nm
EOT Limit
0.7~0.8 nm
One order of Magnitude
EOT=0.5nm
Metal
High-k
Si
Direct Contact
Of high-k and Si
Power per MOSFET (P)
Now
Year
EOT can be reduced further beyond 0.5 nm by using direct contact to Si
By choosing appropriate materials and processes.

Choice of High-k elements for oxide

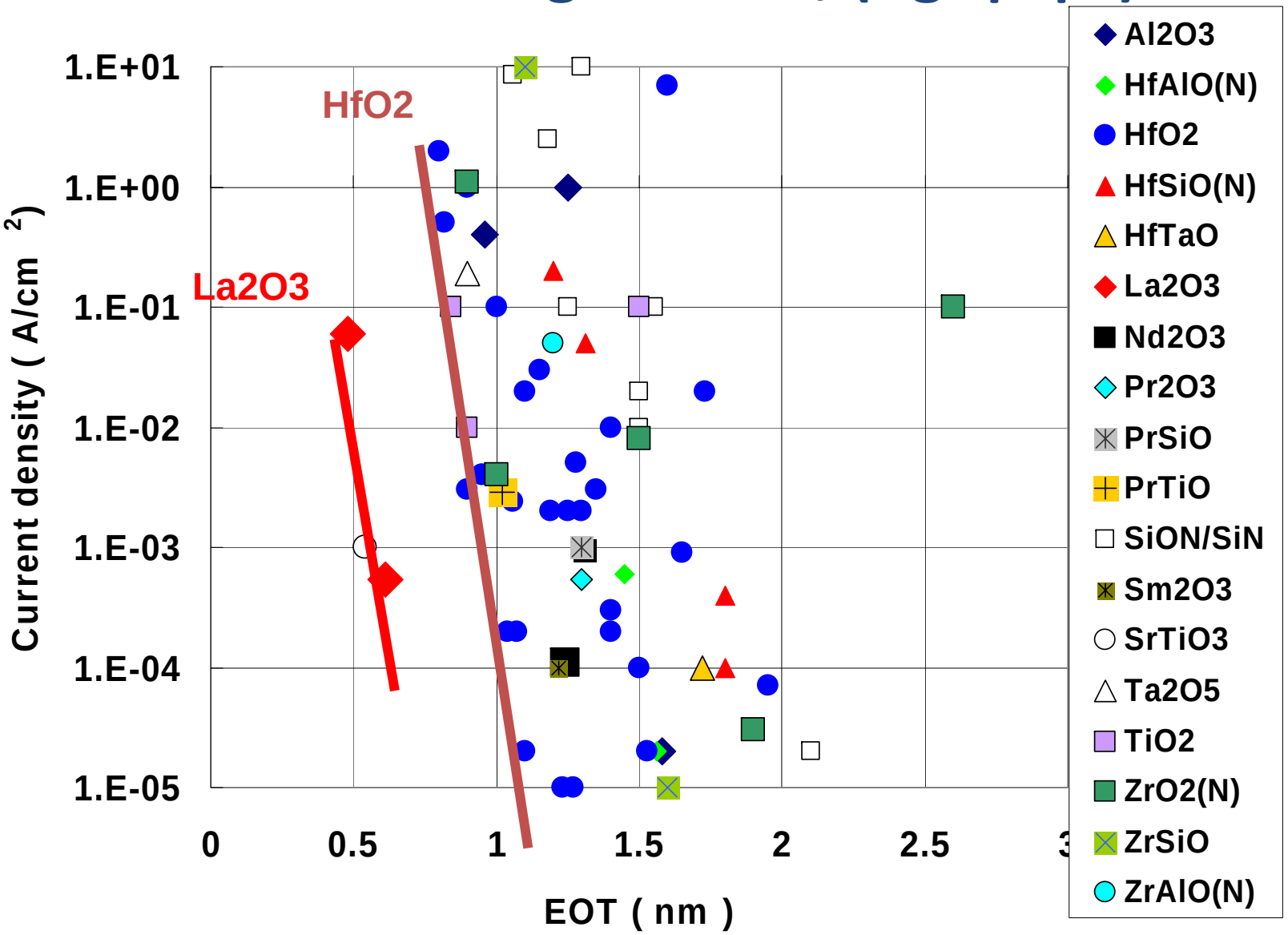


HfO_2 based dielectrics are selected as the first generation materials, because of their merit in
1) band-offset,
2) dielectric constant
3) thermal stability

La_2O_3 based dielectrics are thought to be the next generation materials, which may not need a thicker interfacial layer

R. Hauser, IEDM Short Course, 1999
Hubbard and Schlom, J Mater Res 11 2757 (1996)

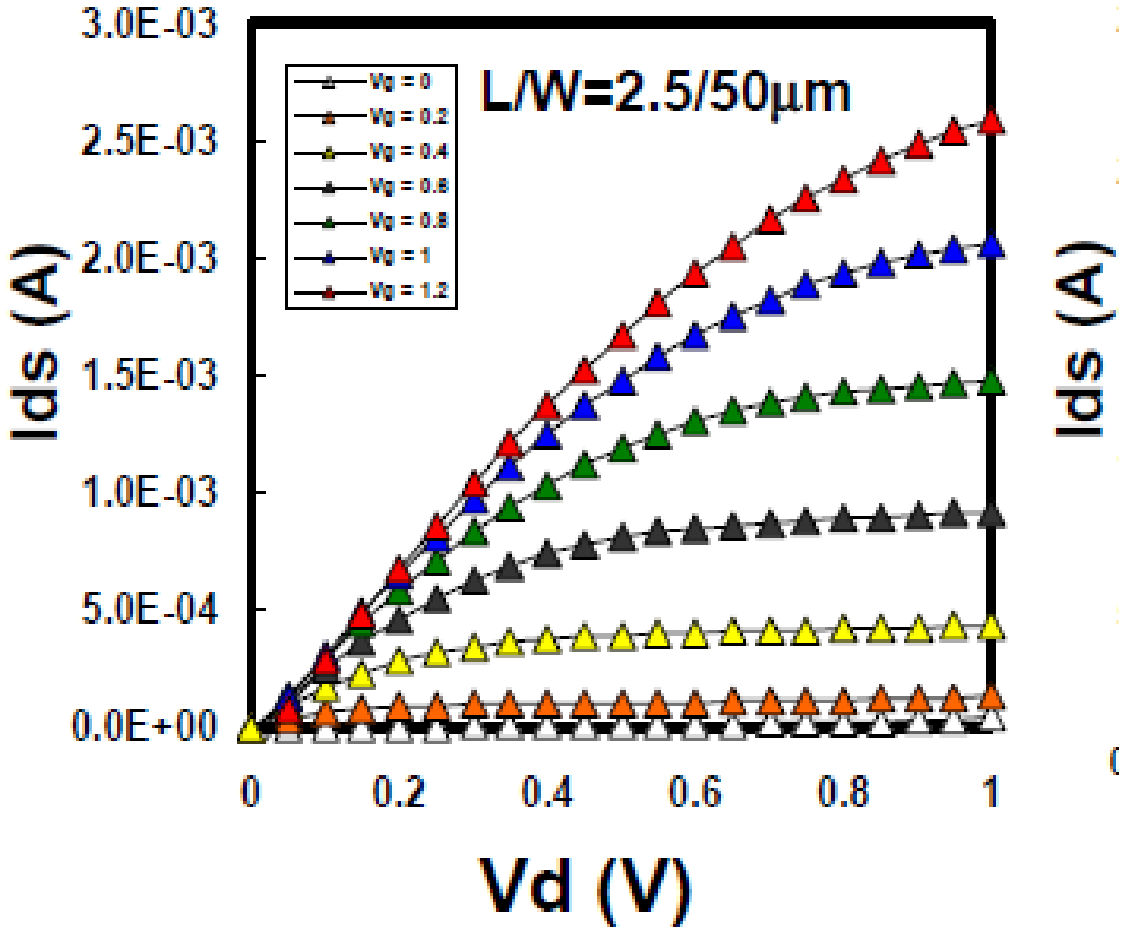
Gate Leakage vs EOT, (Vg=|1|V)



EOT = 0.48 nm

Our results

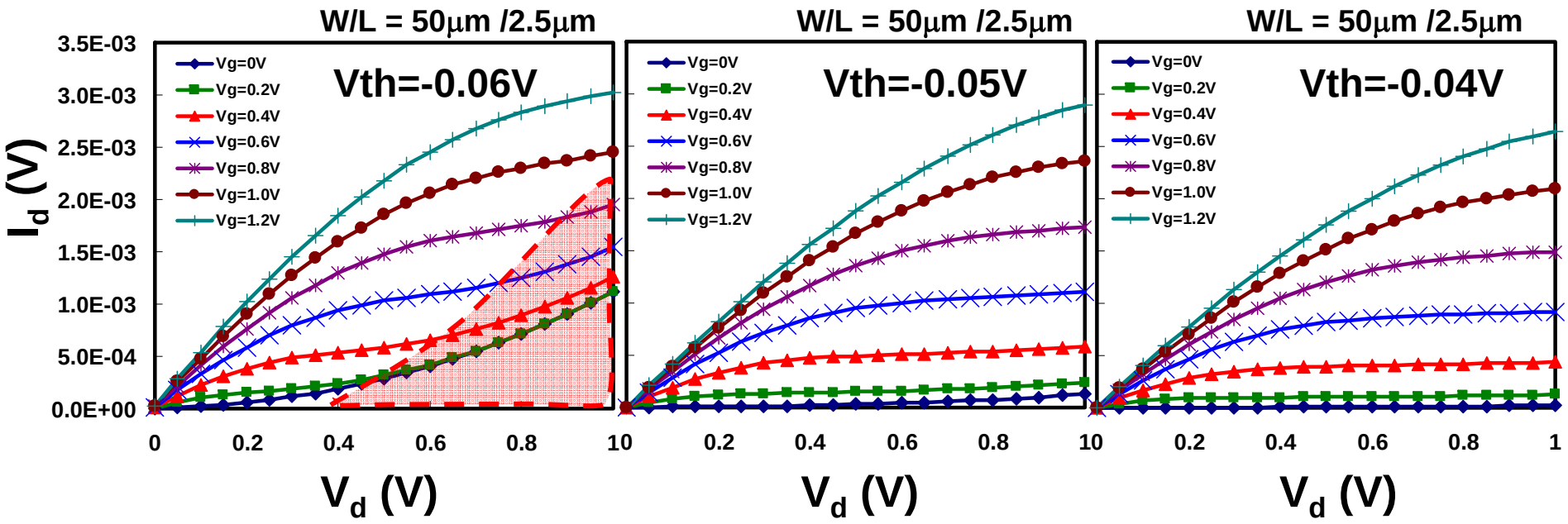
Transistor with La2O3 gate insulator



EOT=0.37nm

La2O3

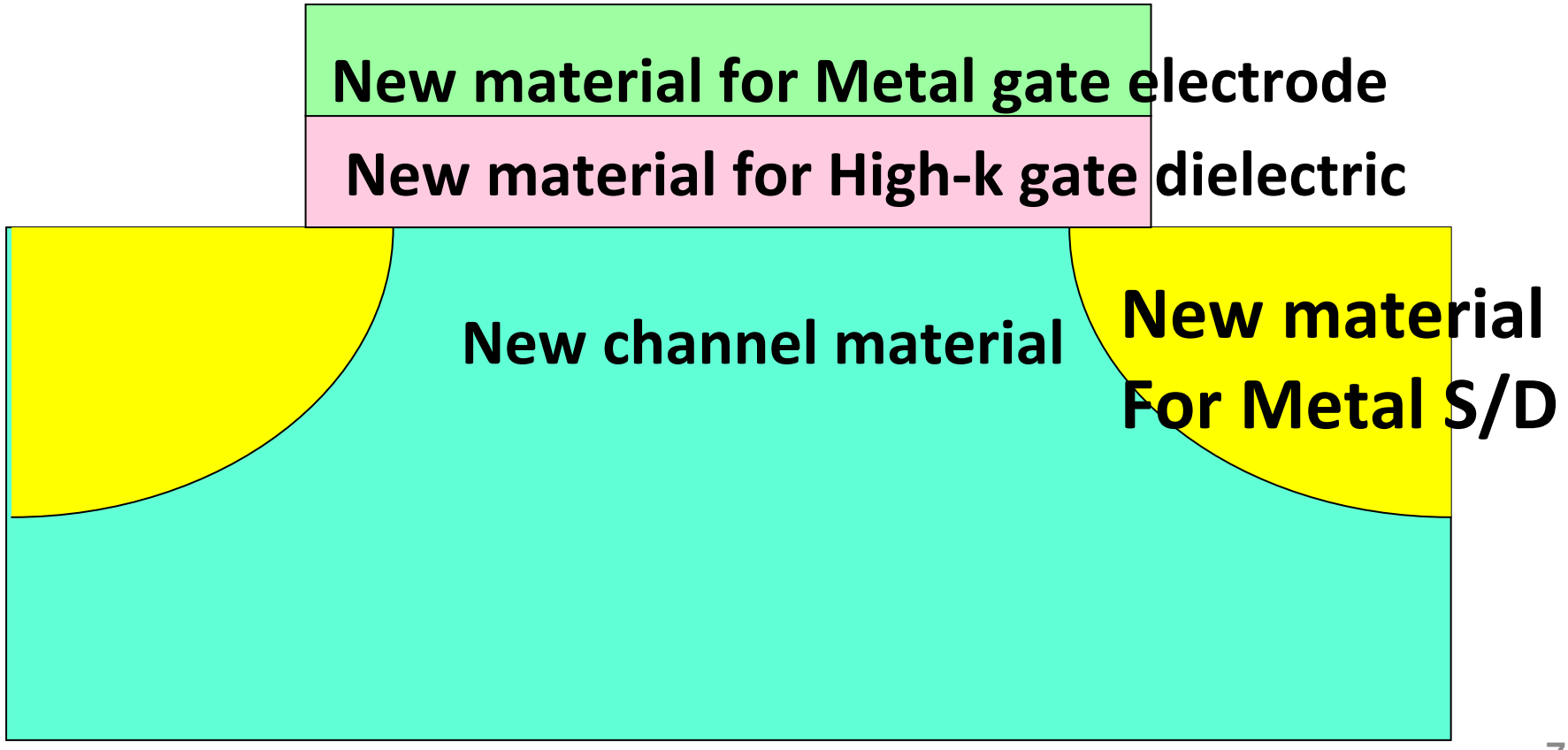
EOT=0.37nm EOT=0.40nm EOT=0.48nm



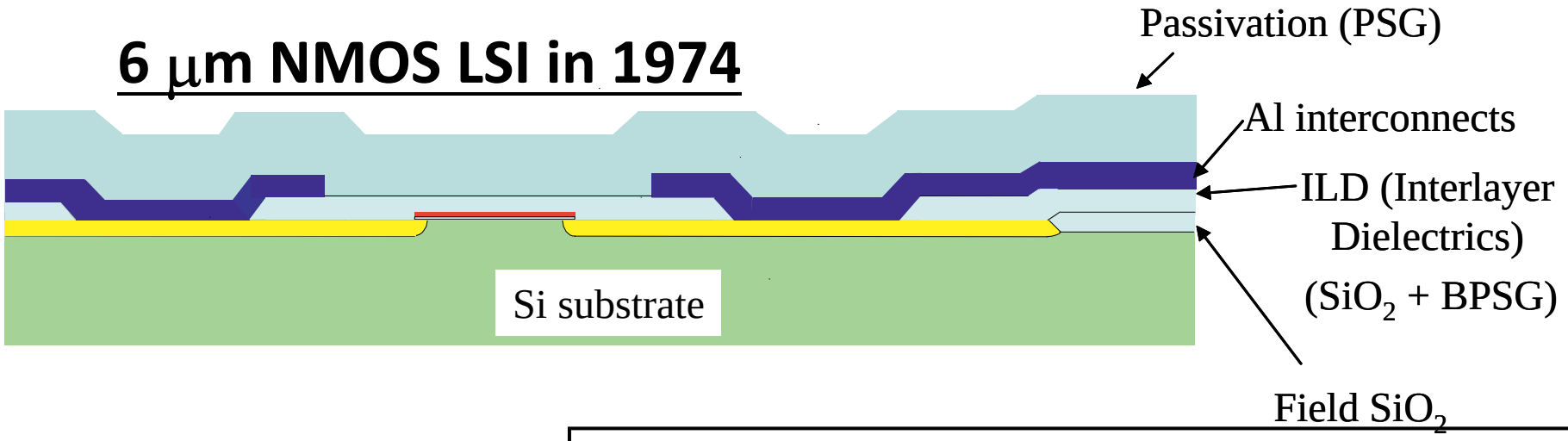
0.48 →0.37nm Increase of Id at 30%

New material research will give us many future possibilities and the most important for Nano-CMOS!

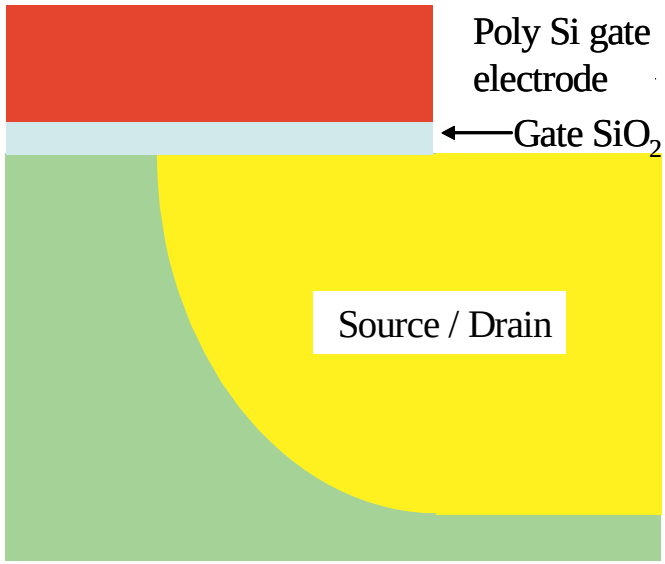
Not only for high-k!



6 μm NMOS LSI in 1974



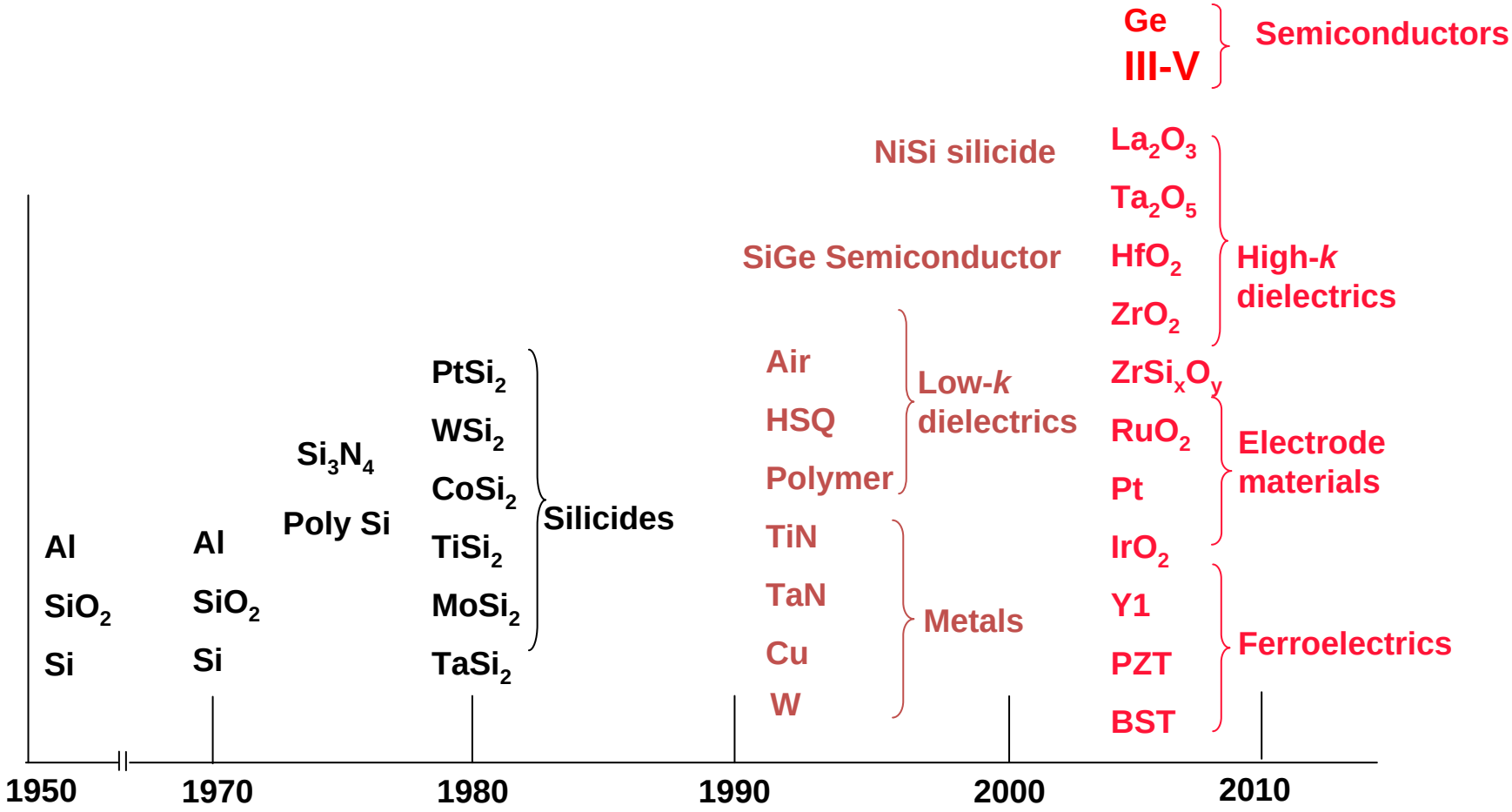
magnification



Layers	Materials	Atoms
1. Si substrate	1. Si	1. Si
2. Field oxide	2. SiO_2	2. O
3. Gate oxide	3. BPSG	3. P
4. Poly Si	4. Al	4. B
5. S/D	5. PSG	5. Al
6. Interlayer		(H, N, Cl)
7. Aluminum		
8. Passivation		

New materials

Just examples!
Many other candidates



Y. Nishi, Si Nano Workshop, 2006,

(S. Sze, Based on invited talk at Stanford Univ., Aug. 1999)

Now: After 45 Years from the 1st single MOSFETs

32 Gb and 16Gb NAND, SAMSUNG

NAND flash trend

Capacity	Node	1st Fabrication	Production
512Mbit	120nm	2000	2001
1Gbit	100nm	2001	2002
2Gbit	90nm	2002	2003
4Gbit	70nm	2003	2004
8Gbit	60nm	2004	2005
16Gbit	50nm	2005	2006
32Gbit	40nm	2006	2008

Even Tbit would be possible in future!

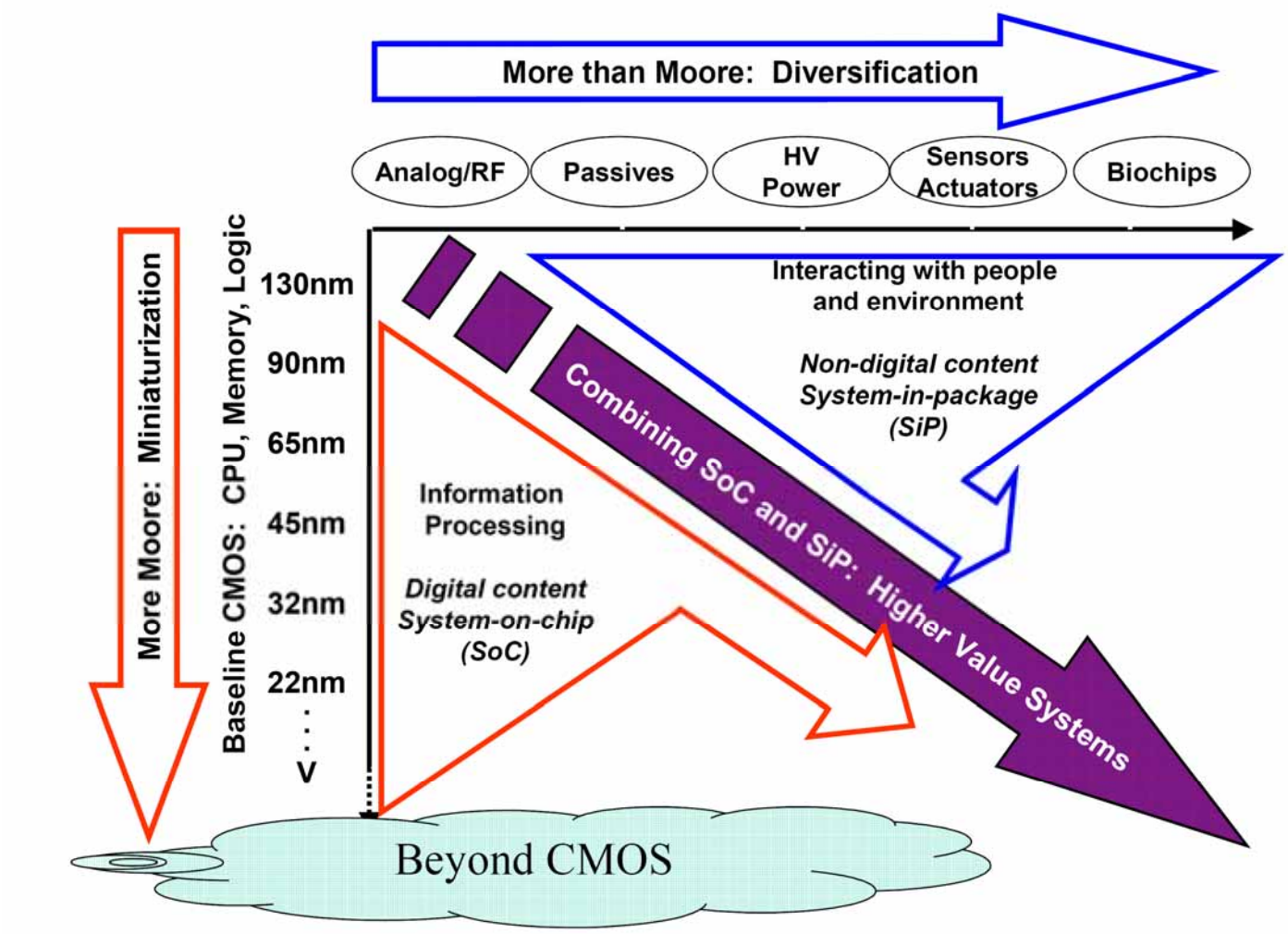
Already 32 Gbit:

larger than that of world population
comparable for the numbers of neurons
in human brain

256Gbit: larger than those of # of stars in galaxies

More Moore and More than Moore

Moore's Law & More

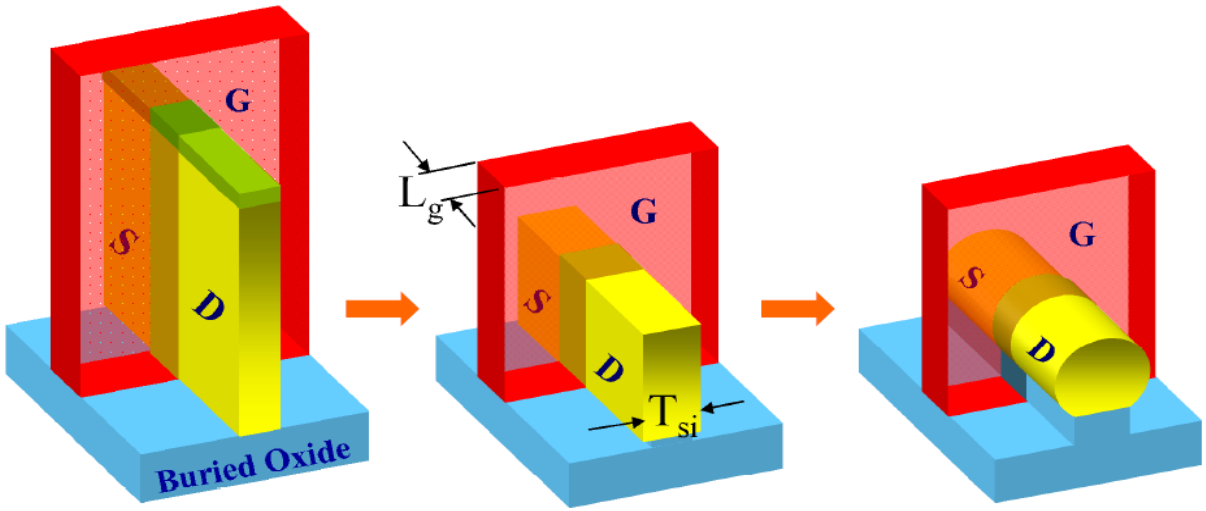


Question what is the other side of the cloud?

ITRS 2005 Edition

http://strj-jeita.elisasp.net/pdf_ws_2005nendo/9A_WS2005IRC_Ishiuchi.pdf

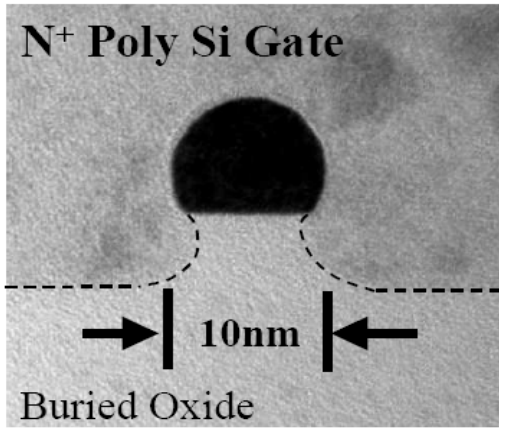
FinFET to Nanowire

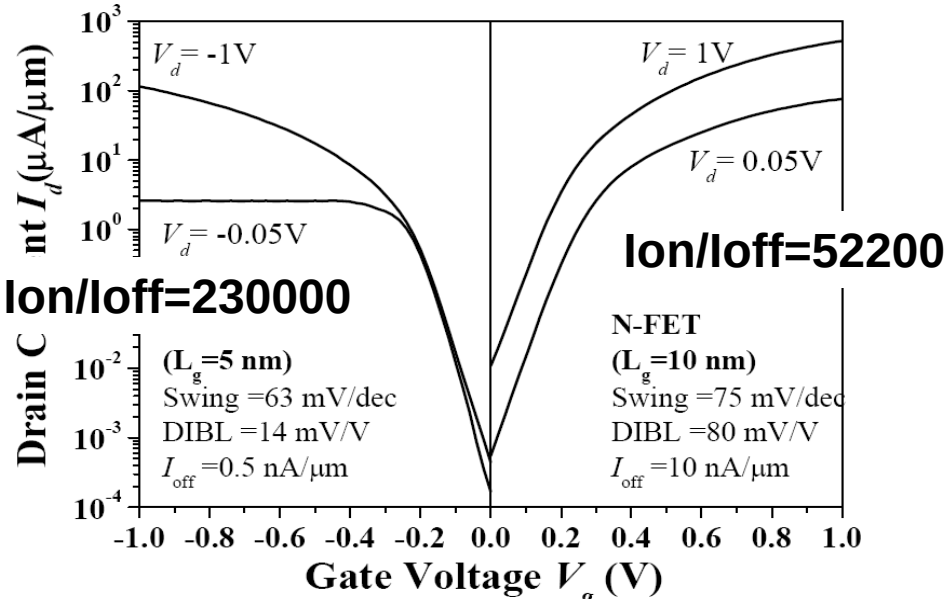


Double-Gate FinFET ($T_{si} = {}^{2}/_{3}\, L_g$)

Omega FinFET ($T_{si} = L_g$)

Nanowire FinFET ($T_{si} = 2L_g$)





Channel conductance is well controlled by Gate even at L=5nm

F.-L.Yang, VLSI2004

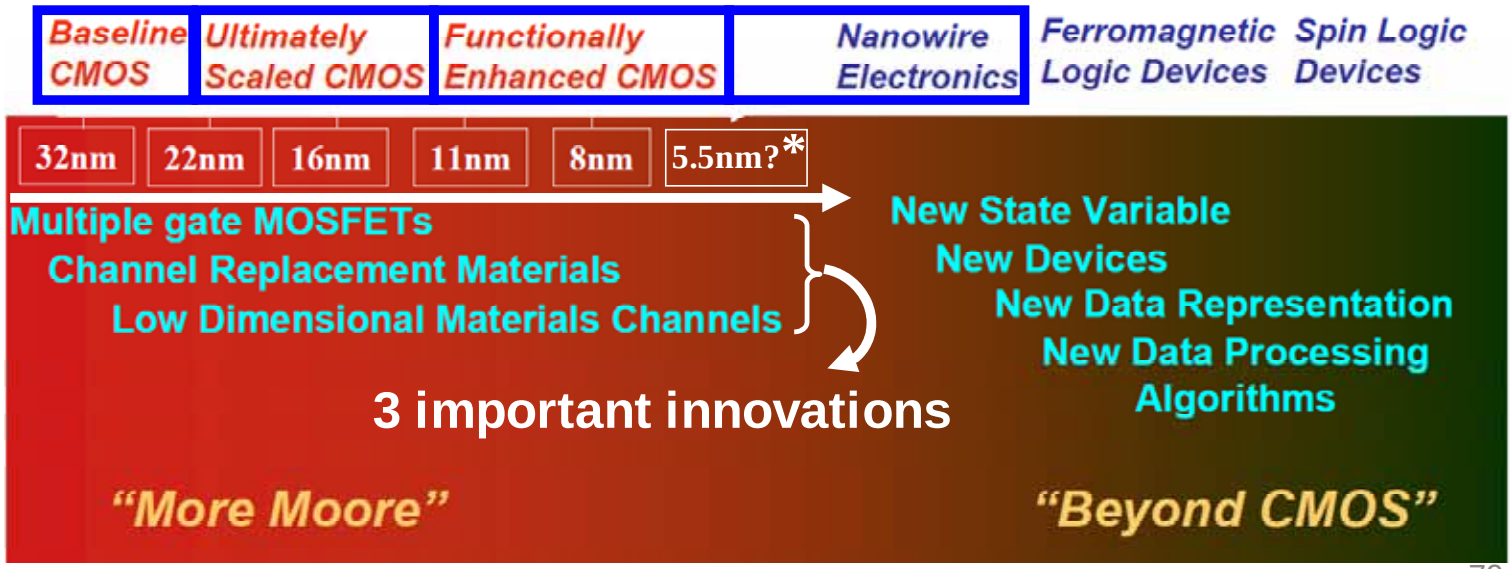
-There will be still 4~6 cycles (or technology generations) left until we reach 11 ~ 5.5 nm technologies, at which we will reach down-scaling limit, in some year between 2020-30 (H. Iwai, IWJT2008).

-Even After reaching the down-scaling limit, we could still continue R & D, seeking sufficiently higher Id-sat under low Vdd.

-Two candidates have emerged for R & D

1. Nanowire/tube MOSFETs
2. Alternative channel MOSFETs (III-V, Ge)

- Other Beyond CMOS devices are still in the cloud.



ITRS figure edited by Iwai

Source: 2008 ITRS Summer Public Conf.

***5.5nm? was added by Iwai**

79

Si nanowire FET with Semi-1D Ballistic Transport

Merit of Si-nanowire

Source: Y. Lee., T. Nagata., K. Kakushima., K. Shiraishi, and H. Iwai, IWDTF 2008, Tokyo, November, 2008

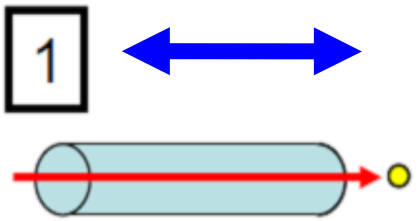
Trade off

Carrier scattering probability

Small **Large**

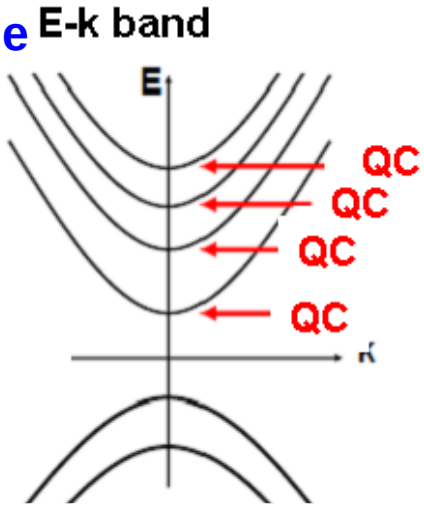
# of quantum channel

Small **Large**

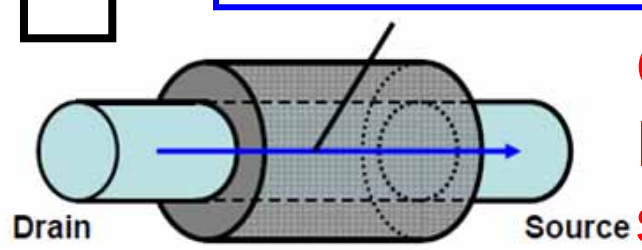


High Conduction (1D)

Go=77.8μS/wire



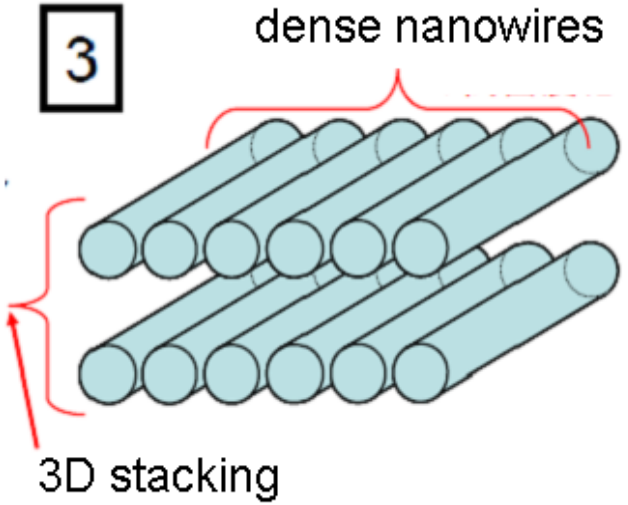
Multiple quantum channel (QC) used for conduction



Reduction in Ioff (Isd-leak)

Good control of Isd-leak by surrounding gate

Increase in Ion (Id-sat)



High-density lateral and vertical integration

Source: T. Ohno, K. Shiraishi, and T. Ogawa, Phys. Rev. Lett. ,1992

Selection of MOSFET structure for high conduction:
Nano-wire or Nano-tube FETs is promising

3 methods to realize High-conduction at Low voltage

M1. Use 1D ballistic conduction

M2. Increase number of quantum channel

M3. Increase the number of wire or tube per area
3D integration of wire and tubes

For suppression of Ioff, the Nanowire/tube is also good.

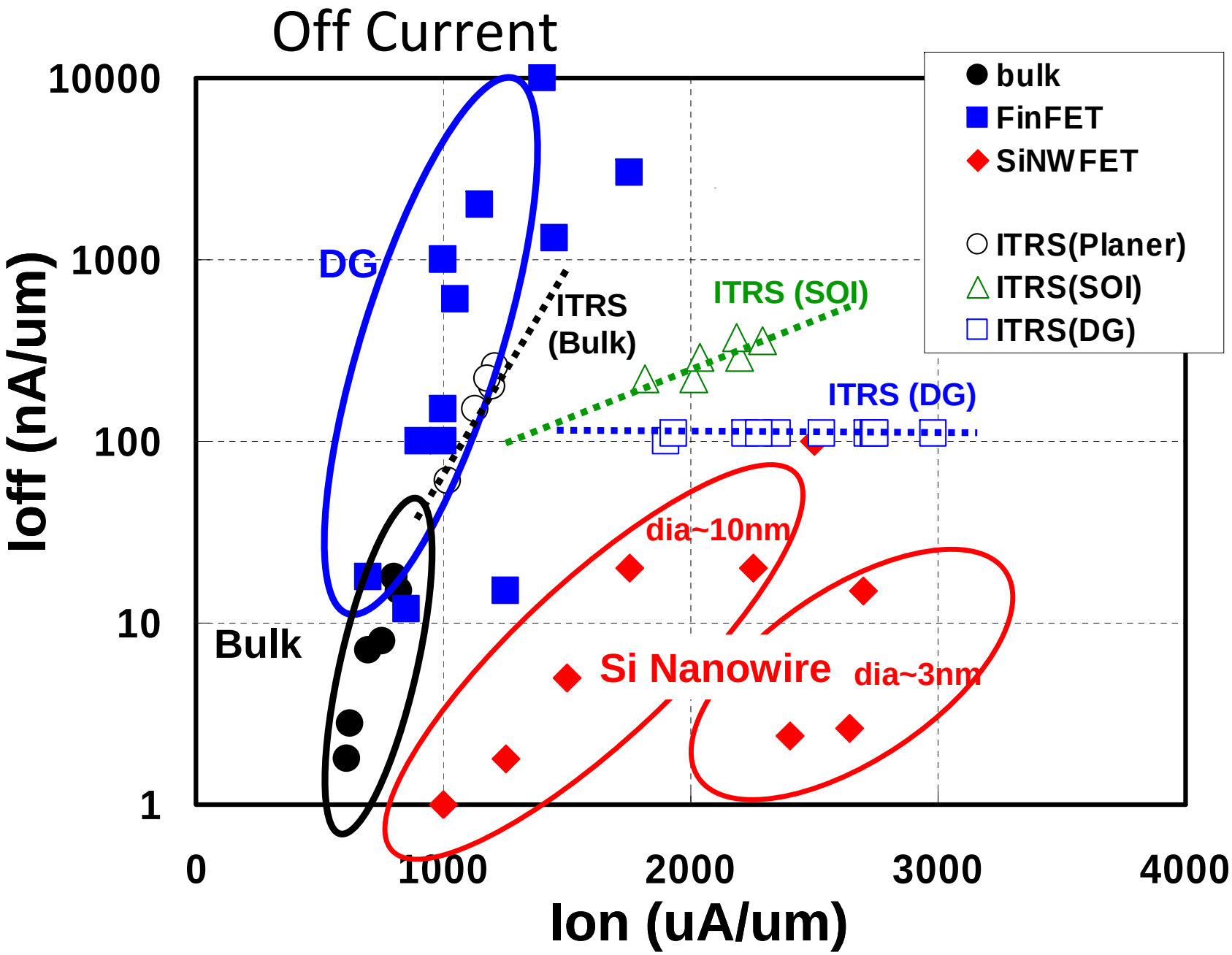
1D conduction per one quantum channel:

$G = 2e^2/h = 77.8\ \mu S$/wire or tube

regardless of gate length and channel material

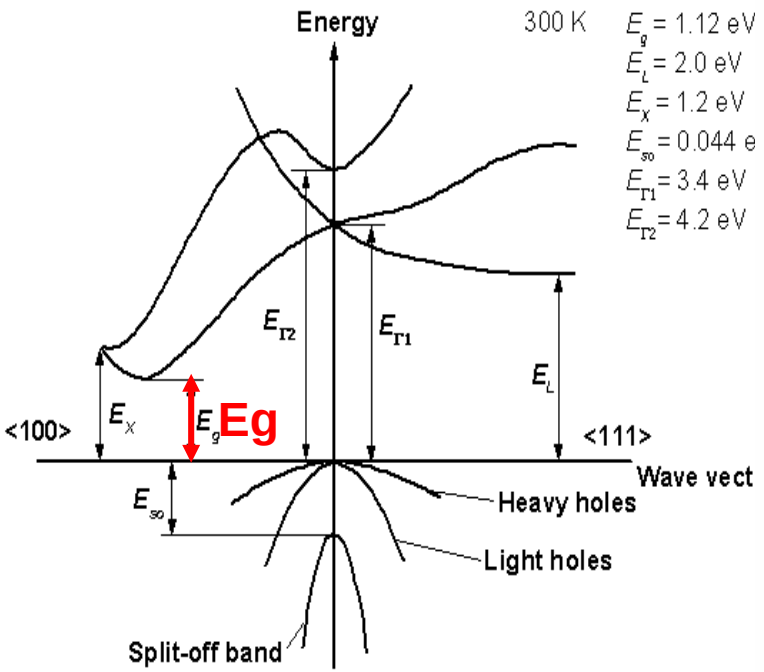
That is 77.8 μA/wire at 1V supply

This an extremely high value

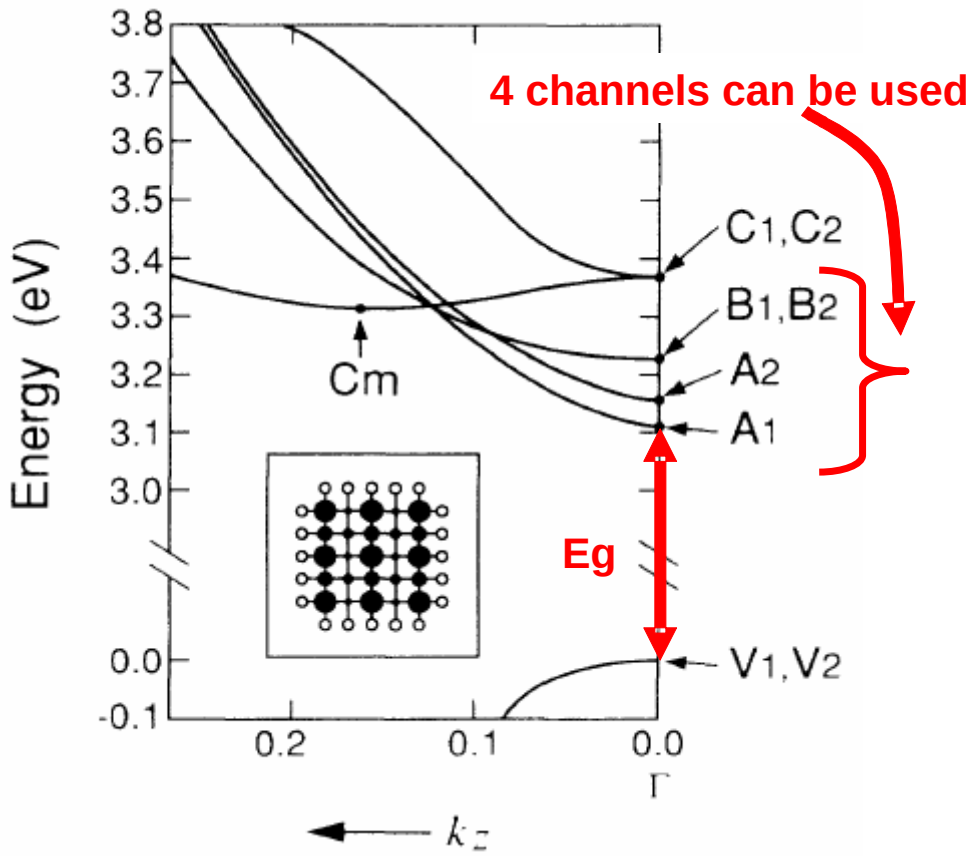

Off Current
10000
1000
100
10
1
Ioff (nA/um)
0
1000
2000
3000
4000
Ion (uA/um)
bulk
FinFET
SiNWFET
ITRS(Planer)
ITRS(SOI)
ITRS(DG)
DG
ITRS
(Bulk)
ITRS (SOI)
ITRS (DG)
dia~10nm
Bulk
Si Nanowire
dia~3nm

Increase the Number of quantum channels

By Prof. Shiraishi of Tsukuba univ.



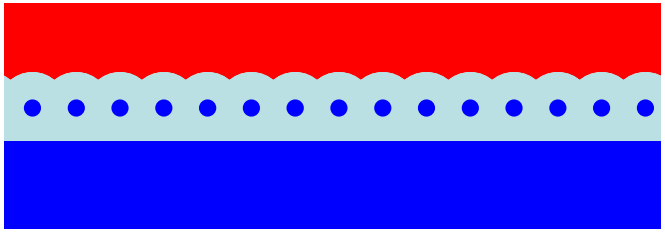
Energy band of Bulk Si



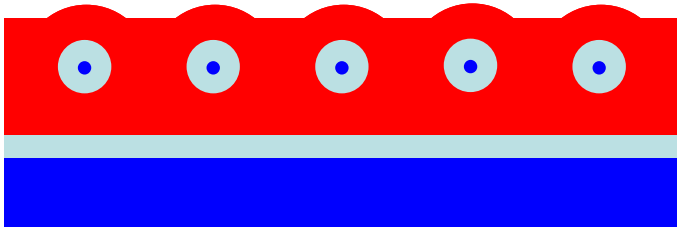
Energy band of 3 x 3 Si wire

Maximum number of wires per 1 μm

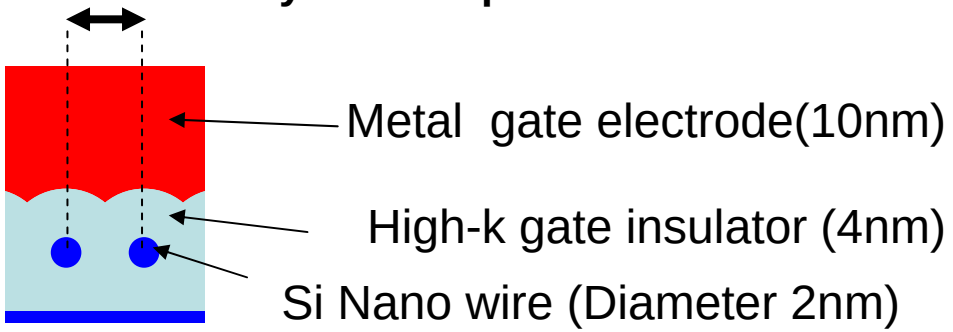
Front gate type MOS 165 wires /μm

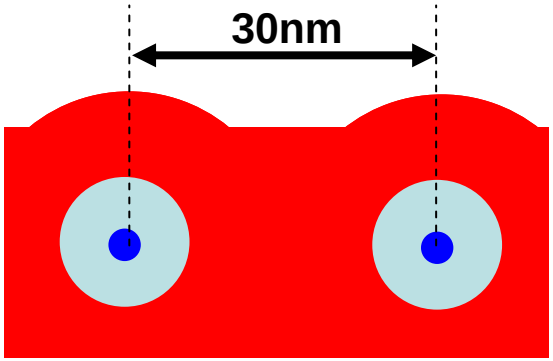


Surrounded gate type MOS 33 wires/μm

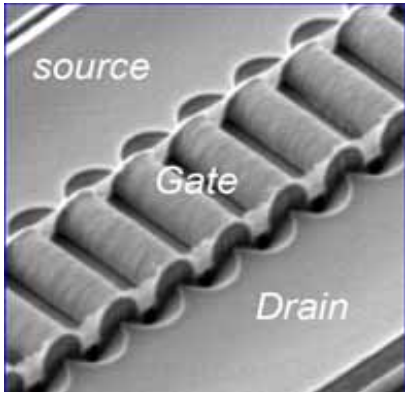


6nm pitch
By nano-imprint method



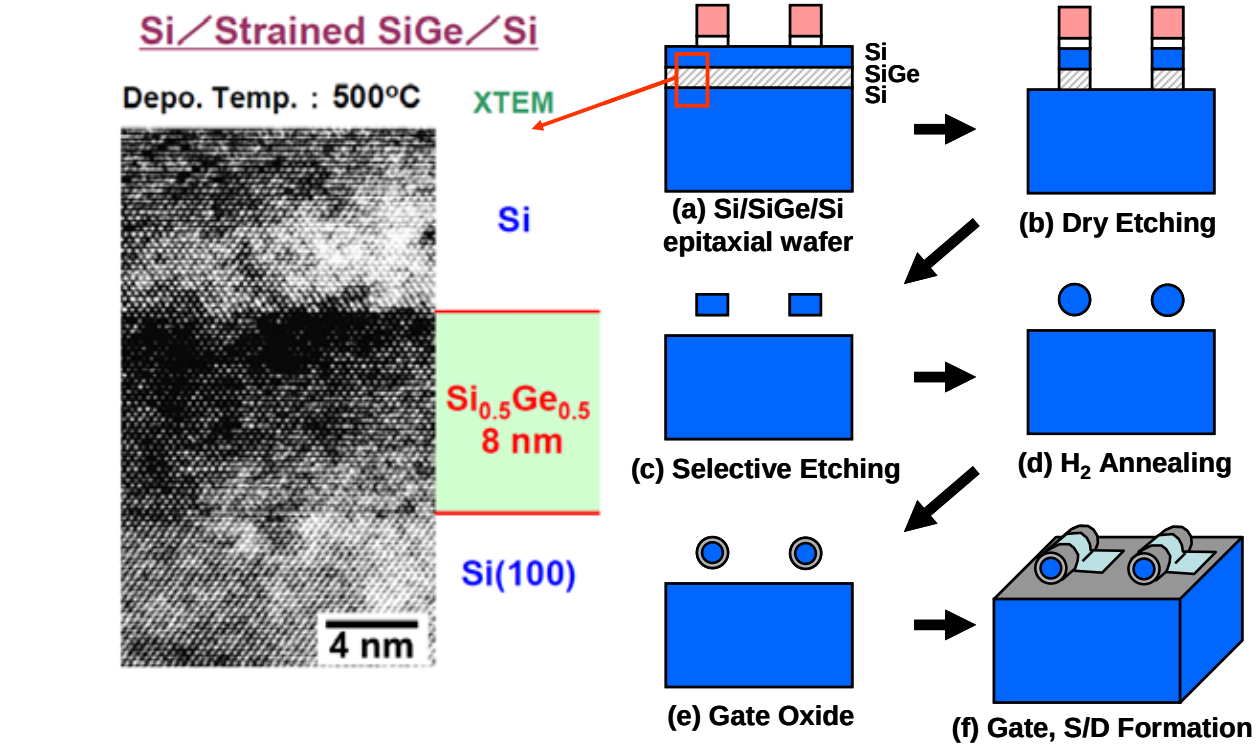


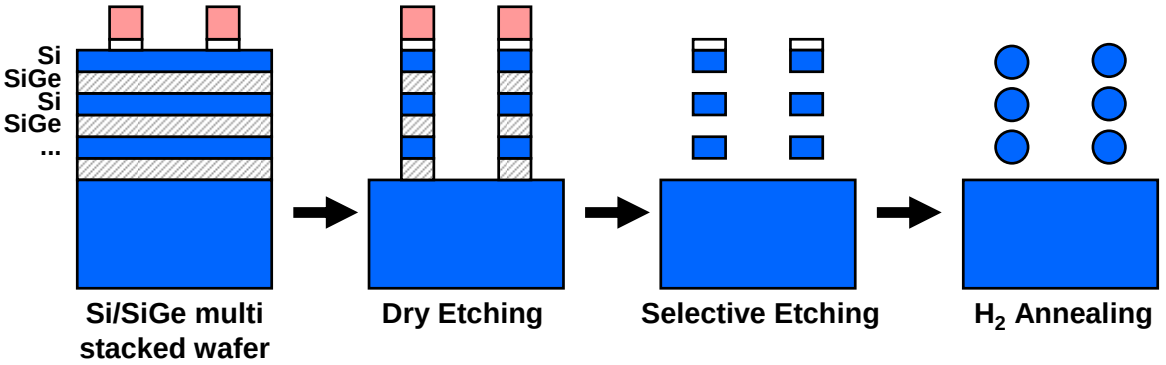
30nm pitch:
EUV lithograpy

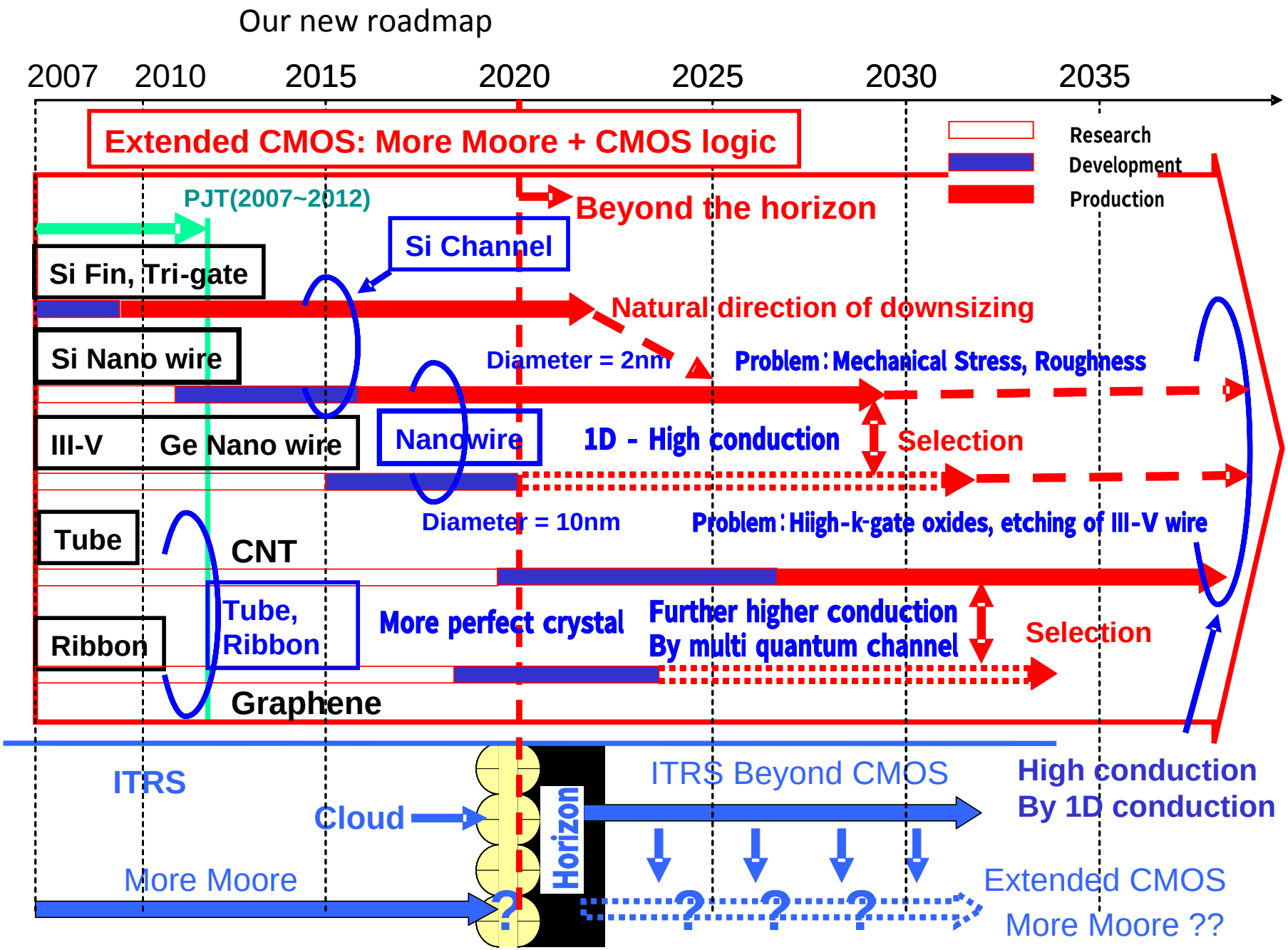


Surrounded gate MOS

Increase the number of wires towards vertical dimension

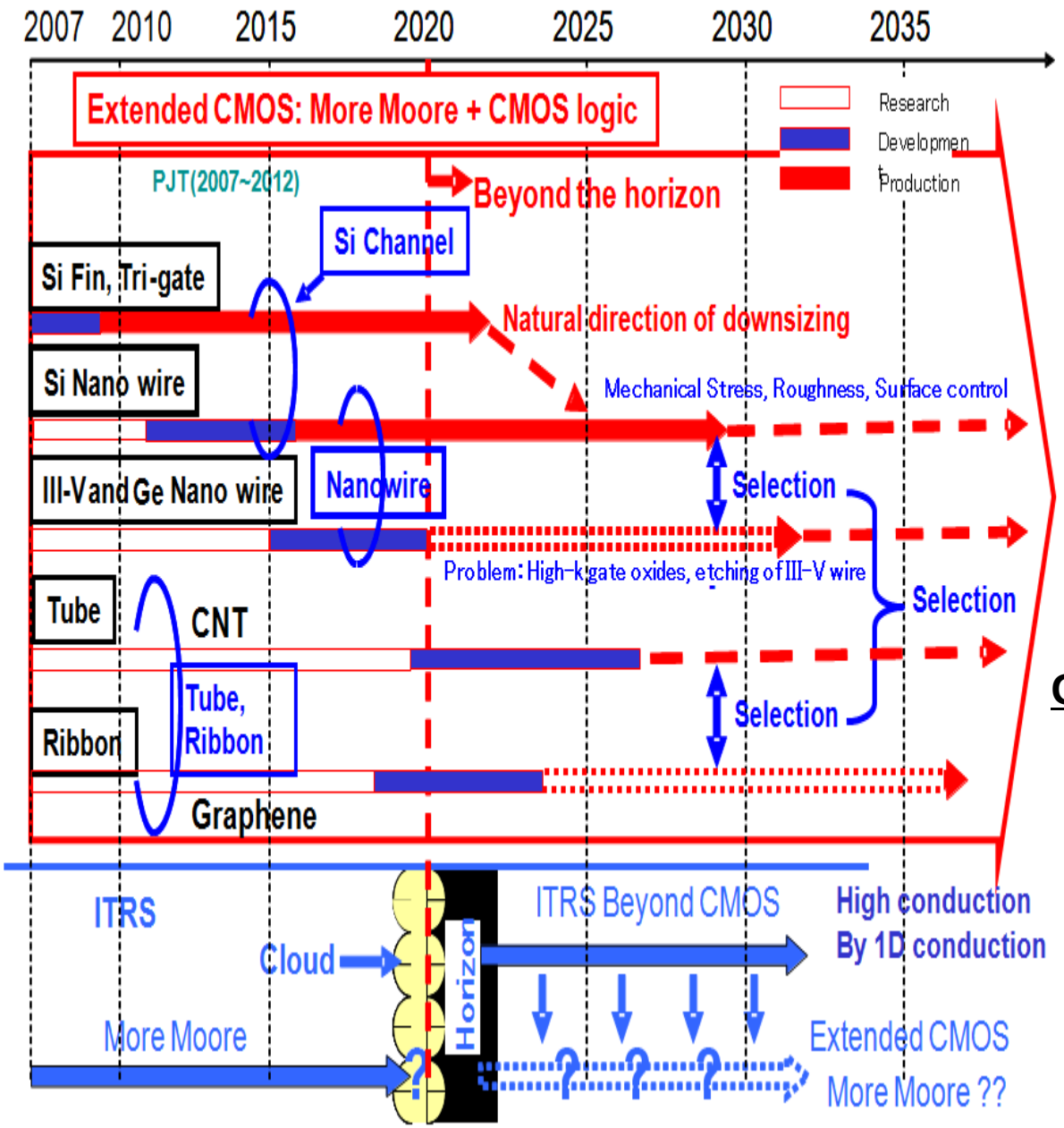





Our new roadmap
2007
2010
2015
2020
2025
2030
2035
Extended CMOS: More Moore + CMOS logic
Research
Development
Production
PJT(2007~2012)
Beyond the horizon
Si Channel
Si Fin, Tri-gate
Natural direction of downsizing
Si Nano wire
Diameter = 2nm
Problem : Mechanical Stress, Roughness
III-V
Ge Nano wire
Nanowire
1D - High conduction
Selection
Diameter = 10nm
Problem : Hiigh-k-gate oxides, etching of III-V wire
Tube
CNT
Tube,
Ribbon
Ribbon
More perfect crystal
Further higher conduction
By multi quantum channel
Selection
Graphene
ITRS
Cloud
Horizon
ITRS Beyond CMOS
High conduction
By 1D conduction
More Moore
?
?
?
?
Extended CMOS
More Moore ??

Our roadmap for R &D

Source: H. Iwai, IWJT 2008



Current Issues

Si Nanowire

Control of wire surface property

Source Drain contact

Optimization of wire diameter

Compact I-V model

III-V & Ge Nanowire

High-k gate insulator

Wire formation technique

CNT:

Growth and integration of CNT

Width and Chirality control

Chirality determines conduction types: metal or semiconductor

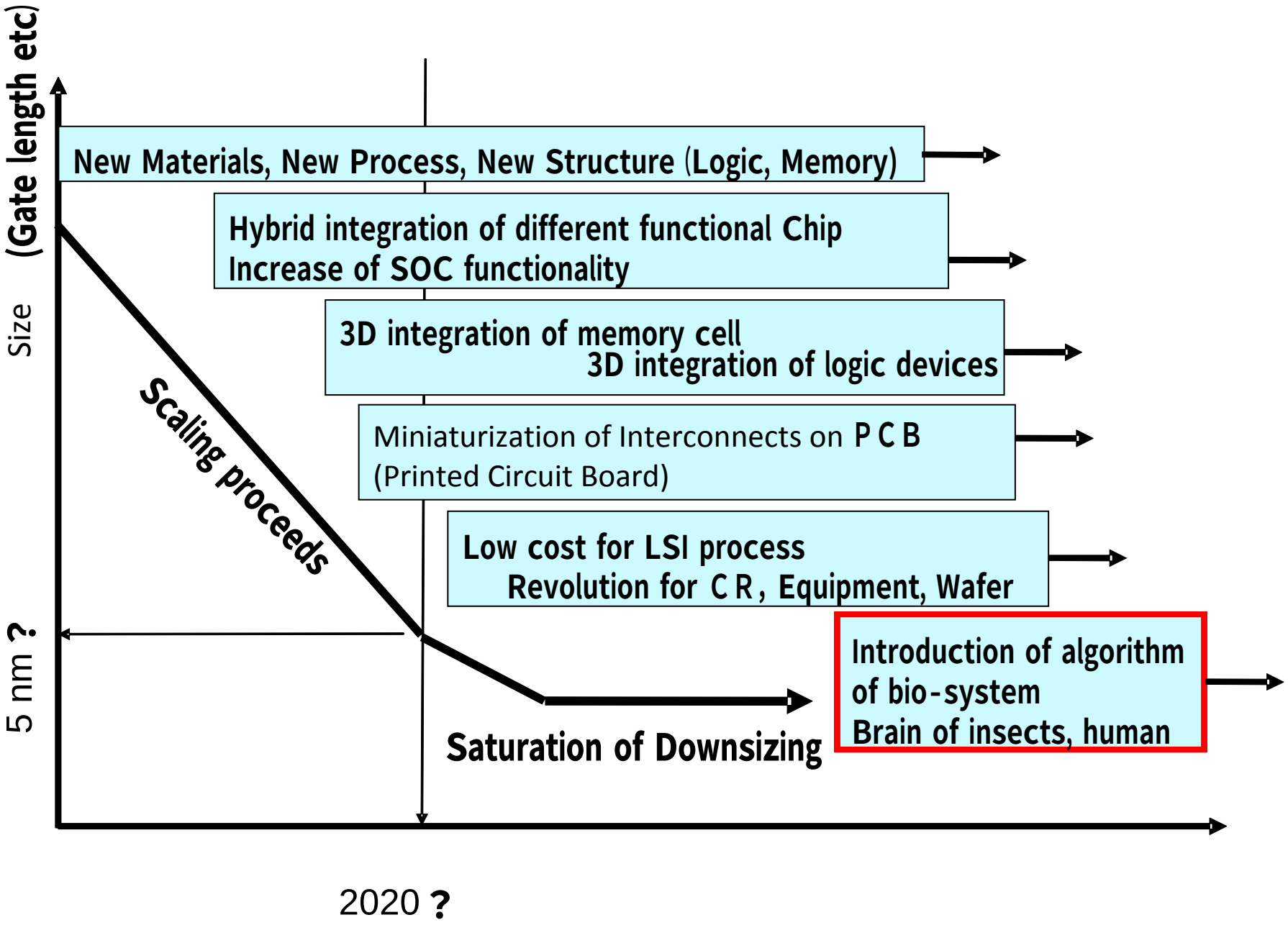
Graphene:

Graphene formation technique

Suppression of off-current

Very small bandgap or no bandgap (semi-metal)

Control of ribbon edge structure which affects bandgap


(Gate length etc)
Size
New Materials, New Process, New Structure (Logic, Memory)
Hybrid integration of different functional Chip
Increase of SOC functionality
3D integration of memory cell
3D integration of logic devices
Miniaturization of Interconnects on P C B
(Printed Circuit Board)
Low cost for LSI process
Revolution for C R, Equipment, Wafer
Introduction of algorithm
of bio-system
Brain of insects, human
Scaling proceeds
Saturation of Downsizing
5 nm ?
2020 ?

Brain

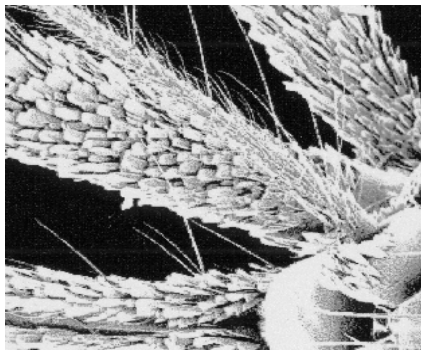
Ultra small volume
Small number of neuron cells
Extremely low power

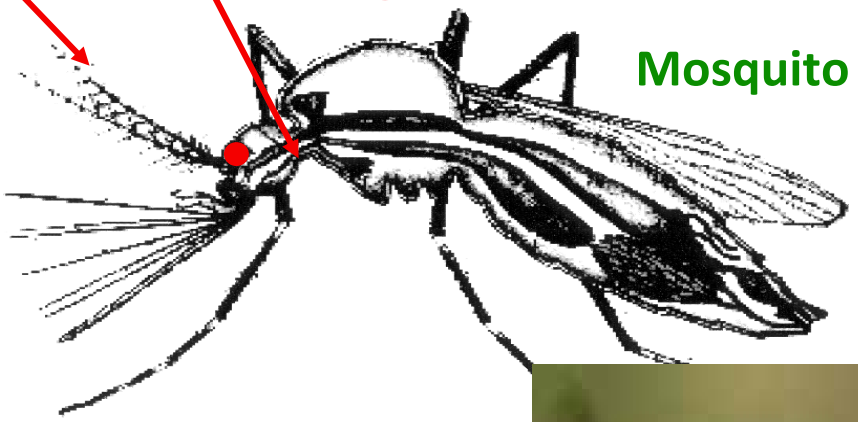
Sensor

Infrared
Humidity
CO_2

Real time image processing
(Artificial) Intelligence
3D flight control

Mosquito





System and Algorism becomes more important!

But do not know how?

Dragonfly is further high performance

Thank you
for your attention!